

2019年度 授業概要(シラバス)



山陽学園大学
看護学部

2019(平成31)年度 授業概要(シラバス)

— 山陽学園大学 —

看護学部
看護学科

◇ 目次	1	~	2
◇ (共通教育科目)	3	~	18
◇ (専門教育科目)	19	~	60
◇ (免許・資格等に関する科目) ・教職科目	61	~	66

※ 履修系統図はホームページに掲載しています。
本学ホームページ > 学生支援 > 講義・シラバス・履修系統図
<http://www.sguc.ac.jp/student/syllabus>

シラバスについて

「シラバス」には、今年度開講する授業科目名や担当教員、学習内容について記載されています。各項目の内容は次のとおりです。

授業科目名 ①		担当者 ②	
単位数 ③	単位	開講期 ④	区分 ⑤
		配当年次 ⑥	
【授業概要】 ⑦ 【到達目標】 ⑧ 【予習・復習等準備学習の内容】 ⑨ 【留意事項】 ⑩ 【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験（レポート等含む）へのフィードバックの方法】 ⑪		【学習内容（各回の授業予定）】 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. ⑫ 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15.	
		【テキスト】 ⑬	
		【参考図書】 ⑭	

- ① 授業科目の名称。クラス分けや授業についての補足事項が併記されることもあります。
 - ② 担当する教員氏名。複数担当の場合は連名で記載しています。
 - ③ この授業科目によって修得することができる単位数。通年科目などはシラバスが2つに分かれています。単位数を合算しないよう注意してください。
 - ④ 開講する時期を記載しています。「前期」「後期」。集中講義の場合は「集中」など。
 - ⑤ 必修科目、選択科目といった科目の区分。
 - ⑥ 対象となる学科及び学年を記載。
 - ⑦ 授業科目の概要を記載しています。
 - ⑧ 授業のねらい、修得できる内容など。
 - ⑨ 履修するにあたっての準備学習などについて記載しています。
 - ⑩ 履修するにあたって留意すべきことを記載しています。
 - ⑪ 試験、レポート、小テスト等、どのような方法・基準をもって成績を評価するのかを記載。
 - ⑫ 各授業毎の学習内容。週1コマの授業であれば、15週分の授業内容を記載。
 - ⑬ 授業で使用する教科書(教材を含みます)。記載のある授業科目では受講の際に支障のないよう、教科書販売やブックセンターなどで入手してください。
 - ⑭ 学習の参考となる図書などを掲載。担当教員から適宜提示されることもあります。
- ※ 各授業科目の授業形態(講義・演習・実習等)については、「履修ガイド」を参照してください。

看護学部 看護学科

共通教育科目

＜山陽スタンダード＞	ページ数
知的生き方概論	3
人間学	3
＜教養科目＞	
哲学	4
心理学	4
人権教育	5
スポーツ科学A	5
スポーツ科学B	6
社会学	6
法学	7
日本国憲法	7
基礎経済学	8
文化人類学	8
環境論	9
自然科学基礎	9
生物学	10
日中交流史(日中関係史)	10
国際理解	11
生活の科学	11
児童福祉	12
ボランティア論	12
手話コミュニケーション	13
地域貢献	13
英語Ⅱ(英語表現)	14
英語Ⅲ(英文読解)	14
中国語入門	15
ハングル入門	15
コンピュータ入門	16
統計学	16
数学基礎・統計学入門	17

英語Ⅰ(初級) (開講せず)

専門教育科目

＜専門基礎科目＞	
解剖生理学Ⅰ	19
解剖生理学Ⅱ	19
生化学	20
発達心理学	20
人間関係論	21
臨床心理学	21
生命・医療倫理	22
医療安全	22
臨床コミュニケーション	23
行動科学	23
微生物学(感染・免疫学を含む)	24
薬理学	24
病理学	25
疾病・治療論Ⅰ(内科系領域)	25
疾病・治療論Ⅱ(外科系領域)	26

※担当者・開講期については変更になることがあります。

	ページ数
疾病・治療論Ⅲ(精神科領域)	26
疾病・治療論Ⅳ(産科・婦人科領域)	27
疾病・治療論Ⅴ(小児科領域)	27
栄養学(食品学を含む)	28
臨床検査学	28
緩和医療学	29
保健医療福祉行政論	29
社会福祉論	30
保健統計学	30
健康・医療心理学	31
衛生学・公衆衛生学Ⅰ	31
衛生学・公衆衛生学Ⅱ	32
疫学	32
学校保健	33
養護概説	33
健康相談活動論	34
産業保健	34
地域福祉論	35
社会保障制度	35
チーム医療論	36

＜専門科目＞

看護学概論	36
看護倫理学	37
基礎看護技術Ⅰ(療養上の世話)	37
基礎看護技術Ⅱ(診療の援助)	38
基礎看護技術Ⅲ(看護過程論)	38
フィジカルアセスメント	39
感染看護学	39
基礎看護学実習Ⅰ(早期体験実習)	40
基礎看護学実習Ⅱ(看護過程実習)	40
成人看護学概論	41
成人看護学援助論Ⅰ(慢性期)	41
成人看護学援助論Ⅱ(急性期)	42
成人看護学援助論Ⅲ(回復期・終末期)	42
成人看護学実習Ⅰ(慢性期)	43
成人看護学実習Ⅱ(急性期)	43
成人看護学実習Ⅲ(緩和ケア)	44
老年看護学概論	44
老年看護学援助論	45
老年看護学実習	45
母性看護学概論	46
母性看護学援助論	46
母性看護学実習	47
小児看護学概論	47
小児看護学援助論	48
小児看護学実習	48
在宅看護学概論	49
在宅看護学援助論	49
在宅看護学実習	50
精神看護学概論	50
精神看護学援助論	51
精神看護学実習	51

(看護学科 専門科目つづき)

ページ数

公衆衛生看護学概論	52
公衆衛生看護活動展開論	52
公衆衛生看護学演習Ⅰ(支援技術)	53
公衆衛生看護学演習Ⅱ(地区診断・健康教育・管理)	53
公衆衛生看護学実習(保健所・市町村)	54
地区活動実習	54
地域の健康と看護	55
家族看護学	55
災害看護学	56
国際看護学	56
救命救急医療	57
看護管理学	57
研究方法論	58
看護ゼミナール	58
卒業研究	59
総合実習	59
看護の統合と実践	60

教職科目

教職論	61
教育学概論	61
教育心理学	62
教育行政論	62
道徳教育論	63
特別活動論	63
教育方法論	64
生徒指導論(進路指導を含む)	64
教育相談(カウンセリングを含む)	65
養護実習	65
教職実践演習(養護)	66

看 護 学 部
看 護 学 科

(共通教育科目)

授業科目名 知的生き方概論				担当者 齊藤 育子 他			
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: 1年～ 生活心理: 1年～ 看護: 1年～
【授業概要】 人間として「よく生きる」とはどのようなことなのか。この根源的な問いについて、山陽学園の教育の基礎を築いた上代淑をはじめ、学園と深いにかかわりのあった人物の生き方を知ることを通して考える。さらに、本学園の教育理念「愛と奉仕」を実践する人間として、学生それぞれが地域の中でどのような役割を果たすことができるのか「岡山の諸地域」の学びを通して考える。				【学習内容(各回の授業予定)】 1. 開講趣旨の説明、受講の心得、山陽学園の歴史と建学の精神(齊藤学長) 2. 山陽学園の教育理念①上代淑の生涯(齊藤学長) 3. 山陽学園の教育理念②上代淑の「日めくり」(齊藤学長) 4. 門田界限の人々①石井十次と岡山孤児院(濱田元副学長) 5. 門田界限の人々②アリス・ベティ・アダムスと岡山博愛会運動(濱田元副学長) 6. 門田界限の人々③エドワード・ガントレットと山田耕作(濱田元副学長) 7. 岡山の歴史・文化・地理的背景(谷一副学長) 8. 和気町の人々の生活と課題(特別講師: 地域包括連携協定先和気町役場職員) 9. 真庭市の人々の生活と課題(特別講師: 地域包括連携協定先真庭市役所職員) 10. 平井学区の人々の生活と課題(澁谷) 11. ボランティアの勧め(澁谷) 12. 学科特性①(学科担当者) 13. 学科特性②(学科担当者) 14. 学科特性③(学科担当者) 15. 自らの理想の生き方を語る、グループ討議(学科担当者)			
【到達目標】 1. 山陽学園の歴史と教育理念を理解する。 2. 「愛と奉仕」を実践した人々の生き方を知る。 3. 地域の人々の生活を知り、その課題を理解する。 4. 奉仕の具体的方法を知る。							
【予習・復習等準備学習の内容】 各テーマについて図書館等を利用して予習する。返却されたレポートを再読し学びを深める。							
【留意事項】 「山陽スタンダード」としての位置づけの授業です。授業に出席しなければレポートを提出できません。講義の順序を変更する場合があります。				【テキスト】 なし。必要に応じて、資料を配布する。			
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 各授業では、講義後にレポートを作成し提出する。15回のレポートによって、成績を評価する。なお、学科特性の時間として、上代皓三記念講演会等の公開講演会等の出席に充てることがある。希望者には、各担当者が採点基準やコメントについて解説や説明を行う。				【参考図書】 山陽学園『山陽学園百年史』、山陽学園『愛と奉仕 山陽学園創立130周年記念誌』(吉備人出版) その他、授業時に紹介する。			

授業科目名 人間学				担当者 北岡 宏章			
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: 1年～ 生活心理: 1年～ 看護: 1年～
【授業概要】 物質文明の爛熟と科学技術の無節操な利用の中で、人間らしさとは何かますます見えにくくなっていく現代にあって、人間とは何か、人間性とは何かを問うことをその本質的役割とする人間学の意義にはますます大きいものがある。授業では、まず人間学の歴史や人間学的視点について概観し、そこから現代を生きる人間の諸相を捉え、考えていく。				【学習内容(各回の授業予定)】 1. 人間学とは何か 2. 人間学の歴史と人間学の対象 3. 人類の進化(1)類人猿からホモ属へ 4. 人類の進化(2)ホモ・サピエンスの登場と人間らしさのめげえ 5. 人類の進化(3)ホモ・サピエンスと人間性の獲得 6. 人類の進化と脳の発達および今日の脳科学研究 7. 進化の隣人チンパンジーと人間 8. 人間と言葉 9. 人間とシンボル 10. 人間と対話 11. 生殖医療と生命工学 12. AIの可能性と危うさ 13. 人間と道徳 14. 人間と宗教 15. まとめ			
【到達目標】 人間学的視点について理解し、自らも人間学的なものを見方や考え方がある程度できるようになる。							
【予習・復習等準備学習の内容】 配布するプリントをよく読んで、人間学的視点を身に付けるよう努力すること。							
【留意事項】 変化のスピードが著しい現代社会とそこに生きる人間の在り方に積極的に関心を寄せ、新聞やニュースで人間学的に重要と考えられる問題を追い続け、自分の考えを持つようにしてほしい。				【テキスト】 毎回プリントを配布する。			
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 1. 授業への積極的な参加 2. リフレクション・ペーパー 3. 定期試験				【参考図書】 授業の中で指示する。			

授業科目名 哲学				担当者 九鬼 一人			
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目	配当年次	言語文化: 1年～ 生活心理: 1年～ 看護: 1年～
【授業概要】 ヒュームの『人間本性論』の考察を手掛かりに、心をめぐる様々な問題を考える。知覚以外に知識の基礎を求めるとはできないという、ヒュームの経験主義の哲学を紹介し、あわせてその限界を考察して、広く哲学の道案内をする。				【学習内容(各回の授業予定)】 1. はじめに: 転喻の心理学とは インTRODクシヨン: 哲学的でない授業をします 2. 【印象と観念】生まれつき人間は知識をもっているか 3. 【単純と複雑】スフィンクスをいかにして考えることができるか 4. ヒュームの逸脱 今まで経験していない青【モリスクス問題】 5. ヒュームの視点にないもの——知覚の背面・キュビズム 大森荘蔵(1982)『新視覚新論』 6. 【印象と観念】過去は現在の記憶・「知覚」から知られる 7. 【絶対的知識と蓋然的知識】類似をめぐる若干の考察 8. 【個別と普遍】普遍代表説 —— 個物しか知らないのになぜ普遍的なことが分かるか 9. 【個別と普遍】抽象観念の背理 —— 犬を定義できますか・現代形而上学入門 10. 因果関係には根拠がないか? —— 統計的に有意な事象の関係について 11. 死という観念を如何にして知ることができるか 大森荘蔵(1976)「三つの比喩」『物と心』 12. 【共時性の精神分析学】他者の心をいかにして知るか 13. 単純な情念が如何にして類似することができるか —— 恋人への愛憎の類似性 14. 【幸福主義の倫理学】 —— イギリス幸福主義の倫理学概説 15. 哲学の講義内容を子供に伝えるために童話を読む 「哲学童話 イマヌエルちゃん」			
【到達目標】 1. 経験主義の哲学、すなわち「知覚」モデルの哲学の基本発想に馴れ親しむことができる。 2. 普遍の問題、抽象の問題、絶対的知識と蓋然的知識の区別など哲学の諸問題に触れることができる。							
【予習・復習等準備学習の内容】 次回の授業範囲をHP (http://kazuto-phil.under.jp/) にて予習しておくこと。授業後には資料を復習し暗記すること。予習1時間・復習3時間。							
【留意事項】 幅広い考察対象を含むので、一つの考え方にとらわれない態度が必要である。HPの閲覧によって授業を進める。毎回、小レポートを課す。							
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 経験主義の哲学の思考法に関わる選択肢問題・穴埋め問題・事項解説を期末試験として課し正答を解説する。自筆ノートのみ持ち込み可。小レポートにコメントを書いて返却し、平常点をつける。期末試験: 平常点=7:3。				【テキスト】 資料を配布する。			
				【参考図書】 特になし。			

授業科目名 心理学				担当者 松浦 美晴			
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: — 生活心理: — 看護: 1年～
【授業概要】 この授業では、心理学という学問について、その内容と最近の動向を広く紹介する。心理学が社会に何を提供できるのかを考える。				【学習内容(各回の授業予定)】 1. 心理学とはどういう学問か(1) 心理学の歴史 2. 心理学とはどういう学問か(2) 知覚と認知 3. 心理学とはどういう学問か(3) 発達と教育 4. 心理学とはどういう学問か(4) 社会心理学とは 5. 心理学とはどういう学問か(5) 社会的現実、社会構成主義、ナラティブ心理学 6. 心理学とはどういう学問か(6) 臨床とカウンセリング 7. 心理学とはどういう学問か(7) 異常心理学 8. 心理学とはどういう学問か(8) 人格心理学 9. 心理学とはどういう学問か(9) 測定法 10. 心理学とはどういう学問か(10) ストレス理論 11. 1つの出来事を提示する 複数の経験 — 病いの経験 — 12. 人が事象を捉え、説明する「枠組み」 13. 「物語」の語るもの: 「運を消費する」物語 14. こころ主義を考える 15. 教養のための心理学とは			
【到達目標】 心理学という学問の内容と最近の動向への理解を深める。							
【予習・復習等準備学習の内容】 毎授業後には、配布したプリントを見て復習を行うこと。							
【留意事項】 適宜指示する。							
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 学期末試験(90%)と、受講態度(10%)を合わせて評価する。フィードバックを希望する学生については、個別に資料を基に説明を行う。				【テキスト】 毎回プリントを配布する。必要があれば、授業中に指示する。			
				【参考図書】 必要があれば、授業中に指示する。			

授業科目名 人権教育			担当者 阿部 紀子						
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目	配当年次	言語文化: 2年～	生活心理: 2年～	看護: 2年～
【授業概要】 本来であれば「人権=人という権利」を誰もがもっているにも関わらず、不当な扱いを受けている人達がいる。日本国内においても、同和に限らず、女性・ハンセン病といった歴史的背景を含めた問題がある。これらを踏まえてテーマとして取り上げ、自分がその立場に立った際、どのように思い、またはどのように感じたのかを考えていく時間とする。			【学習内容(各回の授業予定)】						
【到達目標】 講義内に取り上げるテーマだけに限らず、日常においても「自分自身が、その立場に立った差に、どのように思う(または感じる)のか」と考えられる力を養っていく事とする。			1. 講義の説明、人権教育の必要性 2. 講義の説明、人権と法 3. 時事問題 4. 冤罪事件について(1)刑事事件の流れと冤罪事件 5. 冤罪事件について(2)痴漢冤罪事件 6. 報道被害者と人権 7. 世界におけるHIV問題と日本の薬害AIDS事件 8. 人身売買問題について 9. 性同一性障害(性別違和)と人権 10. 同性愛者と人権 11. 子どもの人権について 12. 高齢社会における人権問題 13. 歴史から見るハンセン病と人権問題 14. 障がい者の人権問題とコミュニケーション方法 15. 同和问题						
【予習・復習等準備学習の内容】 毎時間、右記テーマに沿った内容を予習してくること。			【テキスト】 なし						
【留意事項】 特になし			【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 毎回、講義に取り上げたテーマから「自分自身が、その立場に立った際、どのように思った(または感じた)のであるか」との小レポートの提出により、講義態度・出欠を判断し、点数をつける。また最終課題のレポート提出も含めて、総合評価とする。			【参考図書】 『人権読本』(岩波ジュニア新書386) 鎌田慧/編者、岩波書店			

授業科目名 スポーツ科学A			担当者 三好 靖子						
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	選択科目	配当年次	言語文化: 1年～	生活心理: 1年～	看護: 1年～
【授業概要】 スポーツ種目のハンドボール、キックベースボール、バドミントン、ソフトバレーボールを実施することにより、技術構成の解明と特徴を科学的に分析する。また現段階での個人それぞれの体力評価と、体力の維持増進のため基礎的なトレーニングを取り入れ実施する。			【学習内容(各回の授業予定)】						
【到達目標】 スポーツ文化の理解、スポーツ科学の理解、心身の健康・体力増強、情緒の安定と体力回復、好ましい人間関係、社会性道徳性の高揚。			1. ガイダンス スポーツ、健康に関する諸注意 2. スポーツテスト 体力診断テスト(自己体力の確認) 3. スポーツテスト 体力診断テスト(自己体力の確認) 4. ハンドボール パス、ステップシュート練習 5. ハンドボール ルール説明、試合 6. ハンドボール グループ練習、試合 7. ハンドボール グループ練習、試合 (実技テスト) 8. キックベースボール ルール説明、試合 9. キックベースボール グループ練習、試合 10. ソフトバレーボール ルール説明、パス、サーブ練習、試合 11. ソフトバレーボール 試合 12. ソフトバレーボール 試合 (実技テスト) 13. バドミントン シングルスルール説明、試合 14. バドミントン シングルス試合、ダブルスルール説明、試合 (小テスト) 15. バドミントン シングルス、ダブルスパートナー交代試合 (実技テスト)						
【予習・復習等準備学習の内容】 一日一回のストレッチング、体幹トレーニング。			【テキスト】 なし						
【留意事項】 スポーツウェア、屋内、屋外シューズの用意。資格取得希望者を優先する。			【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 授業への活動意欲、小テスト、実技テストなど総合的に評価する。 活動意欲50% 小テスト20% 実技テスト30%			【参考図書】 岩崎英人他、「トレーニングサイエンス」 不昧堂出版 学習指導要領 「体ほぐし」の運動アイデア130今すぐ使えて楽しい授業ができる 洋和泉社 「ニュースポーツ百科」 大修館書店			

授業科目名 スポーツ科学B				担当者 三好 靖子			
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	選択科目	配当年次	言語文化: 1年～ 生活心理: 1年～ 看護: 1年～
【授業概要】 球技系のスポーツ種目を主として行い、ニューススポーツも加えて実施する。また、体力の維持増進のために各種ストレッチングと基礎的なトレーニングも実施する。				【学習内容(各回の授業予定)】 1. ガイダンス スポーツ、健康に関する諸注意 2. スポーツテスト 新体力テスト 3. インディアカ ルール説明、フォーメーション練習、試合 4. インディアカ グループ練習、試合 5. インディアカ グループ練習、試合 6. フットサル ルール説明、パス練習、試合 7. フットサル グループ練習、試合 8. フットサル グループ練習、試合 (実技テスト) 9. 卓球 ストローク練習、サーブ練習 10. 卓球 ストローク練習、ルール説明、シングルス試合 11. 卓球 シングルス試合 (実技テスト) 12. バスケットボール ドリブルシュート、三角パス、ルール説明、試合 13. バスケットボール 四角パス、試合 (実技テスト) 14. 野外走 (小テスト) 15. フリー種目			
【到達目標】 スポーツ文化の理解、スポーツ科学の理解、心身の健康・体力増強、情緒の安定と体力回復、好ましい人間関係、社会性・道徳性の高揚。				【テキスト】 なし			
【留意事項】 スポーツウェア、屋内、屋外シューズの用意。資格取得希望者を優先する。				【参考図書】 岩崎英人他、「トレーニングサイエンス」 不昧堂出版 学習指導要領 「体ほぐし」の運動アイデア130今すぐ使えて楽しい授業ができる 洋和泉社 「ニューススポーツ百科」 大修館書店			
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 授業への活動意欲、小テスト、実技テストなど総合的に評価する。 活動意欲50% 小テスト20% 実技テスト30%							

授業科目名 社会学				担当者 今井 英文			
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: 1年～ 生活心理: 1年～ 看護: 1年～
【授業概要】 現代の社会事象を具体的に紹介し、それらの本質を社会学的視点から考える。また、社会調査(主にアンケート調査)の方法を学ぶ。				【学習内容(各回の授業予定)】 1. 授業のガイダンス 2. 現代社会とは何か 3. 現代社会と青年の生き方 4. 家族の社会学 5. 学校と社会学 6. 地域社会学(1)都市の定義としくみ 7. 地域社会学(2)国際観光 8. 地域社会学(3)商業 9. 災害と社会学(1)東日本大震災 10. 災害と社会学(2)西日本豪雨 11. 環境と社会学(1)人口問題 12. 環境と社会学(2)食料問題 13. 社会調査の方法 14. 社会調査の実施 15. まとめ: 社会学からみた現代とは			
【到達目標】 現代の社会事象の特色を、社会学的視点から考えることができる。社会調査(主にアンケート調査)の方法を理解できている。				【テキスト】 なし			
【留意事項】 日頃から、新聞やニュースなどで、社会現象への関心や予備知識を高めておくこと。				【参考図書】 授業中に指示する			
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 15回の授業終了後に定期試験を実施する。評価基準は定期試験80%、授業中のミニペーパー20%とする。希望者には試験問題の解説を行う。							

授業科目名 法学			担当者 藤内 和公		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目
		配当年次	言語文化: 1年～	生活心理: 1年～	看護: 一
【授業概要】 法学のなかで、労働法を解説する。労働基準法、労働契約法、労働組合法などを中心とする労働法の主要論点につき、法律の内容・運用を解説する。併せて、必要な労働事情を解説する。また、消費者の法律問題もとりあげる。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. ガイダンス、労働法概説 2. 男女雇用平等(第4章) 3. 労働契約:労働者および使用者の権利・義務(第6章) 4. 配置転換および就業規則(第2,8,10章) 5. 解雇:有効か否かの判断基準(第11章) 6. 労働時間・年次有給休暇(第12～14章) 7. 労働時間短縮とワークシェアリング(資料) 8. 労働災害補償:過労死や労災事故の法的取扱い(第15章) 9. 労働者派遣・パート労働(第22章) 10. 同一労働同一賃金の実現のために一非正規雇用への対策一(資料) 11. 集団的労使関係①組合、不当労働行為(第17・18章) 12. 集団的労使関係②団体交渉、労働協約、団体行動(第19・20章) 13. 日本的雇用慣行の最近の変化(資料) 14. ブラック企業(資料) 15. 消費者の法律問題(資料)		
【到達目標】 就職後に必要となる労働法の知識、とくに労働基準法の概要を知る。できれば職場生活の中で活用できるようにする。			【テキスト】 浅倉むつ子ほか著『労働法』(有斐閣、2,600円+税)		
【予習・復習等準備学習の内容】 各回の講義内容に該当するテキストの箇所を読む。			【参考図書】 西谷敏『労働法』(日本評論者)		
【留意事項】 特になし。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末試験(70%)およびレポート(30%)による。レポート課題文献は、森岡孝二著『就職とは何か—まともな働き方の条件—』(岩波新書)または森岡孝二著『雇用身分社会』(岩波新書)とする。レポートの内容は本の概要説明と本人の感想。分量は3,000字(=40字×30行×2枚半)以上。試験については、特に正答率の低かった問題などについての講評を掲示等により行う。レポートについては、必要があればコメントを掲示等により行う。					

授業科目名 日本国憲法			担当者 俵野 英二		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目
		配当年次	言語文化: 2年～	生活心理: 2年～	看護: 2年～
【授業概要】 身近な憲法問題を取り上げ、関係する憲法の基本原理から憲法上の問題の本質を分析し、見解の対立の背景を明らかにする。必要に応じて、歴史・文化的背景をおこにする他国の憲法及び大日本帝国憲法と比較することにより、知識を広げたり理解を深めたりすることを促す。授業は、教科書及び身近な問題から作成した講義資料を素材に、学生各自が憲法問題について体系的に順を追ってワークシートに整理しつつ進め、体系的理解及び憲法的な分析の方法の習得を目指す。随時、重要な論点を取り上げ、学生にグループの話し合い及び発表をさせて、憲法的思考の習得及び見解の対立の理解の深化を目指す。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. ガイダンス・憲法の目的とは—警察官、教員から毛にの源泉足る憲法を考える。 2. 個人の尊重と基本的人権—SNSの書き込みから新しい人権の保障人権の調整を考える。 3. 国民主権と参政権—生徒会、学級会の話し合いから民主主義のルールを考える。 4. 教育と各国家機関の関係—生徒の自由研究の発表から各国家機関の役割と関与を考える。 5. 統治機構のまとめ及び小テスト—国家のしくみを鳥瞰的に振り返り、その理解を確認する。 6. 国籍を超えて—公務員の国籍条項から外国人の人権共有主体性を考える。 7. 人格を持つ子どもたち1—いじめ問題を通じて人権保障が生徒に及ぶか考える。 8. 人格を持つ子どもたち2—生徒の人権の行使に学校の指導監督がどこまで許されるか考える。 9. 法の下での平等と家族・個人—障害児の就学問題等を通じ、平等原則について考える。 10. 貧困の連鎖と生存権—進学問題を通じて社会権の保障され方等を考える。 11. 働く者の尊厳—差別的取り扱いやハラスメント等から労働者の尊厳の確保について考える。 12. 適正手続きと少年—刑事事件、少年事件を比較してその違いの意味を考える。 13. 教育権と職業選択の自由—幼稚園の新設問題から人権の複合的性格を考える。 14. 人権のまとめと第2回小テスト—人権保障を鳥瞰的に振り返り、その理解を確認する。 15. 地方自治と平和主義—自衛隊基地の問題から国民の安全と地方分権の関係を考える。		
【到達目標】 憲法の基本原理を理解し、その原理及び資料から得た情報を活用して、主体的に身近な憲法問題を考えることができる。			【テキスト】 現代憲法教育研究会編『憲法とそれぞれの人権 第3版』(法律文化社、2017年) ISBN978-4-589-03871-5		
【予習・復習等準備学習の内容】 事前学習:テキストを読み、意味の分からない用語の意味を調べておく。事後学習:ワークシートの問題を整理する。理解が不十分なところをテキスト等を使用して理解を深めノートに整理しておく。			【参考図書】 伊藤真『伊藤真の憲法入門 第6版』(日本評論社、2017年) 橋本勇人『保育と日本国憲法』(みらい、2018年)		
【留意事項】 辞書(電子辞書可。但し、通信機能を利用するものは付加)					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 1.成績評価の方法:期末試験(50%)、小テスト(30%)、ワークシート(20%)。課題図書に対するレポート(任意)は、20%の範囲で前記に加算する。2.フィードバックの方法:ワークシート及び小テストは返却の上、全体講評を行う。レポートは必要に応じ、講義前後に個別指導を行う。期末試験は問題開設及び採点基準の説明を配布する。					

授業科目名 基礎経済学			担当者 建井 順子		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目
		配当年次	言語文化: 2年～		生活心理: 2年～
				看護: 2年～	
【授業概要】 景気の変動、デフレ、株価など、私たちは日々経済に関するニュースを耳にしている。しかし、経済学の考え方や用語を理解していなければ、それらの本質を理解することはできない。そうした現実の経済現象を理解・分析する学問が経済学である。本講義は、経済学の入門として、ミクロ経済とマクロ経済の基礎体系を学び、理解することを目的とする。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 経済学とはどのような学問か 2. ミクロ経済学の体系 3. 需要と供給 4. 需要曲線と消費者行動 5. 供給曲線と企業行動 6. 市場取引と資源配分 7. 独占と競争の理論 8. 市場の失敗 9. マクロ経済学の体系 10. 国民経済計算とGDP 11. 貨幣の機能 12. 金融政策 13. 財政政策 14. インフレと失業 15. 国際経済学		
【到達目標】 経済学の基本的な用語と理論について学修し、経済学的な考え方を身につけること。					
【予習・復習等準備学習の内容】 講義後、配布したプリントを読み直し、必ず復習すること。理解できなかったところは、市販の教科書等で確認しておくこと。					
【留意事項】 特になし。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 毎授業後のコメントペーパー50%、期末試験50%により評価する。			【テキスト】 プリントを配布する。		
			【参考図書】 井堀利宏(2017)『コンパクト経済学(第2版)』新世社		

授業科目名 文化人類学			担当者 北村 光二		
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目
		配当年次	言語文化: 2年～		生活心理: 2年～
				看護: 1年～	
【授業概要】 文化人類学の考え方に即して「文化の多様性」についての理解を深めながら、多様性を前提にした人間理解の可能性を学ぶ。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. イントロダクション 2. 文化と社会-個人の思いを超え出るもの 3. 未開と文明-「近代」の成立 4. 生業-生活を支え、作り出すもの 5. 日々の暮らし-狩猟採集民ブッシュマン 6. 日々の暮らし-牧畜民トゥルカナ 7. 結婚と家族-恋愛至上主義と子の養育 8. 子どもと大人-成人式の衰退 9. 男と女-差別はどこから来るのか? 10. 交換・贈り物・シェアリング-経済の起源 11. 病気と死-不幸との付き合い方 12. 分類と秩序-排除の論理 13. 呪術(魔術)と儀礼-超自然的世界への通路 14. 人間にとっての時間-無限の未来という想定 15. まとめ:ワークとライフ		
【到達目標】 私たちがあまりにも当たり前のこととして受け入れているものの見方を「問題」として取り出し、それを「他でもありえた」ものとして相対化するという文化人類学の方法や考え方を身につける。					
【予習・復習等準備学習の内容】 前回の授業の内容について、レジュメ等を参考に理解を深め、次回の授業のテーマについて、参考図書等で調べておくこと。					
【留意事項】 特になし					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 中間と期末にレポートを課す。中間30%、期末70%。			【テキスト】 特になし		
			【参考図書】 浜本満・浜本まり子共編『文化人類学のコンセンサス』学術図書出版。		

授業科目名 環境論			担当者 白井 信雄						
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 1年～
【授業概要】 人は様々な自然的、社会的、文化的条件下で生活しており、そのような取り巻きを環境と定義している。その環境は人の諸活動の影響を強く受けて変化し、逆にその変化が人の生活にさまざまな反作用を及ぼすことになる。本講義では、環境がどのように形成されているのか、また人は環境をどのように認識しているのかについて、人と環境の関わりのある方から生じるさまざまな環境問題のメカニズムや問題解決の理念と方策について言及する。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. ガイダンス: 講義の進め方、人類の発展と環境問題 2. 人間と環境の関係: 環境の恩恵、生態系サービス、環境へのつけ回しと反作用 3. 人間と環境の関係の歴史その1: 環境国家・江戸時代と産業革命、明治維新 4. 人間と環境の関係の歴史その2: 高度経済成長と公害問題・産業公害 5. 人間と環境の関係の歴史その3: 大量生産・消費と都市生活型公害、地球環境問題 6. 今日の環境問題と対策その1: 気候変動の影響と将来予測 7. 今日の環境問題と対策その2: 気候変動への2つの対策(緩和策と適応策) 8. 今日の環境問題と対策その3: エネルギー問題、原子力発電、再生可能エネルギー 9. 今日の環境問題と対策その4: 廃棄物問題、3R(リデュース、リユース、リサイクル) 10. 今日の環境問題と対策その5: 生物多様性の問題、開発、里山、外来種、鳥獣被害 11. 人間と環境のよりよい関係その1: 自然とのふれあい(フィールドワーク) 12. 人間と環境のよりよい関係その2: 環境と経済の統合的発展、エコビジネス 13. 人間と環境のよりよい関係その3: 環境と社会・コミュニティ、福祉、健康の統合的発展 14. 人間と環境の関係の論点: 自然中心か、人間中心か 15. まとめとワークショップ: 人間と環境のよりよい関係のための私たちの役割						
【到達目標】 人間と環境の関係について基本的な視点を理解し、環境問題の解決とよりよい環境のよりよい環境(と人間の関係)の創造に対する関心を高める。			【テキスト】 授業に用いる、パワーポイントの資料を配布する。						
【予習・復習等準備学習の内容】 環境問題等に関する新しい情報を入手し、それと授業の内容を結びつけるように努めること。			【参考図書】 白井信雄「環境コミュニティ大作戦～資源・エネルギーを地域でまかなう」学芸出版						
【留意事項】 講義中の質疑や意見交換に積極的に参加すること。									
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末テスト50点、中間レポート30点、授業態度20点で評価する。期末テストは、講義内容の理解度と主体的な学習による考察の深さ等の側面で採点する。中間レポートの不合格者については、問題点を指摘した上で、レポートの再提出を求める。									

授業科目名 自然科学基礎			担当者 大島 修						
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 1年～
【授業概要】 本講義では、自然の持つ系統性や法則性を学ぶ。おもに、物理学分野の基礎的な内容と他の自然科学分野の話題を扱う。身近な事物・現象だけでなく広く宇宙で起こっている事象も含めて、そこにある基本的な概念や原理・法則が共通に存在することを学習し、科学の進歩・発展と人間生活のかかわりについて学ぶ。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 私たちはなぜ今ここにいるのか(宇宙と生命の起源、宇宙を支配する物理法則) 2. 力と運動 (1速度と加速度 2ニュートンの運動の法則 3いろいろな運動) 3. 力と運動 (4力学的エネルギーと保存則 5物体にはたらく力 6力の合成と分解) 4. 仕事とエネルギー 5. 流体の力学 (1液体の比重と浮力 2水圧、気圧 3血圧の物理 4. 生体膜) 6. 電気 (1オームの法則 2交流・直流 3感電の基本的知識) 7. 熱 (1熱膨張 2比熱 3熱と仕事 4熱の移動と保温) 8. 音 (1音波の性質 2音の強さと大きさ 3ドップラー効果 4超音波) 9. 光 (1光の性質 2レンズ 3紫外線・赤外線) 10. 放射線 (1放射性元素と半減期 2医学における放射線) 11. 太陽の物理(1太陽のスケールと表面現象 2太陽のエネルギー 3太陽の寿命) 12. 恒星の世界(1星の明るさと色 2. HR図 3星の一生 4惑星・生命の誕生) 13. 宇宙の物理(1銀河系 2銀河と宇宙膨張 3ビッグバンと宇宙の歴史) 14. 地球の物理(1地球の概観 2地球の内部 3.太陽系の惑星 4地球の誕生と生命の誕生) 15. 生命の歴史(1全海洋蒸発 2. 全球凍結 3. 生命爆発と進化)						
【到達目標】 ・自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解する。 ・自然科学に対する興味関心を持ち、科学的な思考力・判断力を身につける。			【テキスト】 なし						
【予習・復習等準備学習の内容】 次回の授業範囲を予習し、理解を深めておくこと。			【参考図書】 青木和夫著 「系統看護学講座 基礎1 物理学」 医学書院 山本明利・左巻健男編著「新しい高校物理の教科書」講談社ブルーバックス						
【留意事項】 特になし									
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末試験(ノート・プリント持ち込み可)を80点満点で実施し、提出課題を20点満点とし、合計100点満点で評価を行う。レポート課題は、授業内において指示、提出するものとし、必要とされる記載事項などについての講評を掲示等により行う。									

授業科目名 生物学			担当者 柳田 元継						
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: 1年～	生活心理: 1年～	看護: 1年～
【授業概要】 本講義では、私たちの普段の生活に生物学が密接にかかわっていることを知り、かつ、各受講者のそれぞれの専門分野の基礎になりうる生物学の基本的な事項を学習していく。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. イントロダクション 講義内容と研究紹介 2. 生物の多様性と共通性 3. エネルギーと代謝 4. 遺伝情報の複製 5. 遺伝情報の発現 6. 体液 7. 肝臓と腎臓 8. 神経系 9. 自律神経とホルモンによる調節 10. 免疫 11. 細胞と分子 12. バイオテクノロジー 13. 生殖と遺伝 14. 発生 15. 生物の環境応答						
【到達目標】 基礎レベルの生物学の知識を身につける。			【テキスト】 なし。必要に応じてプリントを配布。						
【予習・復習等準備学習の内容】 毎授業内において、前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習を行い理解を深めておくこと。			【参考図書】 なし。必要に応じて紹介。						
【留意事項】 特になし。									
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 授業中課題30%、期末テスト70%、合計100%で評価を行う。									

授業科目名 日中関係史			担当者 班 偉						
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目	配当年次	言語文化: 2年～	生活心理: 一	看護: 2年～
【授業概要】 近年、尖閣諸島の領有権問題をはじめ日中関係は益々複雑な様相を呈している。この講義では、年々深刻化する日中間の外交問題を取り上げて解説し、それぞれの背景・経緯・双方の言い分・交渉の過程などを紹介しながら、日本国家の対中戦略並びに安全保障政策などについて分析する。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 日中外交の現状 2. 国交正常化への道 3. 平和友好条約の締結 4. 冷戦終結と日中関係の悪化 5. 歴史認識を巡る三つ巴の争い 6. 靖国神社参拝を巡る非難の応酬 7. 歴史教科書検定の問題 8. 尖閣諸島の領有権を巡る衝突 9. 東シナ海ガス田開発を巡る対立 10. 「有終の美」を飾る円借款 11. 国連安保理常任理事国入りの問題 12. 日米中の三国志 13. ロシアとの三角関係 14. 朝鮮半島を巡る駆け引き 15. アジア外交での綱引き						
【到達目標】 日本を取り巻く国際情勢について関心を持ち、世界の動きについて自分なりに考える、分析する能力を身に付けてもらう。			【テキスト】 プリントを配布						
【予習・復習等準備学習の内容】 日頃から新聞を読み、テレビニュース番組を見る習慣を身に付けること			【参考図書】 高原明生 等編『日中関係史 1972-2012 政治』東京大学出版会 2012年						
【留意事項】 配布資料の予習と復習									
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 15回の授業終了後、期末試験を行う。5回以上欠席した者は期末試験を受ける資格を失う。									

授業科目名 国際理解			担当者 共生・グローバル推進センター		
単位数	2 単位	開講期	集中	区分	選択科目
		配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 1年～
【授業概要】 本学の協定校および認定校における短期の語学学習に対して単位を認定する科目である。英語、または中国語・ハングルなどのアジアの言語の習得を目的とするもので、3～4週間にわたり、合計90時間に相当する学修(授業60時間を含む)を行う。滞在形態は問わない。 【到達目標】 目標とする言語が使用されている国の生活を直接経験し、その国の文化を知り、その言語の知識と運用能力を向上させる。 【予習・復習等準備学習の内容】 研修までに、英語科目を履修し、自主的に英語学習を行うことが望ましい。 【留意事項】 詳細は別途開催する説明会で紹介する。研修費用は個人負担。原則として引率教員は同行しない。 【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 1 研修前後の指導参加 2 所定の研修を修了したことの証明 これらをもとに単位認定を行う。			【学習内容(各回の授業予定)】 研修の目的、日程、手続きなど 研修先の国を知る1(地理、気候など)滞在の心得(ホームステイ、寮生活) 研修先の国を知る2(歴史、文化など) 協定校および認定校における語学研修 研修報告		
【テキスト】 なし(語学研修の教材については、研修先の指示に従ってください)			【参考図書】 研修前の指導でお知らせします。		

授業科目名 生活の科学			担当者 小野 和夫		
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目
		配当年次	言語文化: 2年～	生活心理: 2年～	看護: 2年～
【授業概要】 食や環境は人の生活や健康と深い関わりをもつ。この授業では、身近な食品に含まれる成分と健康との関連、また、地球環境問題を中心に環境と健康との関連について学ぶ。食生活や環境を通じて健康を科学的に考える契機とする。 【到達目標】 1. 栄養素の役割を理解する。2. 身近な食品成分と機能を正しく理解する。3. 健康的な食生活を実践する。4. 環境問題を理解する。5. 環境に配慮した生活を実践する。 【予習・復習等準備学習の内容】 特になし 【留意事項】 特になし 【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末試験70%、毎回の受講票・課題30% 毎回、授業終了時に受講票による理解度の確認を行う。また、課題を課すこともある。これらについては評価後、返却し、必要に応じて解説を行う。期末試験後、必要に応じて試験の解説を行う。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 砂糖と健康 2. アルコールと健康 3. Fast foodと健康 4. 果物と健康 5. さかなと健康 6. 食品の機能成分と健康 7. 酵素と健康 8. ビタミンと健康 9. 遺伝子組み換え食品と健康 10. 水と健康 11. 地球環境問題 12. 環境ホルモン 13. 生活と微生物 14. インフルエンザウイルス 15. ストレスと健康		
【テキスト】 特に指定しない。毎回資料を配布する。			【参考図書】 附属図書館の関連図書		

授業科目名 児童福祉				担当者 水島 真寿美			
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目	配当年次	言語文化: - 生活心理: - 看護: 1年～
【授業概要】 子どもが、子ども期を安全で安心して過ごし、成長・発達していくことを願っている。現実には子どもが権利侵害を受ける事例も増加している。児童福祉は、支援を必要とする子どものみが対象ではなく、すべての子どもが不利益を受けないためのものでもある。児童福祉法を中心に子ども・家庭への支援の仕組みと、具体的なサービスについて学習する。具体的な事例を入れながら実践的に展開する。				【学習内容(各回の授業予定)】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども家庭福祉(児童福祉)へのみちびき、授業のガイダンス 2. 子ども家庭福祉とは何か -子どものとらえ方と基本的な理念- 3. 子ども家庭福祉を取り巻く社会状況 -社会の変化と子ども・家族の課題- 4. 子ども家庭福祉のあゆみ -わが国と欧米のあゆみ- 5. 子ども家庭福祉の法体系と実施体制 -児童福祉法を中心に- 6. 子ども虐待の現状 -事例から子どもの権利侵害の実際- 7. 子ども虐待とその対策 -子ども虐待のとらえ方と具体的な支援- 8. 社会的養護を必要とする子どもへの支援 -児童福祉施設と里親制度- 9. ひとり親家庭への支援 -子ども・家族への支援の実際- 10. 子育て支援と保育サービス -就学前の子どもの保育と教育- 11. 障がい児福祉サービス -理念・定義と支援の内容- 12. 非行問題に関するサービス -現状と福祉的な対応- 13. 子育て世代包括支援センター -母子保健と子育て支援の協働- 14. 子ども家庭福祉にかかわる専門職 -倫理と守秘義務- 15. 子ども家庭福祉のこれから -子どもの権利条約批准後の動向- 			
【到達目標】 子ども家庭福祉の理念、歴史、法制度及び福祉サービスの概要を理解する。成長・発達する子ども期の重要性を学習する。				【テキスト】 遠藤 和佳子編著「はじめての子ども家庭福祉」 ミネルヴァ書房			
【予習・復習等準備学習の内容】 復習のためテキストを読む。国外の子どもに関する出来事に目を向ける。				【参考図書】 子ども家庭福祉への招待 北川清一・稲垣美加子編著 ミネルヴァ書房			
【留意事項】 特になし							
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末試験と課題レポート等により総合的に評価する。概ね、期末試験7割、レポート等を3割とする。							

授業科目名 ボランティア論				担当者 澁谷 久美			
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: - 生活心理: - 看護: 1年～
【授業概要】 授業は講義とグループワークで進める。講義では、ボランティアとは何かについて歴史や実際の活動を通して学ぶ。グループワークは2つの課題に取り組み。第1は、授業内容をより深めるためにテーマに沿って調べたり、討論をする。第2は、ボランティア体験し、その体験発表とともにその活動がどのような意義を持っているかなどを討論・交流する。				【学習内容(各回の授業予定)】 <ol style="list-style-type: none"> 1. ボランティアとは 2. ボランティア体験に向けて 3. ボランティア活動の歴史 4. ボランティア活動を支える法制度と社会福祉協議会 5. 企業が行う社会貢献とボランティア活動 6. 地域社会とボランティア活動 7. ボランティア体験のまとめ 8. 貧困・高齢者問題とボランティア活動 9. 国際社会とボランティア活動 10. ボランティア体験交流—グループ発表と意見交換 11. ボランティア体験交流—グループ発表と意見交換 12. ボランティア体験交流—グループ発表と意見交換 13. ボランティア体験交流—グループ発表と意見交換 14. ボランティア体験交流—グループ発表と意見交換 15. ボランティア活動の意義 			
【到達目標】 ボランティア活動についての基礎的な事項を理解する。グループワークを通して、ボランティア活動とは何か、その意義、精神を学ぶ。				【テキスト】 なし。毎回資料を配布する。			
【予習・復習等準備学習の内容】 授業テーマに関する事項を事前に調べてくること。				【参考図書】 なし。			
【留意事項】 グループワークでは、積極的に自分の考えを表現すること。							
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 授業中に実施する小テスト・グループワークの課題40%、グループ発表30%、レポート30%で評価する。小テストは、正答率の低かった問題について解説する。グループワークについては、その授業ごとに講評をおこなう。							

授業科目名 手話コミュニケーション			担当者 佐藤 千春		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目
		配当年次	言語文化: 2年～	生活心理: 2年～	看護: 2年～
【授業概要】 聴覚障害者のコミュニケーション手段の一つである手話は、表情や身振り動作、手の動きなどによって具体的に表す映像性の高い言語である。手話を中心としたコミュニケーション方法を実践的に学ぶとともに、聴覚障害者の暮らし、福祉制度など現状と問題点を考える。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 伝えてみよう 聴覚障害者とのコミュニケーション 2. 自己紹介(挨拶)・具体的表現 手話の構成 3. 自己紹介(名前・家族) 4. 自己紹介(趣味) 5. 数の表現(いつ・いくら・いくつ) 6. 自己紹介(仕事) 7. 場所の表し方(空間の活用) 8. 時の経過(現在・過去・未来) 9. 主語の明確化(手話の方向) 10. 主語の明確(体の向き・指さし) 災害と聴覚障害者 11. 空間の活用(時間軸) ろう教育 12. 話してみよう 13. 聴覚障害者との交流 聴覚障害とは 14. 話してみよう 聞こえのしくみ 15. 手話で伝えてみよう		
【到達目標】 聴覚障害者とのコミュニケーションについて考え、手話や身振りなどを工夫して伝える力を身に付ける。			【テキスト】 『手話を学ぼう 手話で話そう』 社会福祉法人 全国手話研修センター		
【予習・復習等準備学習の内容】 学習した手話を何度も繰り返し復習をすることで、技術習得に努めること。			【参考図書】 私たちの手話辞典		
【留意事項】 手話は視覚言語であることを理解し、手の動きなどを一緒に動かし真似ること。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末試験で理論50%、実技(読み取り・他)40%で評価する。その他、授業中に自己紹介の表現試験を実施10%					

授業科目名 地域貢献			担当者 澁谷 俊彦		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目
		配当年次	言語文化: ー	生活心理: ー	看護: 1年～
【授業概要】 下記の3点を柱に地域貢献について講義を進めます。 ①地域貢献について報道されているニュース記事(以下N)を紹介しします。 ②日本における地域貢献の現状「今」(以下I)について解説しします。 ③身近な地域貢献活動の事例として、本学が属する地域である平井小学校区(以下H)でおこなわれている活動を紹介します。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 講義の目標 講義のスケジュール・学習の方法・評価 2. N: 地域貢献事例: やらねばなるまい。 3. N: 地域貢献事例: やらねばなるまいとボランティアの中間 4. N: 地域貢献事例: ボランティア 5. N: 地域貢献事例: 整理・分類 6. I: 日本の地域貢献の現状: 企業・業界団体 7. I: 日本の地域貢献の現状: 行政・大学・本学 8. I: 日本の地域貢献の現状: ボランティアの定義・分類と募集事例 9. 中間整理 10. H: 平井小学校区(現状と課題) 11. H: 平井小学校区(地域貢献をおこなっている諸団体) 12. H: 平井小学校区(地域貢献としての地震・津波・洪水からの避難マップの作成: 情報収集) 13. H: 平井小学校区(地域貢献としての地震・津波・洪水からの避難マップの作成: 編集) 14. H: 平井小学校区(まとめ) 15. まとめと期末試験の傾向と対策		
【到達目標】 身近なことから地域貢献ができる学生になること、そして卒業後、仕事を通して地域貢献を考える社会人になることを目標にします。少子高齢化が休息に進んでいる日本においては社会を支えるために地域貢献が必須になってきています。			【テキスト】 使用しません。		
【予習・復習等準備学習の内容】 日頃から、新聞記事やテレビ等で、地域貢献に関連する事項を読んだり聞くことにより、関心を深めておいてください。			【参考図書】 特になし。		
【留意事項】 少子高齢化が急速に進んでいる日本においては社会を支えるために行政の充実限度があるため地域貢献が必須になってきています。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 1) 期末試験 90点 2) 授業の受講姿勢と期末試験準備(①資料のファイル整理、②テキスト・プリントのアンダーライン、板書・重要点の記入、③重要項目への付箋付け) 10点					

授業科目名 英語Ⅱ (英語表現)				担当者 マグナス 桑原			
単位数	2 単位	開講期	前期・後期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: - 生活心理: - 看護: 1年～
【授業概要】 This course introduces nursing students to English that may be useful in their careers. The classes are primarily focused on practicing nurse-patient interaction in various hospital situations. The students practice speaking, listening, and learn vocabulary and important expressions related to hospitals and nursing.				【学習内容(各回の授業予定)】 1. Class orientation; Unit 1: Meeting a New Patient 2. Unit 1: Meeting a New Patient - continued 3. Unit 2: Talking About Symptoms 4. Unit 3: In-Patient Orientation 5. Unit 4: Doing the Rounds 6. Unit 5: Explaining Medication 7. Unit 6: More Symptoms 8. Revision activities 9. Unit 8: Accidents and Injuries 10. Unit 9: Patient Examination 11. Unit 10: Taking a Medical History 12. Unit 10: Taking a Medical History - Continued 13. Unit 11: Lifestyle & Diet 14. Unit 12: Explaining Hospital Tests 15. Review			
【到達目標】 1. To acquire the necessary vocabulary and expressions for English nurse-patient interactions. 2. To improve English pronunciation and listening							
【予習・復習等準備学習の内容】 授業前には、分からない言葉や表現の意味全文を調べて、発音の練習をしてくること。							
【留意事項】 特になし。							
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 Class Participation: 20% Final Exam: 50% Assignments: 30%				【テキスト】 Bedside Manner - Beginner: A Basic English Course for Nursing			
				【参考図書】 特になし。			

授業科目名 英語Ⅲ (英文読解)				担当者 スティーブンM.ライアン			
単位数	2 単位	開講期	前期・後期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: - 生活心理: - 看護: 1年～
【授業概要】 看護に関する英文を読み、情報を読み取る演習を行う。健康に関する基本語彙を学び、文法知識を運用する力を養い、まとまった文章の概要や詳細を理解する練習を行う。				【学習内容(各回の授業予定)】 1. Why be a nurse? 2. The daily routine of a nurse 3. The nursing code of conduct 4. The top ten highest paid nursing specialties 5. The job of a midwife 6. Nursing older people 7. The top ten patient complaints about nurses 8. Military nursing 9. Public health nursing 10. Flying nurses 11. Nursing in the USA 12. Nursing in Cambodia 13. Nursing in Syria 14. Nursing in the Philippines 15. Quiz Show			
【到達目標】 看護に関する英文を読み、概要や詳細を的確に理解することができる。							
【予習・復習等準備学習の内容】 授業の予習、復習を行うこと。新しい英単語をすること。毎回の宿題をすること。							
【留意事項】 指定されたクラスで受講すること。							
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 授業への積極的参加20%、小テスト20%、課題20%、期末試験 40% *試験やレポートのフィードバックのためのオフィスアワーを設け、問題解説や採点基準などの説明を行う。				【テキスト】 特になし			
				【参考図書】 特になし			

授業科目名 中国語入門				担当者 班 偉					
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 1年～
【授業概要】 発音・単語・文法など基礎から中国語を学ぶ科目。テキストの音読・読解・翻訳・会話を勉強しながら、本文の内容に合わせて中国社会の最新事情や庶民の暮らしぶりなどについても解説する。				【学習内容(各回の授業予定)】					
【到達目標】 中国語の基礎をしっかりと身に付けておき、自己紹介や友人との交流、買い物、外食、旅行など様々な場面に対応できる会話表現をマスターすることを目標とする。				1. 入門知識 2. 単母音 3. 声調 4. 子音 5. 複合母音 6. 鼻音 7. 声調の変化 8. 発音上の注意 9. どうぞよろしく 10. 人称代名詞 11. 挨拶言葉 12. お名前は 13. 姓名の言い方 14. 呼び掛けの言葉 15. ご出身は					
【予習・復習等準備学習の内容】 テキストの予習と復習				16. 指示代名詞 17. 動詞述語文 18. 飲み物は 19. 疑問詞 20. 助動詞の使い方 21. おいくつ 22. 数詞 23. 年齢の言い方 24. 和食はいかが 25. 経験を表す表現 26. 形容詞述語文 27. 家庭訪問 28. 比較の表現 29. 意思を表す助動詞 30. まとめ					
【留意事項】 日本語・英語の文法に関する基礎知識が必要である				【テキスト】 相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ交差点 エssenシャル版』朝日出版社 2019年					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 30回の授業終了後、期末試験を行う。10回以上欠席した者は試験を受ける資格を失う。				【参考図書】 特になし					

授業科目名 ハングル入門				担当者 河 智弘					
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 1年～
【授業概要】 韓国語の基礎を習得するために必要な文字、発音を学んだ上で、簡単な会話をロールプレイなどで実践する。				【学習内容(各回の授業予定)】					
【到達目標】 韓国語の基礎である文字、発音をマスターして、実際に使える日常会話が駆使できるようになる。				1. 講義の目的、概要、ハングルとは 2. 文字(母音と子音) 3. パッチムと発音練習 4. 自己紹介 5. これは何ですか 6. 何をしますか 7. どこに行かれますか 8. 携帯番号は何番ですか 9. どこにありますか 10. 週末何をなさいましたか 11. 市場はどうですか 12. りんごはいくらですか 13. 何になさいますか 14. 何時に終わりますか 15. 不規則用言の活用とまとめ					
【予習・復習等準備学習の内容】 教科書をよく読んで、各課の本文、練習問題、読解をノートに書いて予習すること。				【テキスト】 『カナダKOREAN初級1』国書刊行会					
【留意事項】 授業の中で発音や会話を行うので積極的に取り組むこと。				【参考図書】 特になし。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 授業への取り組み(30%)、小テスト(30%)、期末試験(40%)で総合的に評価する。									

授業科目名 コンピュータ入門			担当者 梶西 将司						
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 1年～
【授業概要】 パソコン教室の使用について授業を行う。次にインターネットの利用方法と注意点やeメールの利用方法について授業を行う。そして、コンピュータの利用方法とExcelの使用方法を教科書の例を実際に行いながらマスターする。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. パソコン・Windowsの利用方法 2. eメールの使用法としくみ 3. Excelの基礎、保存と呼び出し 4. ページ設定・印刷 5. 表示形式の変更、合計・平均、相対参照 6. 絶対参照、最大・最小、データのカウンタ 7. 条件付き書式 8. グラフ(1)棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ 9. グラフ(2)3-Dグラフ、複合グラフ、ドーナツグラフ、レーダーチャート 10. データベース(1)データの並べ替え、検索と置換 11. データベース(2)データの抽出・集計 12. さまざまな関数 13. Excelの応用・順位付け、行と列の検索 14. ピボットテーブルを利用した集計 15. インターネットの利用方法と注意点						
【到達目標】 学内のコンピュータやプリンタ、メールアドレスが利用できる。Excelを用いて表やグラフを作成できる。情報リテラシーを理解している。			【テキスト】 30時間でマスター Windows8対応 Excel2013 実教出版						
【予習・復習等準備学習の内容】 次回の授業範囲を予習し、理解を深めておくこと。			【参考図書】 特になし						
【留意事項】 1年生は指定された時間を受講すること。			【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 授業中の課題40%、試験40%、平常点20%で評価する。評価について希望する学生には、個別に説明を行う。						

授業科目名 統計学			担当者 古川 徹						
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	1年:選択科目 2年:必修科	配当年次	言語文化: 1年～	生活心理: 1年～	看護: 1年～
【授業概要】 現代の情報化社会では、多様なデータを整理・分析してその傾向を把握する基礎的能力や、標本から母集団の特徴を科学的に把握するための統計学の素養が、各専門分野のみならず日常生活においても必要になってきた。この講義では、統計学の基本事項である資料の整理・確率分布・推定・検定を通して、統計的やもの見方や統計手法を解説する。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 統計図表、代表値(平均値・メジアン・モードなど) 2. 散布度(範囲・四分位偏差・平均偏差・標準偏差・分散) 3. チェビシェフの不等式、データの1次変換・標準化変換、偏差値、変動係数 4. 相関関係、相関係数 5. 回帰直線、回帰直線と相関係数との関係 6. 確率変数、確率変数の平均・分散・標準偏差、確率変数の標準化 7. 2次元確率分布、確率変数の独立 8. 連続的確率変数、正規分布、正規分布の再生性 9. 無作為標本、標本変量、大数の法則、中心極限定理 10. 二項分布、ポアソン分布、ラプラスの定理 11. 統計量、不偏推定量、母平均と母分散の点推定 12. 母平均と母比率の区間推定 13. t分布、母平均の検定 14. F分布、母比率の検定 15. χ^2 分布、母分散の検定						
【到達目標】 統計学の基本事項と基本的な考え方を学び、データを分析する能力を身につける。特に、具体例を通して、推定と検定の方法論を修得する。			【テキスト】 ○書名: 確率統計, 出版社: 森北出版						
【予習・復習等準備学習の内容】 テキストおよび配布プリントを使って、毎回、授業の復習および予習をすること。なお、前期の「数学基礎」の授業を履修していることが望ましい。			【参考図書】 ・皆本 晃弥、スッキリわかる確率統計: 一定理のくわしい証明つき一、近代科学社、2015年 ・小島 寛之、完全独習 統計学入門、ダイヤモンド社、2006年						
【留意事項】 ○板書の内容を写すだけではなく、勉強用のノートを作ること。○分からない事は放置しないこと。○出来なかった問題は繰り返し解くこと。			【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 小テスト計20点と定期試験計80点の合計100点満点で評価する。計60点以上が合格となる。小テストや定期試験の問題は、テキストおよび配布プリントの練習問題から出題する。同じ問題であるが、定期試験終了時に解答のプリントを配布する。						

授業科目名 数学基礎・統計学入門			担当者 古川 徹		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目
		配当年次	言語文化: 1年～	生活心理: 1年～	看護: 1年～
【授業概要】 高校の教科は、2012年度から数学と理科が、2013年度から他の全教科が新課程に移行した。高校数学では、旧課程の数学Cの一部が数学ⅠAやⅡBに移行し、文系志望生徒の数学の学習のウェイトが増大した。しかし一方では、必修科目になつた数学Ⅰの学習が未消化の大学生や、数学Aの全分野を学習していない大学生も多い(数学ⅡBではその傾向はさらに増大する)。この授業では高校の数学ⅠA・数学Bを中心に学習し、数学の基礎力の向上を目指す。授業の一部の内容は、後期の「統計学」の学習の基礎にもなる。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 小数・分数の計算, 量の単位と計算, 単体量あたりの大きさ 2. 割合, 百分率と歩合, 比の性質, 比の利用 3. 整式の割り算, 恒等式, 因数分解 4. 実数, 根号を含む式, 不等式 5. 集合演算 6. 等差数列・等比数列, いろいろな数列 7. 2次関数と方程式・不等式 8. データの分析—度数分布表, 代表値 9. データの分析—分散と標準偏差 10. データの分析—相関, 相関係数 11. 場合の数, 和の法則, 積の法則, 様々な順列 12. 組み合わせ, 重複組合せ 13. 事象と確率, 確率の基本性質 14. 独立試行, 条件付き確率 15. 整数、約数と倍数、N進法		
【到達目標】 テキストの例題・類題および配付プリントの問題がきちんと解けるようになること。(配布プリントの問題については、詳細な解答のプリントも配布する。)					
【予習・復習等準備学習の内容】 テキストおよび配布プリントを使って、毎回、指定された範囲の復習および予習をすること。					
【留意事項】 ○板書の内容を写すだけではなく、勉強用のノートを作ること。○分からない事は放置しないこと。○出来なかった問題は繰り返し解くこと。			【テキスト】 ○書名:基礎からのシグマベスト 高校 これでわかる数学Ⅰ+A, 出版社: 文英堂 ○書名:新編 数学B 文部科学省検定済教科書 数研出版, 出版社: 数研出版		
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 小テスト計20点と定期試験計80点の合計100点満点で評価する。計60点以上が合格となる。小テストや定期試験の問題は、テキストおよび配布プリントの練習問題から出題する。同じ問題であるが、定期試験終了時に解答のプリントを配布する。			【参考図書】 (※ 高校時代の数学の教科書・参考書・問題集があれば、それも参考にすること)		

看 護 学 部
看 護 学 科

(専門教育科目)

授業科目名 解剖生理学Ⅰ			担当者 百田 龍輔						
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 1年～
【授業概要】 人体の仕組みについて構造(解剖学)と機能(生理学)の側面から概説する。人間の生活行動の理解に主眼を置き、看護学を学ぶ上での専門的基礎学習を行うことを目的とし、従来の解剖学と生理学を統合した講義を行う。解剖生理学Ⅱは続く解剖生理学Ⅱと合わせて人間全体の仕組みを学習する。この講義では、そのうち、体液とその循環、神経系とホルモンによる調節、消化について学ぶ。			【学習内容(各回の授業予定)】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の概要、細胞・組織と器官系 2. 人体の概要、細胞・組織と器官系 3. 栄養の消化と吸収:消化管の構造と機能 4. 栄養の消化と吸収:膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能、腹膜 5. 呼吸と血液:呼吸器の構造 6. 呼吸と血液:呼吸 7. 呼吸と血液:循環器系:心臓、末梢循環系 8. 呼吸と血液:血液の循環とその調節 9. 呼吸と血液:血液の循環とその調節 10. 呼吸と血液:リンパ管、血液 11. 体液の調節と尿の生成:腎臓 12. 体液の調節と尿の生成:排尿路、体液の調節 13. 内臓機能の調節:自律神経 14. 内臓機能の調節:内分泌系 15. 内臓機能の調節:内分泌系 						
【到達目標】 人体とそれを構成する各器官の位置・構造を概説できる。各器官系の構造・機能を概説できる。各器官系の主要な器官・組織の基本構造とそれぞれの機能について概説できる。			【テキスト】 系統看護学講座・専門基礎「人体の構造と機能[1]解剖生理学」医学書院 「解剖トレーニングノート 改訂第3版」医学教育出版社 「ぜんぶわかる人体解剖図」坂井 建雄 成美堂出版						
【留意事項】 Moodleをフルに活用するので自分の端末を必ず持参し、講義までに接続できる状態にすること。			【参考図書】 マティーニ他著、井上他訳「カラー人体解剖学・構造と機能ミクロからマクロまで」西村書店 看護に必要な漢字で覚える解剖ドリル プチナースBOOKS 照林社						
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末試験のほか、Moodle上で小テストを行い総合的に評価する。									

授業科目名 解剖生理学Ⅱ			担当者 百田 龍輔						
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 1年～
【授業概要】 人体の仕組みについて構造(解剖学)と機能(生理学)の側面から概説する。人間の生活行動の理解に主眼を置き、看護学を学ぶ上での専門的基礎学習を行うことを目的とし、従来の解剖学と生理学を統合した講義を行う。解剖生理学Ⅱは続く解剖生理学Ⅱと合わせて人間全体の仕組みを学習する。この講義では、そのうち、体液とその循環、神経系とホルモンによる調節、運動、消化について学ぶ。			【学習内容(各回の授業予定)】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 体の支持と運動:体幹の骨格と筋 2. 体の支持と運動:体幹の骨格と筋 3. 体の支持と運動:上肢の骨格と筋 4. 体の支持と運動:上肢・下肢の骨格と筋 5. 体の支持と運動:頭部・頸部の骨格と筋 6. 解剖実習見学 7. 情報の受容と処理:神経系の構造と機能 細胞と興奮の伝達 8. 情報の受容と処理:神経系の構造と機能、中枢神経 9. 情報の受容と処理:末梢神経 脊髄神経 10. 情報の受容と処理:末梢神経 脳神経 11. 情報の受容と処理:感覚器、興奮伝達 12. 情報の受容と処理:感覚器、興奮伝達 13. 外部環境からの防御 14. 生殖・発生と老化の仕組み:生殖 15. 生殖・発生と老化の仕組み:発生 						
【到達目標】 人体とそれを構成する各器官の位置・構造を概説できる。各器官系の構造・機能を概説できる。各器官系の主要な器官・組織の基本構造とそれぞれの機能について概説できる。			【テキスト】 系統看護学講座・専門基礎「人体の構造と機能[1]解剖生理学」医学書院 「解剖トレーニングノート 改訂第3版」医学教育出版社 「ぜんぶわかる人体解剖図」坂井 建雄 成美堂出版						
【留意事項】 解剖実習見学を予定している。実習着を着用すること。レポートも課題とする。			【参考図書】 マティーニ他著、井上他訳「カラー人体解剖学・構造と機能ミクロからマクロまで」西村書店 看護に必要な漢字で覚える解剖ドリル プチナースBOOKS 照林社						
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末試験のほか、Moodle上で小テストを行い総合的に評価する。									

授業科目名 生化学			担当者 小野 和夫						
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 2年～
【授業概要】 生化学は、生命現象を化学的な手段で論理的に明らかにすることを目的としている。この授業では、生命現象や病態を分子レベルで理解するために必要な事項、つまり生体物質の基本的な構造と機能ならびに代謝について学ぶ。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 細胞の構造と機能(細胞膜、細胞質、核、細胞小器官) 2. 生体成分 (糖質、脂質、タンパク質、核酸) 3. 酵素(1) (一般的な性質) 4. 酵素(2) (ビタミンと補酵素、活性調節) 5. 糖質の代謝(1) (解糖) 6. 糖質の代謝(2) クエン酸回路、電子伝達系 7. 糖質の代謝(3) グリコーゲン代謝、ペントースリン酸回路 8. 脂質の代謝(1) β 酸化、ケトン体、脂肪酸の合成 9. 脂質の代謝(2) コレステロール、エイコサノイド、リポタンパク質 10. アミノ酸の代謝(1) アミノ窒素の代謝、炭素骨格の代謝、糖新生 11. アミノ酸代謝(2) アミノ酸からの含窒素化合物の合成 12. 代謝のつながり (血糖調節を軸にした3大栄養素の代謝とその調節、臓器の代謝特性) 13. ポルフィリンの代謝 (ヘムの合成、ビリルビンと黄疸) 14. 核酸の代謝 (モノヌクレオチド、サルベージ回路、尿酸) 15. 遺伝情報とその発現 (DNAの複製、転写、コドン、翻訳、遺伝子発現調節)						
【到達目標】 ①生体における物質代謝を動的、かつ総合的に理解する。②生体の各器官の代謝特異性を知り、個体の正常な機能維持との関連を理解する。③代謝と代謝調節の異常が、種々の疾患や病態と関係することを理解する。			【テキスト】 系統看護学講座 生化学 三輪・中 著(医学書院)						
【予習・復習等準備学習の内容】 授業範囲を予習し、疑問点をノートにまとめておくこと。授業プリントと返却された受講票を活用して復習すること。			【参考図書】 からだの生化学 田川 邦夫著 (タカラバイオ)						
【留意事項】 なし									
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末試験70%、毎回の受講票・課題30% 毎回、授業終了時に受講票による理解度の確認を行う。また、課題を課すこともある。これらについては評価後、返却し解説を行う。15回の授業終了後、期末試験を行う。試験の不合格者については再試験前に学習課題を課す。									

授業科目名 発達心理学			担当者 高橋 功						
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: 2年～	看護: 2年～
【授業概要】 発達心理学は、人生という長期の視野で見たときの、人間の意識と行動の変化、あるいは人と人との関わりの変化を研究する分野である。この授業はその入門的な講義であり、基本的には教科書に準じて進める。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 授業の説明、発達心理学とは(keywords: 発達・学習・成熟, 生涯発達, 生涯学習) 2. 遺伝と環境(keywords: 臨界期, 相互作用, 後成説) 3. ピアジェの発生的認識論(keywords: 発達段階, 表象操作, 同化・調節・均衡) 4. エリクソンの心理社会的発達論(keywords: ライフサイクル, 危機, 徳目) 5. ヴィゴツキーの文化歴史的発達論(keywords: 言語と思考, 発達の生近接領域, 社会的構成主義) 6. 胎児期・乳児期(keywords: 生理的早産, 新生児有能説, 愛着) 7. 幼児期(1)(keywords: 基本的な生活習慣, トイレトレーニング) 8. 幼児期(2)(keywords: 語彙獲得, 共同注意) 9. 児童期(keywords: 遊び, 表象のパラドクス) 10. 思春期(keywords: 身体と心, 自我と自己) 11. 青年期(keywords: アイデンティティ, モラトリアム) 12. 成人期前期(keywords: キャリアレインボウ, 計画的偶発性理論) 13. 成人期中期(keywords: 人生の四季, 生活構造) 14. 老年期(keywords: サクセスフルエイジング, SOC) 15. 発達心理学の研究法(keywords: 種々の観察方法, コホート法)						
【到達目標】 ①発達心理学の基本知識を修得している, ②発達心理学の基礎知識を自身や身の回りの人たちの発達に関連づけることができる。			【テキスト】 二宮克美・大野木裕明・宮沢秀次『ガイドライン生涯発達心理学(第2版)』ナカニシヤ出版						
【予習・復習等準備学習の内容】 moodle上で提示する授業ごとの予習課題と復習課題を行う。			【参考図書】 子安増生『生涯発達心理学のすすめ』有斐閣選書						
【留意事項】 特になし									
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 予習課題37.5%, 復習課題37.5%, 小テスト10%, レポート15%を評価材料とする。期末試験なし。									

授業科目名 人間関係論				担当者 澁谷 久美			
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: - 生活心理: - 看護: 1年～
【授業概要】 対人援助職である看護師にとって、より良い人間関係を築くことは大切なことである。どうしたらより良い人間関係を築くことができるのか演習を通して学ぶ。演習は、個人、二人組、グループで行う。				【学習内容(各回の授業予定)】 1. 自分と他者との関係 2. 価値観の違い 3. バーバルコミュニケーション 4. ノンバーバルコミュニケーション 5. お互いを大切にすること 6. 問題解決のための自己表現 7. 感情表現の仕方 8. 対人援助における人間関係			
【到達目標】 演習を通して、自分を知り、これまでの人間関係を振り返り、これからの自分の課題を見つけることができる。より良い人間関係を築くための基礎的な理論を理解する。				【テキスト】 なし。毎回演習シートと資料を配布する。			
【予習・復習等準備学習の内容】 毎回ふりかえりレポートを提出すること。レポートに取り組む中で次回の授業での自分の課題をつかんでおくこと。				【参考図書】 なし。			
【留意事項】 演習に真剣に取り組むこと。							
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 ふりかえりレポート80%、授業中の課題20%で評価する。レポート、課題について、授業の中で講評を行う。							

授業科目名 臨床心理学				担当者 峰山 幸子			
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	選択科目	配当年次	言語文化: - 生活心理: - 看護: 2年～
【授業概要】 心理学における臨床心理学の位置づけについて理解した上で、臨床心理学の理論と方法、心理的援助を必要とする精神医学的な問題とその支援について学ぶ。内容によって、演習形式を導入する予定である。				【学習内容(各回の授業予定)】 1. オリエンテーション 臨床心理学とは、心理学における臨床心理学の位置づけ 2. 臨床心理学の歴史 3. パーソナリティの理解 4. 心理療法① 精神分析の理論と方法 5. 心理療法② 認知行動療法の理論と方法 6. 心理療法② 認知行動療法の実際 7. 心理療法③ パーソンセンタード・アプローチ(人間性心理学)の理論と方法 8. その他の心理療法			
【到達目標】 臨床心理学の基本的考え方、基本の用語を理解する。また、臨床心理学の知見をもとに、自分自身の現在の生活、自分自身を振り返り、考えを深めることを求める。				【テキスト】 絶対役立つ臨床心理学—カウンセラーを目指さないあなたにも 藤田 哲也 監修、申崎真志 編著 ミネルヴァ書房			
【予習・復習等準備学習の内容】 前回の学習内容を復習し、理解が不十分な点については次の講義にて質問できるようにする。				【参考図書】 特になし			
【留意事項】 特になし。							
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 全授業終了後、期末試験を行う。出席回数、授業中に課した提出物、期末試験の結果を評価の対象とする。また、評価Aは8割以上の出席を条件とする。							

授業科目名 生命・医療倫理 [※2年再履修者対象]			担当者 栗屋 剛・于麗玲						
単位数	1 単位	開講期	集中	区分	必修科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 1年～※
【授業概要】 我々の社会生活が法や倫理によって規制されているように、医学・医療(歯科医学・歯科医療や看護を含めて)も、法や倫理、とりわけ医事法や生命倫理(医療倫理)によって規制されている。それらは、いわば「医学・医療規制」という名の車の両輪である。このような観点から、本講義では、法と倫理の齟齬にも目配りをしつつ、生命倫理(医療倫理)の最重要領域(及び関連する法規制)を解説する。			【学習内容(各回の授業予定)】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 臓器売買を通して生命倫理を考える 2. 臓器移植をめぐる法と倫理 3. 脳死をめぐる法と倫理 4. 死生論 5. 優生学 6. テクノロジーと人間改造 7. 葉書 8. 人間論—人間の尊厳と人権— 9. 安楽死・尊厳死をめぐる法と倫理 10. 患者の自己決定権とインフォームド・コンセント 11. 人体実験 12. 医療者の法的義務と責任/医療事故をめぐる法と倫理 13. 医療者の犯罪とモラル/看護師の職業倫理 14. 生殖医療をめぐる法と倫理 15. 倫理とは何か/生命倫理とは何か 			【到達目標】 将来、生命倫理(医療倫理)が関係してくる具体的な場面(医療現場)で適切に判断し、行動する能力を養う。			
【予習・復習等準備学習の内容】 テキストに一通り、目を通しておくこと。			【テキスト】 『生命倫理学/医療と法 講義スライドノート』(栗屋剛ほか編、ふくろう出版)			【留意事項】 授業にテキストを持参し、授業内容を簡潔にノート整理すること。			
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 出席状況、授業中の発言、小テストの総合評価。出席率2/3以上を期末試験の受験資格とする。			【参考図書】 『シリーズ生命倫理学 全20巻』(栗屋剛編集代表、丸善)						

授業科目名 医療安全			担当者 笹谷 孝子						
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 3年～
【授業概要】 医療が日々変化、発展する中、患者に安全で質の高い医療を提供することは重要な課題である。医療現場における安全対策とリスクマネジメントの意義を学び、看護実践における事故防止の意識を高める。医療現場で取り組まれている安全対策、事故発生メカニズムと発生防止の考え方を理解する。チームの一員として医療安全に取り組むための知識と方法を学ぶ。			【学習内容(各回の授業予定)】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全と事故防止の考え方・医療安全の歴史 2. 診療の補助の事故防止(I) 3. 診療の補助の事故防止(II) 4. 療養上の世話の事故防止 5. 業務領域を超えて共通する間違いと発生要因・医療安全とコミュニケーション 6. 組織的な医療安全管理体制・医療安全の動向 7. 演習:KYT(危険予知トレーニング)・チームステップス【グループワーク】 8. 看護学実習における医療安全 			【到達目標】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全の考え方が理解できる。 2. 医療安全対策の重要性が理解できる。 3. 医療事故防止のための具体的方法が理解できる。 			
【予習・復習等準備学習の内容】 毎回の授業での学習内容を復習し、理解が不十分な点については次時の授業で質問できるように準備する。			【テキスト】 系統看護学講座 看護の統合と実践「2」医療安全 医学書院			【留意事項】 毎時間に実施するレスポンスシートに、意見や感想を記載する。欠席した場合には、次時の講義時に必ず資料を受け取ること。			
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末試験 80% 小テスト 10% 課題レポート 10%			【参考図書】 ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践「医療安全」メディカ出版 WHO患者安全カリキュラムガイド多職種版						

授業科目名 臨床コミュニケーション			担当者 上地 玲子								
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	選択科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 2年～		
【授業概要】 医療・福祉・教育などの場面において、さまざまなケースに対応できるコミュニケーション能力が必要となってくる。本講義では、特に医療現場における臨床場面で必要なコミュニケーション方法について取り扱う。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 対象の生き方を尊重した健康支援のための基礎的技能 2. コミュニケーション・スキル 3. 対象コミュニケーション 4. カウンセリング 5. 人間関係を築くための基礎的なコミュニケーション・スキル 6. さまざまな看護場面に活かすコミュニケーション・スキル 7. コミュニケーション・スキルの学び方 8. 慢性疾患を抱えた小児の保護者対応			【到達目標】 1. 臨床コミュニケーションの基本的な知識を身につける。 2. 臨床コミュニケーションに関する知識を一方的に教えられただけでなく、自ら学ぶ姿勢を身につける。			【予習・復習等準備学習の内容】 テキストを読み、わからない用語などを事前に調べてノートしておくこと。		
【留意事項】 現場経験豊富な専門職による講義が入る場合は、シラバスの順序が変更になる。			【テキスト】 「看護に活かすカウンセリング I」伊藤まゆみ【編】ナカニシヤ出版			【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末試験70%、授業ごとに課すミニレポート・授業態度30%により評価する。 試験結果フィードバックを希望する学生については、個別に資料を基に説明を行う。			【参考図書】 特になし		

授業科目名 行動科学			担当者 北川 歳昭								
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	選択科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 1年～		
【授業概要】 人間理解の知識体系である行動科学について、その全体像と個別分野を基礎心理学・応用心理学を軸にして概説する。この授業で、臨床場面で求められる対人援助の前提となる自他の心とそのケアのあり方についての理解を深めてほしい。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 行動科学と心理学 2. 知能と個人差 3. 発達と教育 4. ストレスと適応 5. 心の病態と障害 6. 心理療法とカウンセリング 7. パーソナリティとその測定 8. 医療・看護と心理学			【到達目標】 人間の行動や心理に関する原理を理解し、自他の心の受容やそのケアについての基礎的な知識を獲得することを目標とする。			【予習・復習等準備学習の内容】 配付資料、テキスト、参考図書及び関係科目(心理学、人間関係論等)のテキスト類の関連部分を参照する。		
【留意事項】 特になし。			【テキスト】 『心理学概論』ナカニシヤ出版			【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 定期試験を実施する。レポート(20%)及び期末試験(80%)で評価する。			【参考図書】 『系統看護学講座 基礎分野 心理学』医学書院 『系統看護学講座 基礎分野 人間関係論』医学書院		

授業科目名 微生物学(感染・免疫学を含む)				担当者 野田 泰子 他			
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: - 生活心理: - 看護: 1年～
【授業概要】 微生物の人体に及ぼす影響および病原微生物の感染の予防について理解させることを目的とする。総論として、微生物の理学的特徴を把握させ、充分な基礎的知識をもって臨床への適応を図る。最近、院内感染・新興感染症・再興感染症・食中毒などが重要視されており、感染予防と消毒法の基礎知識を習得させる。				【学習内容(各回の授業予定)】 1. 微生物学総論(歴史・分類・形態・生物特性)(野田) 2. 細菌学総論(増殖・代謝・感染と発症・生体防御機構と常在細菌叢)(野田) 3. 細菌学各論(グラム陽性通性嫌気性球菌)(野田) 4. 細菌学各論(グラム陰性通性嫌気性桿菌)(野田) 5. 細菌学各論(グラム陰性微好気性菌・好気性菌)(野田) 6. 細菌学各論(嫌気性菌・抗酸菌・スピロヘータ・マイコプラズマ・リケッチア・クラミジア)(野田) 7. 病原ウイルス総論および各論(ヘルペスウイルス・インフルエンザウイルス)(野田) 8. 病原ウイルス各論(ノロウイルス・肝炎ウイルス・主たる病原ウイルス)(野田) 9. プリオン・真菌・寄生虫(野田) 10. 滅菌と消毒総論(野田) 11. 消毒剤各論と適用例の実際(野田) 12. 食中毒総論・各論(ウイルス性・細菌性毒素型/感染型食中毒)・最近話題の感染症(野田) 13. 新興/再興/人獣共通感染症・感染経路・感染症の予防と対策・感染症法(野田) 14. 免疫・アレルギー(篠田) 15. 化学療法剤・予防接種(篠田)			
【到達目標】 感染症を引き起こす微生物や感染様式などに関する基礎的な知識が習得できる。感染予防と対策について理解できる。				【テキスト】 小熊恵二・堀田博編、コンパクト微生物学、南江堂。			
【予習・復習等準備学習の内容】 次回の授業範囲を調べ教科書の下読みしておく。				【参考図書】 特になし。			
【留意事項】 特になし。				【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末試験を行う。試験の不合格者については、再試験までに類似の課題を復習・自学自習しておくこと。			

授業科目名 薬理学				担当者 勅使川原 匡			
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: - 生活心理: - 看護: 2年～
【授業概要】 薬物作用の基本と、個々の重要な薬物の作用・副作用が理解できるようにする。総論、薬物動態学に続いて15回の各論講義をおこなう。				【学習内容(各回の授業予定)】 1. 薬理学総論 薬物の作用原理と生体内標的概念 2. 薬物の生体内動態 薬物からの投与経路と生体内動態に影響する因子 3. 自律神経作用薬(I) アドレナリン α/β 受容体の分布と交感神経の機能調節 4. 自律神経作用薬(II) アセチルコリン受容体と副交感神経支配臓器 5. 自律神経作用薬(III) 自律神経系に作用する刺激薬、及び、遮断薬について 6. 糖尿病の治療薬 7. 脂質異常症の治療薬 8. 心疾患の治療薬(I) 抗不整脈薬 9. 心疾患の治療薬(II) 心不全治療薬・狭心症治療薬 10. 循環器系の治療薬 抗高血圧薬 11. 血液系疾患(I) 抗血栓薬、止血薬 12. 血液系疾患(II) 造血薬、抗悪性腫瘍薬(白血病) 13. 中枢神経作用薬(I) パーキンソン病、てんかん、アルツハイマー病の治療薬 14. 中枢神経作用薬(II) 睡眠薬、麻薬性鎮痛薬、麻酔薬(全身、局所、筋弛緩) 15. 中枢神経作用薬(III) 抗精神病薬(統合失調症)、抗うつ薬、気分安定薬、抗不安薬			
【到達目標】 薬物作用の基本と代表薬の理解。代表的薬物の標的分子について説明できるようにする。薬力学的作用の延長で理解できる副作用とそうでない重要な副作用について、説明できるようにする。禁忌と薬物の安全性についての理解を深める。				【テキスト】 配布資料 系統看護学講座 専門基礎 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進[3] (医学書院)			
【予習・復習等準備学習の内容】 人体解剖・生理、神経系・ホルモン系・免疫系による生体機能の調節に関する学習。				【参考図書】 パワーアップ問題演習 薬理学 第2版(鈴木正彦, サイオ出版, ISBN:9784907176662, ¥1900) ※ 参考図書の購入は、学生各自の任意で構わない。			
【留意事項】 特になし。				【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 最終試験の成績で評価。			

授業科目名 病理学				担当者 高橋 聖之			
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: - 生活心理: - 看護: 1年～
【授業概要】 臨床医学の基礎としての病理学を講義する。臨床医学は厳密な科学としての病理学を基礎としており、様々な疾患の生物学的原因や病変の成り立ち、その転機について判り易く講義する 【到達目標】 病理総論を学ぶことによって、病気がどのような機序で引き起こされるのかを科学的に理解する。病理各論を学ぶことによって基本的な疾患の具体的な原因、発症機序、病態を理解する 【予習・復習等準備学習の内容】 配布するプリントにそって講義するので、予めプリントに目を通しておくこと。また、毎回課すレポートを次回の授業で提出すること。 【留意事項】 プリントが教科書の代わりになるので、大切に保存し、復習する 【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末試験70点、レポート30点 レポートは評価の上、解説とともに返却を行う。				【学習内容(各回の授業予定)】 1. 病理学とは、病理学の歴史、医療に置ける病理学の役割 2. 細胞組織の退行変性と進行性病変 3. 循環障害 4. 炎症と免疫 5. 感染症 6. 腫瘍 7. 呼吸器疾患 8. 循環器疾患 9. 消化器疾患 10. 泌尿器疾患 11. 婦人科疾患 12. 内分泌疾患 13. 血液疾患 14. 脳神経疾患 15. 病理学のみまとめ 【テキスト】 教科書は指定しない プリントで講義を行うが、参考書として以下を推薦する。 スタンダード病理学 スタンダード病理学 第3版 文光堂 【参考図書】 上記のとおり			

授業科目名 疾病・治療論 I (内科系領域)				担当者 小山 芳伸・井上 智 他							
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: - 生活心理: - 看護: 2年～				
【授業概要】 看護に必要な内科学についてそれぞれの領域の疾患の病態・検査・診断・治療に必要な基本的知識を学習する。 【到達目標】 1. 成人・老年期における内科系疾患の病態・検査・診断・治療について理解する 2. 最新の治療および予後について学ぶ 【予習・復習等準備学習の内容】 解剖生理学・病理学などの復習をしておくこと 【留意事項】 特になし 【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 1. 期末試験				【学習内容(各回の授業予定)】 1. 4/11 消化器 (佐藤) 2. 4/18 消化器 (佐藤) 3. 4/25 呼吸器 (細川) 4. 5/9 呼吸器 (細川) 5. 5/16 血液 (藤井) 6. 5/23 血液 (藤井) 7. 5/29 腎臓(蒲生) 8. 5/30 糖尿病 (宮下) 9. 6/6 循環器 (田中) 10. 6/13 循環器 (田中) 11. 6/20 アレルギー (小山) 12. 6/27 アレルギー (小山) 13. 7/4 内分泌 (早川) 14. 7/18 脳腫瘍、頭部外傷 (井上) 15. 7/25 中枢神経系の変性疾患、炎症性、脱髄疾患など (井上)				【使用テキスト】 [5] [5] [2] [2] [4] [4] [8] [6]・[8] [3] [3] [11] [11] [6] [7] [7]			
【テキスト】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学【2,3,4,5,6,7,8,11】. 医学書院 【参考図書】 適宜紹介する											

授業科目名 疾病・治療論Ⅱ(外科系領域)			担当者 森山 重治・渡邊 恭一 他						
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 2年～
【授業概要】 看護に必要な外科学についてそれぞれの領域の疾患の病態・検査・診断・治療に必要な基本的知識を学習する。			【学習内容(各回の授業予定)】			【使用テキスト】			
【到達目標】 1. 成人・老年期における外科系疾患の病態・検査・診断・治療について理解する 2. 最新の治療および予後について学ぶ			1. 4/8 大腸外科 (池田) [5] 2. 4/15 心臓血管外科 (中西) [3] 3. 4/22 乳腺疾患 (吉富) [9] 4. 5/13 甲状腺疾患 (吉富) [6] 5. 5/20 上部消化管外科 (高木) [5] 6. 5/22 麻酔 (小林) 別巻 7. 5/27 麻酔 (小林) 別巻 8. 6/3 肺癌 (森山) [2] 9. 6/10 気胸、横隔疾患、他 (森山) [2] 10. 6/17 肝・胆・膵外科 (山野) [5] 11. 6/24 心臓血管外科 (中西) [3] 12. 7/1 整形外科 (小西池) [10] 13. 7/8 整形外科 (小西池) [10] 14. 7/22 神経所見の取り方 (渡邊) [7] 15. 7/29 脳血管障害(手術と血管内治療) (渡邊) [7]						
【予習・復習等準備学習の内容】 解剖生理学・病理学などの復習をしておくこと			【テキスト】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学【2,3,5,6,7,9,10】. 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院						
【留意事項】 特になし			【参考図書】 適宜紹介する						
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 1. 期末試験									

授業科目名 疾病・治療論Ⅲ(精神科領域)			担当者 渡邊 佑一郎						
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 2年～
【授業概要】 「こわい」「難しい」とネガティブなイメージを持たれがちな精神科領域であるが、現代社会において精神科疾患に悩まされる人々は少なくなく、今後の医療においても精神科が担うべき役割は大きい。本講義では、精神科疾患の病態や治療だけではなく、これまで精神科医療が辿ってきた歴史や社会との関係性などについても解説していく。			【学習内容(各回の授業予定)】						
【到達目標】 精神医学の基本的理解を第一目標とし、国家試験および実際の臨床現場において必要最低限の知識の獲得を目指していく。精神科疾患に対する偏見の払拭も目指していきたい。			1. 精神医学概論 歴史と制度 2. 精神医学総論(1) 精神症候学 3. 精神医学総論(2) 精神医学的診断学および治療論概説 4. 精神医学各論(1) 統合失調症 5. 精神医学各論(2) 気分障害 [うつ病、双極性障害] 6. 精神医学各論(3) 認知症 器質性精神障害 7. 精神医学各論(4) 神経症性障害 人格障害 依存症 8. 精神医学各論(5) 児童精神医学 てんかん 9. 期末試験とまとめ						
【予習・復習等準備学習の内容】 予習に関しては、講義内容に該当するテキスト部位を読み、疑問点を事前にまとめておくこと。講義終了後は、配布プリントとテキストを照らし合わせながら復習すること。			【テキスト】 落合慈之監修『精神神経疾患ビジュアルブック』学研						
【留意事項】 私語などの講義妨害行為には厳しく対応する。			【参考図書】 大熊輝雄著『現代臨床精神医学 改訂第12版』金原出版株式会社 川野雅資編集『精神看護学Ⅱ－精神臨床看護学－[第6版]』ヌーヴェルヒロカワ						
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末試験および講義態度等を総括して判断する。期末試験で基準点に達しなかった場合、追試験は実施せず、レポート課題を課す。レポートは相当量の学習を要する課題とする。真摯な態度で講義に臨み、期末試験で基準点に達することを期待する。									

授業科目名		疾病・治療論Ⅳ(産科・婦人科領域)			担当者			担当者未定		
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 2年～	
【授業概要】 産科・婦人科領域における、正常と異常について理解し、疾患の病態、原因、検査、治療について学ぶ。また、女性のライフステージにおいておこる変化と健康課題について知識を得る。					【学習内容(各回の授業予定)】 1. 女性生殖器(解剖) 2. 性周期とライフサイクル 3. 婦人科疾患(良性) 4. 婦人科疾患(悪性) 5. 不妊・不育 6. 正常妊娠・異常妊娠 7. 産科・婦人科の検査・治療 8. 産科・婦人科の手術					
【到達目標】 1. 生殖器・内分泌について理解する 2. 婦人科悪性・良性疾患について理解する 3. 正常・異常妊娠について理解する										
【予習・復習等準備学習の内容】 「解剖生理学の生殖器、発生、ホルモンについて」の学習内容を復習しておくこと。										
【留意事項】 課題提出期日を守る 予習・復習の学習プランを主体的に立案して臨むこと。 授業ではホワイトボードを使用するので、各自ノートを準備すること。					【テキスト】 系統看護学講座専門分野Ⅱ 女性生殖器 医学書院 病気が見えるVol.10 産科第3版 メディックメディア					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末試験70% 授業ノートの提出30% ・授業内容を分かりやすくまとめたものを提出する。 ・提出日時については授業中に示す。					【参考図書】 適宜授業中に紹介する					

授業科目名		疾病・治療論Ⅴ(小児科領域)			担当者			井上 勝・後藤 振一郎		
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 2年～	
【授業概要】 小児は成人のミニチュアではない。成人との相違点と成長・発達にしたがって変化する各年齢における小児の特性を、理解し、問題点を解決できる力を養えるようにするために、特に、小児に特有の疾患や、成人との相違に、主眼を置き解説する。					【学習内容(各回の授業予定)】 1. 小児の成長発達と小児保健(井上)4/12 2. 小児の内分泌疾患と悪性新生物(井上)5/17 3. 先天異常と代謝性疾患(井上)5/31 4. 小児の呼吸器疾患とアレルギー(井上)6/14 5. 小児の消化器と泌尿器疾患(井上)6/28 6. 小児の神経疾患と発達障害(後藤)4/24 7. 小児の感染症(後藤)5/15 8. 新生児・未熟児疾患と循環器疾患(後藤)6/19					
【到達目標】 疾患の原因と治療法が理解できる。病児の状態が把握でき、問題を解決できる能力を養う										
【予習・復習等準備学習の内容】 参考図書などで、該当分野を予習することが望ましい。										
【留意事項】 積極的な質問(授業参加)を期待します										
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末ペーパーテストによる評価					【テキスト】 系統看護学講座 小児臨床看護各論 医学書院					
					【参考図書】 ネルソン小児科学					

授業科目名 栄養学(食品学を含む)			担当者 小野 和夫		
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目
		配当年次	言語文化: -		生活心理: -
看護: 2年～					
【授業概要】 栄養学は人の健康に深く関わりのある科学であり、健康増進、疾病予防のみならず早期治療、再発予防に大きく寄与している。この授業では、先ず食品の栄養素について学び、次に対象となる人の年齢、状態による生理的な特徴をふまえて、ライフステージ別に栄養のあり方を学ぶ。また、食事をとることが患者にとって大切な医療行為の一端であることを認識し、臨床栄養としての食事療法の基礎についても学ぶ。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 栄養と健康 (生活習慣病、栄養と疾病治療・予防) 2. 栄養素とその機能 (1) タンパク質、脂質、糖質 3. 栄養素とその機能 (2) ビタミン、無機質、食物繊維 4. エネルギー代謝と栄養所要量 (基礎代謝、栄養所要量、エネルギー所要量) 5. 食事摂取基準と活用 6. 食品の分類、食品標準成分表 7. 食品の機能、保健機能食品、特別用途食品 8. 栄養状態の評価 (個人の栄養状態の評価、地域・集団の栄養状態の評価) 9. 運動と栄養 10. 人生各期における健康生活と栄養(1) 新生児期、乳児期、幼児期、青年期 11. 人生各期における健康生活と栄養(2) 妊娠・授乳期、成人期、高齢期 12. 療養生活と栄養 (1) 術前・術後の栄養、化学療法・放射線療法に対する栄養サポート 13. 療養生活と栄養 (2) 消化器系疾患、内分泌・代謝疾患、 14. 療養生活と栄養 (3) 循環器系疾患、腎疾患、経口摂取できない患者のための栄養管理 15. 食物アレルギーのメカニズムとアレルゲン		
【到達目標】 1. 栄養素とその機能について理解する。 2. 各ライフステージにおける栄養摂取の特徴を理解する。 3. 食品の特徴を理解する。 4. 運動と栄養について理解する。 5. 食事療法について理解する。					
【予習・復習等準備学習の内容】 授業範囲を予習し、疑問点をノートにまとめておく。授業プリントと返却された受講票を活用して復習する。					
【留意事項】 なし					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末試験70%、毎回の受講票・課題30% 毎回、授業終了時に受講票による理解度の確認を行う。また、課題を課すこともある。これらについては評価後、返却し解説を行う。15回の授業終了後、期末試験を行う。試験の不合格者については再試験前に学習課題を課す。			【テキスト】 臨床栄養学、関戸啓子編(メディカ出版)		
			【参考図書】 附属図書館の栄養学関連図書		

授業科目名 臨床検査学			担当者 藤岡 克徳 他		
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	選択科目
		配当年次	言語文化: -		生活心理: -
看護: 2年～					
【授業概要】 臨床医療では臨床検査は疾病の診断や重症度・予後判定の際の客観的情報として不可欠です。この授業では日常診療でよく行われる臨床検査の種類、目的、方法および意義について学びます。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 臨床検査の役割、臨床検査の流れと看護師の役割(POCTを除く) (藤岡) 2. 一般検査、血液学的検査 (加賀山) 3. 化学検査 (藤岡) 4. 免疫・血清検査 (板倉) 5. 内分泌学的検査、微生物学検査 (板倉) 6. 生体検査(MRI、内視鏡を除く) (加賀山) 7. 生体検査(MRI、内視鏡)、病理検査、臨床検査の流れと看護師の役割(POCT) (藤岡) 8. その他の臨床検査とまとめ (藤岡)		
【到達目標】 看護師として主な臨床検査の原理・目的・解釈さらに注意点や限界などについて正しい理解を得ることを目標とする。					
【予習・復習等準備学習の内容】 シラバスを参考に授業内容個所の教科書を予め読んでおき、理解を深めておくこと。					
【留意事項】 特になし。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末試験により評価を行う。 試験については、特に正解率の低かった問題などについて講評を掲示等により行う。			【テキスト】 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床検査 編者 奈良信雄		
			【参考図書】 なし		

授業科目名 緩和医療学			担当者 村田 幸治・揚野 裕紀子・六原 純子		
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目
		配当年次	言語文化: -		生活心理: -
		看護: 2年～			
【授業概要】 緩和医療は、全ての医療の基本であるという緩和医療の理念を適切に理解できるように、具体的な臨床事例の提示も交えながら、授業を行う。授業中に特定のテーマについて、学生との質疑応答等を行う予定。			【学習内容(各回の授業予定)】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 緩和医療の概念(村田) 2. ターミナル期の身体的特徴(総論)(村田) 3. 身体症状の緩和① がん性疼痛の評価と治療(村田) 4. 身体症状の緩和② 呼吸困難(村田) 5. 身体症状の緩和③ 消化器症状(村田) 6. 精神的ケア① 気持ちのつらさ(揚野) 7. 精神的ケア② せん妄(揚野) 8. 非がん疾患の緩和ケア① 慢性心不全(村田) 9. 非がん疾患の緩和ケア② 老衰・認知症(村田) 10. 地域連携・療養の場の選択(村田) 11. 緩和医療における最近の取り組みについて(村田) 12. 緩和医療とチーム・アプローチ(六原) 13. 緩和医療とエンドオブライフケア(六原) 14. 緩和医療とギア・チェンジ(六原) 15. 家族への援助・グリーフケア(六原) 		
【到達目標】 ①緩和医療・緩和ケアの概念を理解できる。 ②疼痛が患者に与える影響と、疼痛の緩和方法を理解できる。 ③疼痛以外の不快な症状とその緩和方法が理解できる。 ④傾聴とコミュニケーションの重要性ならびに注意すべき点について理解できる。 ⑤死に向かう患者と家族の心理過程ならびに具体的援助の方法について理解できる。			【テキスト】 ・配布資料(プリント)		
【予習・復習等準備学習の内容】 1年前期(新課程では2年前期)の「生命・医療倫理」と、2年前期の「疾病・治療論(内科、外科、精神科の領域)」の復習をしておくこと。また、各回の授業テーマに関連する事項を、新聞やインターネットなどで調べてくること。			【参考図書】 ・鈴木志津枝、内布敦子著「緩和・ターミナルケア看護論 第2版」ヌーヴェルヒロカワ(2011) ・恒藤暁著「系統緩和と医療学講座 身体症状のマネジメント」最新医学社(2013) ・平原佐斗司編集「チャレンジ! 非がん疾患の緩和ケア」南山堂(2011)		
【留意事項】 終末期・緩和ケアに関する看護学との関連が非常に深い授業であるが、看護学・がん看護の枠にとどまらない緩和医療学という視点を重視する。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末試験100%で評価する。 期末試験については、特に正答率の低かった問題などがある場合には講評を掲示等により行う。					

授業科目名 保健医療福祉行政論			担当者 小寺 良成		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目
		配当年次	言語文化: -		生活心理: -
		看護: 2年～			
【授業概要】 保健医療福祉行政の法的基盤とその目標を理解し、保健医療福祉活動を推進する行政の仕組みと役割を学ぶ。日本における医療保険制度、介護保険制度、社会福祉制度等を含む社会保障制度全般について学ぶ。都道府県および市町村の保健医療福祉行政について理解を深める。			【学習内容(各回の授業予定)】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療福祉行政の法的基盤とその目標 2. 公衆衛生の専門職としての保健師の役割 3. 保健医療福祉活動を推進する行政のしくみと機能 4. 保健医療福祉行政の歴史と変遷(1)公衆衛生政策・健康政策 5. 保健医療福祉行政の歴史と変遷(2)社会福祉制度・医療提供体制・介護保険制度 6. 保健医療福祉財政のしくみ 7. 公衆衛生行政のしくみと機能/地域保健の機能 8. 保健医療福祉の計画・実施・評価 9. 政策のためのPDCAサイクル 10. 行政組織の特徴と意思決定過程/地域づくりの方法論 11. 当事者とのパートナーシップを基盤にした障がい者支援 12. 生活保護受給者・家族への支援とその体制整備 13. ヘルスプロモーションの理念に基づく健康な地域づくり 14. 国際保健と保健師活動 15. 保健医療福祉関連法律の解説 		
【到達目標】 保健医療福祉の地域づくりを進めるうえで、地域住民の主体的な参画とともに、多職種連携(保健医療福祉関係職種)や看護職連携(保健師・助産師・看護師)が重要であることを理解できる。			【テキスト】 「これからの保健医療福祉行政論」日本看護協会出版会		
【予習・復習等準備学習の内容】 日ごろから、新聞やマスメディアを活用して保健、医療、介護、社会福祉等の動向に関心を持つ。予習として、テキストの目次、重要用語、法律等に目を通してこくこと。			【参考図書】 「国民衛生の動向」厚生統計協会 最新刊 「健康格差社会への処方箋」(近藤克則) 医学書院		
【留意事項】 保健医療福祉行政について、自分自身や家族、自分の住む地域の人々等の生活と関連づけて理解する姿勢が重要である。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末試験(80%)と小レポート(20%)等により総合的に評価する。試験については、特に正答率の低かった問題などについての講評を掲示板等により行う。試験の不合格者については、再試験の前に、類似の課題等を与える。					

授業科目名 社会福祉論			担当者 水島 真寿美						
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 1年～
【授業概要】 私たちが暮らす現代社会を理解しながら、暮らしの視点をみにつける。社会福祉は、誰もが尊厳あるその人らしい生活及び人生を送れるようにすることであり、その対象は全ての人である。社会福祉の理念、歴史、法制度及び福祉サービス等の基本について学習する。社会福祉の理解を深め、具体的にイメージできるように事例を取り入れて進める。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 社会福祉へのみちびき - 現代社会の特質とライフステージー 2. 社会福祉とは何か - 基礎的な概念と援助の原理ー 3. 社会福祉の歴史 - 日本における歴史的展開ー 4. 社会福祉の歴史 - ヨーロッパにおける歴史的展開ー 5. 社会福祉の仕組み - 法制と実施機関・財政ー 6. ソーシャルワークの理解 - 社会福祉を支える専門職に求められるものー 7. 最低生活保障と生活保護制度 - 貧困問題と生活保護の実際ー 8. 子ども家庭福祉 - 子どもの最善利益を目指す子ども・家庭への支援ー 9. 障がい者の自立と福祉 - ノーマライゼーション・ソーシャルインクルージョンー 10. 障がい者の自立と福祉 - 障がい者の現況と保健福祉施策の体系ー 11. 高齢者の生活と福祉 - 高齢者の生活課題と施策の動向ー 12. 高齢者の生活と福祉 - 介護保険制度による介護体制とその展開ー 13. 地域福祉の展開と地域包括ケアシステム 14. 社会福祉と看護職について - 保健・医療・福祉の協働を事例から学ぶー 15. 社会福祉の振り返りとこれからの社会福祉						
【到達目標】 社会福祉の理念、法制度、福祉サービス等の概要を理解する。人の暮らしを全体的に捉え、個別のニーズが理解できるよう専門性を高める。			【テキスト】 大久保 秀子著「新社会福祉とは何か 第3版」中央法規 必要に応じて資料を配布する。						
【予習・復習等準備学習の内容】 復習のためテキストを読む。授業の終わりに次回のポイントについてアドバイスを。国外を問わず社会的な出来事に目を向ける。			【参考図書】 なし。						
【留意事項】 特になし									
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末試験、課題レポート等で総合評価を行うが、概ね期末テスト7割、課題レポート等3割である。									

授業科目名 保健統計学			担当者 高木 二郎						
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 2年～
【授業概要】 人口統計、疾病統計、集団の保健医療統計情報などについて、最新の統計資料を活用して、保健統計に関する理解を深める。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 人口静態統計 2. 人口動態統計 3. 死亡率 4. 国民生活基礎調査 5. 患者調査、医療施設調査 6. 感染症・食中毒の統計 7. 国民健康・栄養調査 8. 国民医療費 9. 疾病・障害の定義と分類 10. 情報処理 11. 統計学の基礎(尺度、分布など) 12. 要約統計量 13. 相関と回帰 14. 検定(カイ二乗検定、t検定など) 15. データの表現						
【到達目標】 保健師を目指すために必要な保健統計学の知識を修得し、健康関連指標の意味を理解し、既存の統計資料を活用できるようになること。			【テキスト】 看護学生のための疫学・保健統計 公衆衛生がみえる 国民衛生の動向						
【予習・復習等準備学習の内容】 テキストを読んでおくこと。			【参考図書】 特になし。						
【留意事項】 テキストを必ず用意すること。									
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 授業態度、小テストなどと、期末試験を総合して評価する予定。									

授業科目名 健康・医療心理学			担当者 上地 玲子		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目
		配当年次	言語文化: -		生活心理: 2年～
				看護: 2年～	
【授業概要】 現代社会における様々なストレス状況を理解し、健康・医療心理に関する項目を身近なこととしてとらえ、様々な諸問題に対応する方法を学ぶことを目的とする。			【学習内容(各回の授業予定)】		
【到達目標】 1. 健康・医療心理学に関する基本的な知識を身につける。 2. 健康・医療心理学に関する知識を一時的に教えらるるだけでなく、自ら学ぶ姿勢を身につける。			1. オリエンテーション 健康心理学 2. 健康心理学におけるアセスメントと支援 3. 健康心理学の実際(1) ストレスマネジメント (ストレスに関する内容) 4. 健康心理学の実際(2) 各種の心理支援法 (リラクゼーションに関する内容) 5. 心の問題と対応 (精神医療に関する内容) 6. 医療心理学 (心理検査に関する内容) 7. 医療心理学の実際(1) 精神科, 児童精神科 (精神科, 児童精神科(うつ病, 統合失調症等)に関する内容) 8. 医療心理学の実際(2) 院内独立型心理室 9. 医療心理学の実際(3) 心療内科 (心身症に関する内容) 10. 医療心理学の実際(4) 小児科(母子保健含む) (自閉スペクトラム症, ADHD, LD, 産後うつ病に関する内容) 11. 医療心理学の実際(5) 緩和医療 (終末期における精神状態に関する内容) 12. 医療心理学の実際(6) 産業保健 (うつ病の予防に関する内容) 13. 地域保健活動の実際 14. 災害心理学 (災害時の精神状態に関する内容) 15. 多職種協働と医療連携		
【予習・復習等準備学習の内容】 テキストを読み、わからない用語などを事前に調べてノートしておくこと。			【テキスト】 宮脇聡・大野太郎・藤本豊・松野俊夫[編] 健康・医療心理学 医歯薬出版		
【留意事項】 現場経験豊富な専門職による講義が入る場合は、シラバスの順序が変更になる。			【参考図書】 特になし		
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末試験70%、授業ごとに課すミニレポート・授業態度30%により評価する。 試験結果フィードバックを希望する学生については、個別に資料を基に説明を行う。					

授業科目名 衛生学・公衆衛生学 I			担当者 高木 二郎		
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	必修科目
		配当年次	言語文化: -		生活心理: -
				看護: 2年～	
【授業概要】 公衆衛生の概念、公衆衛生の活動対象としくみ等を概説する。 保健統計、成人保険、産業保健、環境保健、感染症対策等の概要について概説する。			【学習内容(各回の授業予定)】		
【到達目標】 公衆衛生の概念、活動対象、しくみについて説明できる。 保健統計、成人保険、産業保健、環境保健、感染症対策等の概要について説明できる。			1. 公衆衛生と健康の概念(予防医学など) 2. 公衆衛生と健康の概念(ヘルスプロモーションなど) 3. 保健統計(人口動態統計など) 4. 保健統計(人口動態統計など) 5. 保健統計(死亡率など) 6. 医の倫理と患者の人権 7. 終末期医療と死の概念 8. 医療体制、医療費 9. 成人保健と健康増進 10. 障害者福祉、精神保健福祉 11. 感染症対策(感染症法など) 12. 感染症対策(予防接種など) 13. 感染症対策(院内感染対策など)、食品保健 14. 産業保健 15. 環境保健、国際保健		
【予習・復習等準備学習の内容】 日ごろから、新聞やマスメディアを活用して様々な健康問題に関心を持つ。			【テキスト】 公衆衛生がみえる		
【留意事項】 自分自身や家族、地域の人々等の健康問題と関連づけて学習する姿勢が重要である。			【参考図書】 特になし。		
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 全出席を原則とする。期末試験による予定。					

授業科目名 衛生学・公衆衛生学Ⅱ				担当者 福岡 悦子・高木 二郎			
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	選択科目	配当年次	言語文化：－ 生活心理：－ 看護：2年～
【授業概要】 公衆衛生学は人文社会科学と自然科学からなる極めて集学的な学問である。対象とする健康問題は多要因であり、人間の持つ要因と、取り巻く社会・環境要因の相互作用の総体として姿を現す。これらに対する原因究明や対策も多要因の視点で学問的な分化と統合を繰り返しながら行うことが肝要であり、目に見える健康問題や、潜在的リスクについて、課題探求型と問題解決型の学習を併用して専門能力向上を図る。				【学習内容(各回の授業予定)】 1. 課題探求型学習 (福岡・高木) 2. 課題探求型学習 (福岡・高木) 3. 課題探求型学習 (福岡・高木) 4. 課題探求型学習 (福岡・高木) 5. 課題探求型学習 (福岡・高木) 6. 検討報告会 (福岡・高木) 7. 検討報告会 (福岡・高木) 8. 問題解決型学習 (福岡・高木) 9. 問題解決型学習 (福岡・高木) 10. 問題解決型学習 (福岡・高木) 11. 問題解決型学習 (福岡・高木) 12. 検討報告会 (福岡・高木) 13. 検討報告会 (福岡・高木) 14. 検討報告会 (福岡・高木) 15. 検討報告会 (福岡・高木)			
【到達目標】 1. 現代の健康問題や潜在的なリスクについて知ること・感じることが出来る。2. 健康問題や各種リスクを分析し、統合して考える態度を身につける。3. 効果的な保健医療福祉システムを検討できる。				【テキスト】 適宜指示			
【留意事項】 「疫学」、「保健医療福祉行政論」を復習することが望ましい。				【参考図書】 国民衛生の動向 厚生統計協会 最新刊 公衆衛生がみえる 系統看護学講座 健康支援と社会保障制度[4]看護関係法令 医学書院			
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 レポート、中間報告会・最終発表会・討論等を参考とする。							

授業科目名 疫学				担当者 高木 二郎			
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	必修科目	配当年次	言語文化：－ 生活心理：－ 看護：1年～
【授業概要】 疫学は人間集団における健康に関連する状態や事象の分布とその決定要因について研究し、かつそれを健康問題のコントロールに応用する学問です。公衆衛生学、看護学、医学の主要な研究方法を学びましょう。				【学習内容(各回の授業予定)】 1. 疫学の考え方 2. 疫学の指標(有病率、罹患率) 3. 疫学の指標(死亡率、その他) 4. 観察研究 5. 介入研究 6. 相対危険 7. 寄与危険 8. 寄与危険割合 9. 誤差 10. バイアス 11. 交絡 12. 信頼性、妥当性 13. スクリーニング検査(感度、特異度など) 14. スクリーニング検査(ROC曲線など) 15. EBM、エビデンスレベル			
【到達目標】 1. 因果関係を説明できる。2. 検査を評価できる。3. 研究デザインを説明できる。4. 各種指標の説明と計算ができる。				【テキスト】 公衆衛生がみえる			
【留意事項】 疫学は研究の方法論です。いわば道具ですので、使いこなせるようになりましょう。				【参考図書】 特になし。			
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 授業態度、小テストなどと、期末試験を総合して評価する予定。							

授業科目名 学校保健			担当者 田村 裕子						
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 2年～
【授業概要】 学校保健の目的・意義を理解し、養護活動を行うにあたり必要な知識や技術を学ぶ。講義、実習、課題発表を行う。			【学習内容(各回の授業予定)】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校保健とは: 領域構造 2. 学校保健を支える人々 3. 発育・発達: 二次性徴・発達課題 4. 学校における保健管理(1): 健康診断 5. 学校における保健管理(2): 慢性疾患 6. 学校における保健管理(3): 学校感染症 7. 学校における保健管理(4): 救急処置(応急手当) 8. 学校における保健管理(5): 精神保健 9. 学校安全・危機管理: 危機管理マニュアル 10. 学校環境衛生: 学校環境衛生基準 11. 保健教育: 保健学習・保健指導 12. 学校保健組織活動: 校内体制、学校保健委員会 13. 障害児と医療的ケア: 発達障害 14. 学校給食: 食育 15. 養護教諭と保健室: 保健室経営 						
【到達目標】 学校保健の教育的役割を理解し、養護教諭の活動を行う基盤づくりとする。学校保健の今日的課題を考える。									
【予習・復習等準備学習の内容】 次回の授業範囲を予習し理解を深めておき、授業日の内容を復習すること。									
【留意事項】 準備物については必要時指示する。									
【成績評価の方法・基準】 小テスト20%、レポートの提出状況等10%、期末試験70% ・レポート課題については、必要とされる記載事項などについての講評を授業時に行う。 ・小テストは返却し、返却時、正答を口述し解説する。 ・試験については、特に正答率の低かった問題などについての講評を掲示等により行う。			【テキスト】 「最新学校保健」門田新一郎・大津一義編著(大学教育出版) 「学校保健マニュアル改訂8版」衛藤隆、岡田加奈子編集(南山堂)						
			【参考図書】 「学習指導要領」(文部科学省)「新訂版 学校保健実務必携(第2次改訂版)編著者: 学校保健・安全実務研究会(第一法規)						

授業科目名 養護概説			担当者 田村 裕子						
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 3年～
【授業概要】 養護教諭の専門性と機能に関する基礎理解、具体的には、「養護」の概念や養護教諭の歴史的な発展過程を整理し、教育職員として固有の専門性を有する養護教諭の役割や実践について詳細に学ぶ			【学習内容(各回の授業予定)】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 養護教諭制度の沿革 2. 養護教諭の専門性と機能 3. 養護活動の実際①保健室経営の基本と経営案の作成 4. 養護活動の実際②保健調査、健康観察 5. 養護活動の実際③健康診断の進め方1 6. 養護活動の実際④健康診断の進め方2 7. 養護活動の実際⑤心身の健康課題への対応1 8. 養護活動の実際⑥心身の健康課題への対応2 9. 養護活動の実際⑦救急処置活動1 10. 養護活動の実際⑧救急処置活動2 11. 養護活動の実際⑨保健指導の計画と進め方1 12. 養護活動の実際⑩保健指導の計画と進め方2 13. 養護活動の実際⑪学校感染症の予防と管理 14. 養護活動の実際⑫組織活動・連携 15. 養護活動の評価及びまとめ 						
【到達目標】 養護の本質や基本的概念、養護教諭の沿革や職務内容の変遷、養護教諭全般について理解する。									
【予習・復習等準備学習の内容】 次回の授業範囲を予習し理解を深めておき、授業日の内容を復習すること。									
【留意事項】 準備物については適宜指示する。									
【成績評価の方法・基準】 小テスト20%、期末試験80% ・小テストは返却し、返却時、正答を口述し解説する。 ・試験については、特に正答率の低かった問題などについての講評を掲示等により行う。			【テキスト】 新訂版 学校保健実務必携(第2次改訂版) 編著者: 学校保健・安全実務研究会(第一法規) 養護教諭養成講座 学校における養護活動の展開(ふくろう出版) 小学校・中学校・高等学校の学習指導要領						
			【参考図書】 学習指導要領(文部科学省) 適宜紹介する						

授業科目名 健康相談活動論				担当者 田村 裕子			
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目	配当年次	言語文化: - 生活心理: - 看護: 3年～
【授業概要】 養護教諭の職務の特質や保健室の機能を生かした養護教諭の行う健康相談に関する基本的な知識・技能の習得、および学校現場における児童生徒等の心身の健康課題への対応について概説する。				【学習内容(各回の授業予定)】 1. 養護教諭の行う健康相談の基本的理解 2. 児童生徒等の心身の健康問題の現状と背景 3. 養護教諭の職務の特質及び保健室の機能と健康相談 4. 養護教諭の行う健康相談に関連する諸理論 5. 養護活動の行う健康相談のプロセス及び資質・能力・技能 6. 養護教諭の行う健康相談に生かすカウンセリングの理論と技法Ⅰ(ストレスマネジメント含む) 7. 養護教諭の行う健康相談に生かすカウンセリングの理論と技法Ⅱ(アサーション含む) 8. 養護教諭の行う健康相談におけるヘルスアセスメントⅠ(ヘルスアセスメントとは) 9. 養護教諭の行う健康相談におけるヘルスアセスメントⅡ(ヘルスアセスメントの展開) 10. 保健室における課題設定演習Ⅰ(事例:過換気症候群;ロールプレイング・グループ討議等) 11. 保健室における課題設定演習Ⅱ(事例:何となく来室;ロールプレイング・グループ討議等) 12. 保健室における課題設定演習Ⅲ(事例:問題行動;ロールプレイング・グループ討議等) 13. 保健室登校のとりえ方と対応 14. 問題に応じた対応と養護教諭の行う健康相談における連携 15. 養護教諭の行う健康相談の記録と評価			
【到達目標】 養護教諭の行う健康相談について理解し、必要な基本的知識・技術を習得する。また、児童生徒等の健康課題への対応や支援のあり方について理解を深める。				【テキスト】 授業で提示する。			
【予習・復習等準備学習の内容】 次回の授業範囲を予習し理解を深めておき、授業日の内容を復習すること。				【参考図書】 適宜紹介する			
【留意事項】 準備物については適宜指示する。							
【成績評価の方法・基準】 小テスト20%、レポートの提出状況等10%、期末試験70% ・レポート課題については、必要とされる記載事項などについての講評を授業時に行う。 ・小テストは返却し、返却時、正答を口述し解説する。 ・試験については、特に正答率の低かった問題などについての講評を掲示等により行う。							

授業科目名 産業保健				担当者 福岡 悦子			
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	選択科目	配当年次	言語文化: - 生活心理: - 看護: 3年～
【授業概要】 まず、労働衛生の基盤となる法律を学ぶ。次に産業保健の目的、産業看護の役割と職務等を理解する。産業の場で働く人々の健康に関する様々な問題を知り、作業や作業環境(労働環境)が健康に及ぼす影響を考える。また、産業看護職として、働く人々のQOL並びにQWLの向上を目指した支援活動を体系的に学習する。				【学習内容(各回の授業予定)】 1. 労働衛生の基盤となる法律及び産業保健の目的と産業保健活動の定義 2. 産業看護の歴史、産業看護の定義(役割と職務等含む) 3. 産業保健の基本と産業看護活動 ①職業性疾病とその予防対策における産業看護職の役割 ②作業関連疾患とその予防対策における産業看護職の役割 VDT作業による健康障害の予防 4. 職場における健康診断と産業看護職の役割 5. 職場におけるメンタルヘルスケアと産業看護職の役割 メンタルヘルスケア、電通事件 6. 職場巡視、職業病 7. 女性労働者への健康支援(ワーク・ライフ・バランスを含む) 8. 産業看護活動の実際 ①禁煙マラソン、②口腔保健、③産業看護の国際交流			
【到達目標】 ・産業保健の目的がわかる ・産業保健の基本と産業看護活動がわかる				【テキスト】 産業看護学2018年度版			
【予習・復習等準備学習の内容】 公衆衛生看護学概論を復習しておくこと。				【参考図書】 特になし			
【留意事項】 授業ごとに出席確認および授業評価のために、キーワード、感想提出を求める。							
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 8回の授業終了後、期末試験を行う。全出席を原則とし、試験(100%)で評価する。フィードバックを希望する学生については、個別に資料を基に説明を行う。							

授業科目名 地域福祉論			担当者 四方 克尚		
単位数	1 単位	開講期 前期(集中)	区分 選択科目	配当年次	言語文化: - 生活心理: - 看護: 3年～
【授業概要】 対象は、高齢者、障害者、医療、司法等の社会福祉の各領域を縦割りでもとらず、横割りに包含するイメージであり、福祉の全てを含みこんでいるといえる。歴史、思想、システム等を概括した上で、病院、施設、在宅サービス等と地域との関係について、国が提唱している地域包括ケアシステムの中での相互の連携(主として病院と地域)についてふれ、特に担当者が医療ソーシャルワーカーとして勤務している病院からの退院支援に焦点をあてる。また連携を成立させるために必要なヒューマンスキルについてとりあげる。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 地域福祉論とは 社会保障と社会福祉(地域福祉) 2. 地域福祉(社会福祉)の歴史・思想 3. 地域の社会資源へつなぐための面接技術とクレーム対策としての面接技術(交渉術) 4. 成年後見制度と日常生活自立支援事業、地域福祉を担う機関について 5. 地域包括ケアシステム(事例を通して考察する)退院支援① 6. 地域連携(主として病院と地域との連携を通して考える)について 退院支援② 7. 退院支援③(事例を通して考察する)連携に必要なヒューマンスキルについてもふれる 8. 総括に代えて		
【到達目標】 地域福祉の歴史、思想、システム等の概要をつかみ、地域包括ケアシステムの中での医療、保健、福祉の連携を通して地域福祉について理解を深める。結果として、福祉全般の包括的知識を習得する。					
【予習・復習等準備学習の内容】 厚生労働白書等の政府関連の発行図書に目を通しておいていただくと理解が深まる。(授業時に資料としても配付する)					
【留意事項】 特になし			【テキスト】 なし		
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 講義時の課題 2. 5点×8回 = 20点 期末試験 = 80点 計100点 上記の講義時の課題と一緒に質問も記述してもらっているので、次の講義時に返答している。			【参考図書】 なし		

授業科目名 社会保障制度			担当者 澁谷 久美		
単位数	1 単位	開講期 前期	区分 必修科目	配当年次	言語文化: - 生活心理: - 看護: 2年～
【授業概要】 人が生きていく過程で生ずる様々な生活問題に対応するのが社会保障制度である。現行の制度の基本的な内容と今後の動向を学ぶ。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 社会保障とは 2. 医療保障 3. 医療保険制度 4. 高齢者問題と社会保障制度 5. 年金保険制度 6. 労働保険制度 7. 貧困とは何か 8. 貧困に対する制度と生活保護制度		
【到達目標】 現行の社会保障制度の基本的な内容を理解する。グループワークを通じて、身近な問題として社会保障制度をとらえることができる。					
【予習・復習等準備学習の内容】 次回までに、授業内容を復習して臨むこと。					
【留意事項】 レポートを真剣に取り組むこと			【テキスト】 なし。毎回資料を配布する。		
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 小テスト70%、レポート30%で評価する。小テストは正答率の低かった問題について授業で解説する。テスト等で基準点に達しない者については、課題の提出をもとめる。			【参考図書】 なし。		

授業科目名 チーム医療論				担当者 村田 幸治・渡邊 都貴子			
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: - 生活心理: - 看護: 3年～
【授業概要】 多様化する保健医療福祉需要、安全の確保、情報の開示等、国民の医療に対する意識の高まりは、「患者の視点に立った質の高い保健医療福祉サービスの適切な提供」を求めている。総論では、現代医療におけるチーム医療の必要性や重要性を理解し、チーム医療を推進する施策や各職種の役割等について学ぶ。各論では、いくつかの具体例を通じて保健医療福祉サービスを実効あるものにする方法論としてのチーム医療を学ぶ。授業中に特定のテーマについて、学生との質疑応答等を行う予定。 【到達目標】 ①保健医療福祉の提供体制と、各職種の役割・連携について理解する。②チーム医療での看護師の役割を理解する。③質の高い医療を提供する方法論としてのチーム医療の重要性を理解する。 【予習・復習等準備学習の内容】 2年次の「社会保障制度」の復習をしておくこと。また、2～8については、事前に配布する資料で授業の予習を行い、疑問点を各自で調べておくこと。 【留意事項】 計8回の授業であることに留意すること。授業は毎回講義形式で行い、授業の出席確認を兼ねて小テストを行う。 【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験（レポート等含む）へのフィードバックの方法】 単位認定試験（筆記試験）100%で評価する。試験については、特に正答率の低かった問題などについての講評を掲示等により行う。				【学習内容(各回の授業予定)】 1. 総論① チーム医療とは(村田) 2. 総論② チーム医療における各専門職の役割、患者-医療関係者(村田) 3. 各論① リハビリテーション医療(村田) 4. 各論② 栄養サポートチーム(村田) 5. 各論③ 糖尿病の療養(小児1型糖尿病の療養支援を含む)(村田) 6. 各論④ 在宅医療(小児がんの療養支援を含む)(村田) 7. 各論⑤ 認定看護師の役割(渡邊) 8. まとめ チーム医療における看護師の専門性と主体性について(村田) ※授業の順序は、入れ替わることがある。			
【テキスト】 ・配布資料(プリント) (2～8では予習のために配布資料を事前配布するので、授業時に忘れずに持参すること)				【参考図書】 ・水木清久他編著「実践チーム医療論」医歯薬出版株式会社(2011) ・川島みどり著「増補版 チーム医療と看護-専門性と主体性への問い-」看護の科学社(2016)			

授業科目名 看護学概論				担当者 江口 瞳			
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: - 生活心理: - 看護: 1年～
【授業概要】 専門職としての看護を理解するために、看護の重要概念を教授し、看護の役割について検討する。具体的には看護の定義、健康の概念、保健・医療・福祉のシステム、対象理解、看護の方法論、看護の歴史、看護理論などについて概観し、現状と課題を理解する。 【到達目標】 1. 看護の概念について理解する。 2. 保健・医療・福祉のシステムについて理解する。 3. 看護の対象としての人間の基本的ニーズについて理解する。 4. 看護の方法について学ぶ。5. 看護の役割を理解する。 【予習・復習等準備学習の内容】 1. 「看護覚え書」を読んでおくこと。 2. 新聞等の医療に関する動きに関心を持って読んでおくこと。 【留意事項】 概論は、毎回限られた時間で幅広いテーマを検討するので、予習・復習とともに、社会の動きに関連して、資料を収集して深めること。 【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験（レポート等含む）へのフィードバックの方法】 期末試験80%、課題レポート20%を基準とし、総合的に評価する。				【学習内容(各回の授業予定)】 1. 看護への導入 :知っている看護から看護学へ、看護学のアプローチ法 2. 看護の歴史の変遷と看護学の発展(1) :ナイチンゲールと近代看護の始まり 3. 看護の歴史の変遷と看護学の発展(2) :看護の発展と理論家たち 4. 看護の対象とその理解(1) :人間のこころとからだ、発達課題 5. 看護の対象とその理解(2) :ライフサイクルと健康・生活 6. 健康と看護 7. 看護の提供者と法 :看護と法、免許、看護の資格と養成 8. 保健・医療・福祉システムとチーム医療 9. 看護活動と看護の継続性 10. 看護提供の仕組みと看護マネジメント 11. 広がる看護活動の場 :看護の国際化、災害看護 12. 看護と倫理 13. 事例検討 :グループディスカッション(倫理的課題を有する事例) 14. 全体発表会・全体討議 15. これからの看護 :看護の専門性、課題と展望			
【テキスト】 茂野香お他:系統看護学講座専門分野 I 看護学概論基礎看護①,医学書院 フロレンス・ナイチンゲール(著者),小玉香津子(著者):看護覚え書き 本当の看護とそうでない看護,日本看護協会出版会 ヘンダーソン:湯橋ます 「看護の基本となるもの」 日本看護協会出版会				【参考図書】 城ヶ端初子監. 実践に生かす看護理論19, 医学芸術社. 吉田みつ子. 看護倫理 見ているものが違うから起こること, 医学書院.			

授業科目名 看護倫理学				担当者 土井 英子			
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: - 生活心理: - 看護: 1年～
【授業概要】 医療の高度化・複雑化に伴う倫理的問題を検討し、看護の対象となる人々の権利を尊重し、必要に応じて擁護者となる役割を考える。看護職の倫理的アプローチ方法、生じやすい倫理上の問題と解決ステップなどを理解し、看護上の倫理的な課題に直面した時、自分は何をすべきか問い、これに応えることができる能力と倫理観を育成する。				【学習内容(各回の授業予定)】 1. 医療の担い手としての条件、看護倫理の必要性について学ぶ。 2. 看護倫理の位置づけを明確にし、看護倫理の定義、特質等を検討する。 3. 看護倫理のアプローチ: 徳の倫理、原則倫理、ケア倫理の考え方を学ぶ。 4. 患者の権利とアドボカシー、看護師の法的責任について学ぶ。 5. 事例を使ってグループで倫理的課題の意思決定のステップをたどり解決法を検討する。 6. 事例を使ってグループで倫理的課題の意思決定のステップをたどり解決法を検討する。 7. 倫理的ジレンマの解決法: 事例を使ってグループで検討したものを発表し、共有する。 8. 倫理的課題に活用できる指針を検討する。			
【到達目標】 1. 医療における倫理上の課題を知る。2. 看護倫理に関する用語を理解する。3. 看護倫理の必要性とアプローチ方法を理解する。4. 看護倫理の課題を解決する手順を知る。5. 自己の価値観、死生観を確認する。							
【予習・復習等準備学習の内容】 教科書に指定している文献で授業の該当箇所を授業前に読む。							
【留意事項】 遅刻や私語は厳禁である。日常の学修が重要である。				【テキスト】 小西恵美子編集 「看護倫理」改訂第2版 南光堂.2017年 2,200円			
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 グループワークへの参加と発表30%、授業参加、課題レポート、小テストなどを70%で総合評価する。				【参考図書】 なし			

授業科目名 基礎看護技術 I (療養上の世話)				担当者 江口 瞳・伊藤 尚子・久我原 朋子 他			
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: 生活心理: 看護: 1年～
【授業概要】 看護の対象となる人々の健康状態を把握し、対象者が療養生活を安全で安楽に過ごすことができるよう支援するための基礎的な看護技術を講義・演習を通して身につける。				【学習内容(各回の授業予定)】 1. ガイダンス、衛生的な手洗い、環境調整技術(1) : 講義 2. 環境調整技術(2) : 演習(衛生的な手洗い・ベッドメイキング) 3. 環境調整技術(3) : 演習(シーツ交換・環境整備) 4. ヘルスアセスメントとバイタルサイン(1) : 講義 5. ヘルスアセスメントとバイタルサイン(2) : 演習(バイタルサインの測定技術) 6. 活動・休息の援助技術(1) : 講義 7. 活動・休息の援助技術(2) : 演習(体位変換、車いす・ストレッチャー移送) 8. 清潔の援助技術(1) : 講義 9. 清潔の援助技術(2) : 演習(全身清拭) 10. 清潔の援助技術(3) : 演習(洗髪) 11. 清潔の援助技術(4) : 演習(部分浴) 12. 栄養管理と食事の援助技術(1) : 講義 13. 栄養管理と食事の援助技術(2) : 演習(食事介助・口腔ケア・経管栄養法) 14. 排泄の援助技術(1) : 講義 15. 排泄の援助技術(2) : 演習(便尿器の介助、おむつ交換、陰部洗浄)			
【到達目標】 看護における技術の重要性を理解し、あらゆる看護活動の基本となる看護技術を学習する。具体的には、バイタルサイン、日常生活の援助技術を、科学的根拠に基づいて実施できる能力を身につける。							
【予習・復習等準備学習の内容】 健康生活および健康障害が及ぼす人間の生理的機能について、事前学習を行う。また、演習時は、手順とその根拠を理解したうえで臨む。							
【留意事項】 演習はユニフォームを着用し、身だしなみを整えて参加すること。講義を欠席した場合、教員の指示を仰ぎ、自己学習を行った上で演習に臨むこと。				【テキスト】 茂野香お他: 系統看護学講座専門分野 I 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I, 医学書院 任和子他: 系統看護学講座専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II, 医学書院 竹尾恵子他: 看護技術プラクティス3, 看護技術			
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 筆記試験80%、実技試験10%、課題レポート10%を基準とし、総合的に評価する。				【参考図書】 深井喜代子他: 新体系看護学全書基礎看護学③基礎看護技術 II, メヂカルフレンド社			

授業科目名 基礎看護技術Ⅱ(診療の援助)			担当者 江口 瞳・伊藤 尚子・久我原 朋子 他		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目
		配当年次	言語文化: 生活心理: 看護: 2年～		
【授業概要】 健康障害がある人々に対して、健康回復に向けて行われる診療の補助行為に関わる基礎的な看護技術を習得する。具体的には、呼吸・循環を整える看護技術、創傷管理技術、排泄障害時の看護技術、与薬時の看護技術、検査時の看護技術、死にゆく対象者への看護技術を、講義とモデルによる演習を通して習得する。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 安全・安楽確保の技術(1) :講義 2. 安全・安楽確保の技術(2) :演習(温冷罨法・創傷管理・包帯法) 3. 呼吸・循環を整える技術(1) :講義 4. 呼吸・循環を整える技術(2) :演習(酸素吸入療法、ネブライザー吸入) 5. 呼吸・循環を整える技術(3) :演習(呼吸困難時の体位の工夫、吸引) 6. 排泄障害時の援助技術(1) :講義 7. 排泄障害時の援助技術(2) :演習(洗腸・摘便) 8. 排泄障害時の援助技術(3) :演習(導尿、膀胱留置カテーテル) 9. 与薬時の看護技術(1) :講義 10. 与薬時の看護技術(2) :演習(皮下注射・筋肉内注射) 11. 与薬時の看護技術(3) :演習(静脈内注射・点滴静脈内注射) 12. 検査に伴う機器と検体の取り扱い :講義 13. 検査時の看護技術 :演習(採血) 14. 安全確保の技術 :演習(KYTレーニング) 15. 死にゆく対象者への看護技術:看取りの技術、死後の処置 :講義		
【到達目標】 健康回復に向けて行われる診療の補助行為に関わる基礎的な看護技術の意義と必要性を理解し、科学的根拠に基づいて判断し、実施できる能力を身につける。			【テキスト】 茂野香おる 他:系統看護学講座専門分野Ⅰ基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院 任和子 他:系統看護学講座専門分野Ⅰ基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院 竹尾恵子他:看護技術プラクティス3,看護技術		
【予習・復習等準備学習の内容】 健康生活および健康障害が及ぼす人間の生理的機能について、事前学習を行う。また、演習時は、手順とその根拠を理解したうえで臨む。			【参考図書】 深井喜代子他:新体系看護学全書基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ,メヂカルフレンド社		
【留意事項】 演習時はユニフォームを着用し、身だしなみを整えて参加すること。講義を欠席した場合、教員の指示を仰ぎ、自己学習を行った上で演習に臨むこと。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 筆記試験80%、実技演習10%、課題レポート10%を基準とし、総合的に評価する。					

授業科目名 基礎看護技術Ⅲ(看護過程論)			担当者 江口 瞳・伊藤 尚子・久我原 朋子 他		
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	必修科目
		配当年次	言語文化: 生活心理: 看護: 2年～		
【授業概要】 看護において、人々の健康に関わる個別的な問題を解決するための系統的技法として、「看護過程」の展開の基本的な考え方と方法を学ぶ。具体的には、看護過程の定義、プロセスを理解し、紙上事例を用いて論理的に看護を展開する技術を、講義・演習をとおして身につける。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 科目ガイダンス、看護過程の定義、看護過程の歴史的概要、看護過程のプロセス:講義 2. 看護過程の構成要素(1) :アセスメント(情報収集と情報の解釈・分析・統合) :講義 3. 情報収集の枠組みと分類(NANDA-I パターン1～6) :講義 4. 情報収集の枠組みお分類(NANDA-I パターン7～13) :講義 5. 看護過程の構成要素(1) :紙上事例による演習①(情報の整理) 6. 看護過程の構成要素(1) :講義・演習②(情報の解釈・分析と問題の明確化) 7. 看護過程の構成要素(1) :演習③(情報の解釈・分析と問題の明確化) 8. 看護過程の構成要素(1) :演習④(情報の解釈・分析と問題の明確化) 9. 看護過程の構成要素(1) :講義・演習⑤(情報の統合と全体像) 10. 看護過程の構成要素(2) :演習⑥(看護上の問題の優先度の決定) 11. 看護過程の構成要素(3) :講義・演習⑦(看護目標・看護計画)の立案 12. 看護過程の構成要素(4) :講義・演習(看護計画の実施) 13. 看護過程の構成要素(5) :講義・演習(評価・修正) 14. 発表会の準備 15. 全体発表会とまとめ		
【到達目標】 1. 看護過程のプロセスについて説明できる。 2. 紙上事例を用いて、アセスメントし、看護診断をあげることができる。 3. 看護診断に基づいて、看護計画の立案ができる。 4. 看護の実施、評価・修正に関する要素が説明できる。			【テキスト】 日本看護診断学会監訳:NANDA-I 看護診断 定義と分類 <2018-2020>, 医学書院 古橋洋子:NEW実践! 情報収集・アセスメント 第5版, 学研.		
【予習・復習等準備学習の内容】 紙上事例で提示された患者の病態生理、おもな治療・処置および看護について、事前学習をする。			【参考図書】 高木永子 他:看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント, Gakken 山口瑞穂子 他:疾患別看護過程の展開, Gakken		
【留意事項】 紙上事例による演習は、個人の学習・到達状況の確認をする。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 筆記試験70%、紙上事例の個人ワーク20%、グループワーク10%を基準とし、総合的に評価する。					

授業科目名 フィジカルアセスメント				担当者 村田 幸治			
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: - 生活心理: - 看護: 2年～
【授業概要】 解剖・生理学などの知識をもとに身体の症状・徴候を包括的・系統的に観察し、対象者の健康状態や身体機能をアセスメントするために必要な知識・技術・態度を学習する。その上で、将来的な看護ケアの実践に役立つことを念頭に置き、観察した身体所見を解釈し、総合的に評価するフィジカルアセスメントの基本的な能力を養うことを目的とする。講義と演習(診察技術の実習)を組み合わせ、授業を行う。				【学習内容(各回の授業予定)】 1. フィジカルアセスメントの視点と方法、問診:健康状態のスクリーニング 2. 視診、体表観察からのアセスメント(乳房の診察を含む) 3. 呼吸器系のアセスメント:呼吸音、呼吸状態 4. 循環器系のアセスメント:心音、末梢循環 5. 腹部のアセスメント 6. 神経系のアセスメント(脳神経に関する頭頸部のアセスメントを含む) 7. 筋骨格器系のアセスメント 8. 実技試験:身体診察の技術 9. 実技試験のまとめ、高齢者のアセスメント 10. 事例演習:小児のアセスメント:小児看護技術① 11. 心電図の測定 12. 事例演習:小児のアセスメント:小児看護技術② 13. 学童期のアセスメント① 14. 学童期のアセスメント② 15. 心理・社会・環境のアセスメント:抑うつ・児童虐待・原発事故の住民避難者等へのアセスメント			
【到達目標】 1)アセスメントに必要な知識や技術を習得する。 2)学習内容に従い身体状況をアセスメントできる。 3)アセスメントで得られた身体情報を専門用語を用いて表現し、解釈することができる。							
【予習・復習等準備学習の内容】 1年次の「解剖生理学」の内容復習しておくこと。また、2～7については、事前に配布する資料で授業の予習を行い、疑問点を指定のテキスト等で調べておくこと。							
【留意事項】 G棟演習室での授業の際には、原則として実習着を着用すること(詳細は後日連絡)。演習室での授業の際は、携帯電話・スマートフォン等の機器類の使用を控えること。				【テキスト】 ・配布資料(プリント) (2～7では予習のために配布資料を事前配布するので、授業時に忘れずに持参すること) ・三上れつ他編集「ヘルスアセスメント―臨床実践能力を高める」(看護学テキストNiCE) 南江堂(2017)			
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末試験80%・実技試験20%で評価する。実技試験の際に、「実技試験の注意事項」を示すので留意すること。期末試験については、特に正答率の低かった問題などについての講評を掲示等により行う。実技試験については、授業のなかで「実技試験のまとめ」として講評を行う。				【参考図書】 ・佐伯由香著「やりなおしの解剖生理」メディカ出版(2010) ・山勢博彰著「やりなおしのフィジカルアセスメント」メディカ出版(2008)			

授業科目名 感染看護学				担当者 渡邊都貴子・林由佳・今村恭子・中木里実 他			
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: - 生活心理: - 看護: 2年～
【授業概要】 感染症のパンデミックや新興・再興感染症の問題、世界的に問題となっている多剤耐性菌の蔓延など、医療現場における感染症の問題はますます深刻なものとなっている。このような感染症を取り巻く状況に対応するため、感染看護の重要性、特に感染管理の重要性を理解し、エビデンスに基づく感染防止技術が実践できるよう学習する。				【学習内容(各回の授業予定)】 1. 感染看護のガイダンス 感染看護・感染管理の概念、感染症の基礎知識(世界的視点,日常的視点,感染症法) 渡邊 2. 医療施設における隔離予防策:標準予防策(概要,手指衛生と个人防护具) 渡邊 3. 医療施設における隔離予防策:感染経路別予防策(含 学校保健安全法) 渡邊 4. 洗浄・消毒・滅菌(含 プリオンへの対応),無菌操作・ガウンテクニック 渡邊 5. 演習:手指衛生 微生物学実験 渡邊・林・今村・中木 6. 演習:个人防护具・無菌操作・手術室におけるガウンテクニック 渡邊・林・今村・中木 7. アクティブラーニング:debate 渡邊・林・今村・中木 8. アクティブラーニング:debate 渡邊・林・今村・中木 9. 医療現場で問題となる病原微生物(含む耐性菌<AMR>対策) 渡邊 10. 職業感染予防・感染性廃棄物の取り扱い 渡邊 11. 医療器具関連感染防止策,手術部位感染防止策 渡邊 12. 感染症と免疫 渡邊 13. 感染症患者の看護 渡邊 14. 感染管理と疫学 渡邊 15. まとめ:医療現場における感染管理の重要性 渡邊			
【到達目標】 1.感染管理における看護師の役割が理解できる。 2.医療施設における隔離予防策が理解でき(標準予防策,経路別予防策),実践できる。 3. 医療関連感染(HAI)について理解できる。							
【予習・復習等準備学習の内容】 微生物学,免疫学,疫学を復習しておくこと。次回の授業範囲を予習し,理解を深めておくこと。							
【留意事項】 演習時は実習着を着用し,身だしなみを整えておく。							
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 1.演習態度とレポート,アクティブラーニングの参加状況,出席状況(30%)				【テキスト】 基礎看護技術Ⅱ,藤崎郁他編集,医学書院(1年次に購入済み)			
【参考図書】 シンプル微生物学改定第5版 東匡伸他編集 南江堂							

授業科目名		基礎看護学実習Ⅰ(早期体験実習)		担当者		江口 瞳・伊藤 尚子・久我原 朋子 他	
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: - 生活心理: - 看護: 1年～
【授業概要】 看護の対象となる人々が療養生活を送る療養環境を知り、看護に対する理解を深める。また、患者・家族やさまざまな医療関係者との関わりから、看護におけるコミュニケーションの機能を理解し、チーム医療における看護専門職の役割や機能について学ぶ。				【学習内容(各回の授業予定)】 実習期間:平成31年9月 実習内容と方法 1. オリエンテーションと事前学習 (全員) 2. 病院見学実習 (全員) ①医療施設ごとに病院の理念や機能、体制などに関する講義を受ける。 ②医療施設内を見学し、療養者の療養生活・看護の実際を見学・体験する。 ③医療施設内の他部門、他職種について見学を通して学ぶ。 ④一日の学びをグループで共有するためのカンファレンスをもつ。 3. 福祉施設見学実習 (全員) ①福祉施設ごとに施設の理念や機能、体制などに関する講義を受ける。 ②福祉施設内を見学し、療養者の療養生活・看護の実際を見学・体験する。 ③療養者とのコミュニケーションを体験する。 ④一日の学びをグループで共有するためのカンファレンスをもつ。 4. 事後の学習 (全員) 実習での学びをまとめて発表する。課題レポートを提出する。			
【到達【到達目標】】 1. 対象者の療養環境を理解する。 2. コミュニケーションや看護場面を見学・体験し、対象者への看護の必要性を考える。 3. チーム医療、看護専門職の役割・機能を理解する。 4. 看護専門職に必要な基本的態度を身につける。				【テキスト】 平成31年度実習要綱、基礎看護学実習Ⅰ実習要項			
【予習・復習等準備学習の内容】 看護学概論での学習内容を踏まえて、実習に向けた事前学習に取り組む。				【参考図書】 なし			
【留意事項】 平成31年度実習要綱・要項を熟読しておく。オリエンテーション・まともめも全出席とする。				【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 実習行動・態度、事前学習、日々の記録、課題レポートを総合的に評価する。評価基準は「基礎看護学実習要項」に示す。			

授業科目名		基礎看護学実習Ⅱ(看護過程実習)		担当者		江口 瞳・伊藤 尚子・久我原 朋子 他	
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: - 生活心理: - 看護: 2年～
【授業概要】 受け持ち対象者との直接的関わりをとおして、対象者の個別性に応じた看護を実践するために必要な看護過程の基礎を学ぶ。また、適切な看護を実践するために必要な基本的看護技術を身につけるとともに、看護職者の役割や専門性について考察する。				【学習内容(各回の授業予定)】 実習期間:平成31年2月～3月 実習内容と方法 1. オリエンテーション(学内・病院)と事前学習 (全員) 2. 病棟実習 (全員) 1) 看護過程の展開 ①受け持ち患者の同意を得、ニーズの理解に必要な情報を収集する。 ②収集した情報をもとに、基本的な看護問題を診断する。 ③看護計画を立案する。 ④計画に沿い、原則を踏まえながら生活の援助を中心とした看護を実践する。 ⑤一連の看護過程を評価・修正する。 2) 一日の学びをグループで共有するためのカンファレンスをもつ。 3. 事後の学習 (全員) 1) グループごとに実習での学びをまとめる。 2) 実習での学びをまとめて発表する。課題レポートを提出する。			
【到達目標】 1. 対象者の情報を意図的、系統的に収集する。2. 収集した情報を解釈・分析し、基本的な療養生活上のニーズを把握する。3. ニーズに応じた看護計画を立案する。4. 看護計画に基づき、対象者に必要な基本的な看護を安全・安楽に、自立を考慮して実施する。5. 実施した看護に基づき、評価・修正する。6. 保健医療チームにおける看護職者の役割や専門性について考察する。7. 看護専門職に必要な、基本的態度を身につける。				【テキスト】 平成31年度実習要綱、基礎看護学実習Ⅱ実習要項 日本看護診断学会監訳:NANDA-I看護診断 定義と分類 <2018-2020>, 医学書院			
【予習・復習等準備学習の内容】 既習の理論や看護技術の学習内容を踏まえて、実習に向けた事前学習に取り組む。				【参考図書】 なし			
【留意事項】 平成31年度実習要綱・要項を熟読しておく。				【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 実習行動・態度、事前学習、日々の記録、課題レポートを総合的に評価する。評価基準は「基礎看護学実習要項」に示す。			

授業科目名 成人看護学概論			担当者 渡邊 都貴子								
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 2年～		
【授業概要】 成人期にある人々とその家族を生活者としてとらえ、らいふさいくるにおける成長・発達・健康レベルに応じた健康問題と看護について考える。			【学習内容(各回の授業予定)】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護学の概念と構成、成人看護学の特性 2. 保健・医療・福祉における動向と課題 3. 健康レベルにおける枠組み 4. 成人期に使用される理論・モデル① ニード論、ケアリング、セルフケア理論、ストレス理論 5. 成人期に使用される理論・モデル② 自己効力、エンパワメント、アンドラゴジー 6. 成人期に使用される理論・モデル③ 家族看護理論、不確かさ、病みの軌跡 7. 継続看護と健康教育 8. まとめ:成人看護学の基本となる概念 			【到達目標】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護学の概念と構成が理解できる 2. 成人期にある人々の健康について理解できる 3. 成人の健康レベルと看護の役割が理解できる 			【予習・復習等準備学習の内容】 予習・復習をすること		
【留意事項】 特に無し。			【テキスト】 成人看護学概論 大西和子、岡部聡子 編集 NOUVELLE HIROKAWA			【参考図書】 国民衛生の動向 厚生統計協会			【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題レポート 30% 2. 期末試験 70% 3. 単位認定のフィードバックを希望する学生には、個別に資料を基に説明を行う期間を設ける。 		

授業科目名 成人看護学援助論 I (慢性期)			担当者 渡邊都貴子・林由佳・今村恭子・中木里美・加藤由美 他								
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 3年～		
【授業概要】 慢性疾患を有する成人期の対象およびその家族の特徴を理解し、セルフケア能力を促す支援の方法および慢性疾患と共に生活するために必要な看護援助について学習する。			【学習内容(各回の授業予定)】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 消化機能障害をもつ対象の看護(肝・胆・膵) 渡邊 2. 呼吸機能障害をもつ対象の看護(COPD) 今村 3. 循環機能障害をもつ対象の看護1(心不全) 今村 4. ボディイメージの変容がある対象の看護(咽頭がん) 渡邊 5. 血液・造血機能障害をもつ対象の看護(白血病) 渡邊 6. 代謝・内分泌障害をもつ対象の看護(糖尿病) 特別講師 7. 腎機能障害をもつ対象の看護(慢性腎不全) 今村 8. 慢性疾患の継続看護とヘルスケアシステムの調整(退院支援) 今村 9. 身体防御機能障害をもつ対象の看護(SLE) 加藤 10. 循環機能障害をもつ対象の看護2(心筋梗塞) (全員) 11. 看護過程の展開①(アセスメント) (全員) 12. 看護過程の展開②(アセスメントの統合) (全員) 13. 看護過程の展開③(関連図) (全員) 14. 看護過程の展開④(計画立案) (全員) 15. 看護過程の展開⑤(発表会、まとめ) (全員) 			【到達目標】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性疾患を有する対象の身体・心理・社会的特徴および家族の特徴を説明できる。 2. 慢性疾患を有する人とその家族に対して、生活をセルフマネジメントできる能力の維持向上を目指した看護援助方法を説明できる。 3. 事例を通し、慢性疾患を有する対象の看護過程を展開できる。 			【予習・復習等準備学習の内容】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 各回に該当する内容を読み、自分の考えをまとめる。 2. わからない言葉や概念は調べておく。 		
【留意事項】 特になし			【テキスト】 慢性期看護学 NOUVELLE HIROKAWA 系統別看護学講座 専門分野II 成人看護学②-⑧ 医学書院			【参考図書】 ナーシンググラフィカ成人看護学(2)健康危機状況/セルフケアの再獲得、 (3)セルフマネジメント)メディカ出版 成人看護学 慢性期看護改訂第2版 南江堂			【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 成績評価: 課題提出と内容、出席状況、学習態度 20% 期末試験 80%		

授業科目名 成人看護学援助論Ⅱ(急性期)				担当者 渡邊都貴子・林由佳・中木里美・今村恭子・加藤由美			
単位数	開講期	区分	必修科目	配当年次	言語文化:	生活心理:	看護:
1	前期				—	—	看護:3年～
【授業概要】 急性期におけるケアの適否はその後の経過に大きな影響をおよぼす。急性の生命危機状態にある患者の看護・クリティカルケア看護について、その特性と看護の概要および基本的ケアについて学習する。さらに周手術期にある患者の全人的ケアに必要な知識・技術を学ぶ。				【学習内容(各回の授業予定)】 <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、急性期の概念と医療・看護の特徴、急性期にある人の特徴と理解(林) 2. 救命救急処置 1 心肺蘇生法 (林・渡邊・中木・今村・加藤) 3. 救命救急処置2 AED (林・渡邊・中木・今村・加藤) 4. 手術前看護(中木) 5. 手術中看護(中木) 6. 手術直後の看護(林) 7. 手術後の看護(林) 8. 手術患者の看護過程の展開:アセスメント(渡邊・林・中木・今村・加藤) 9. 手術患者の看護過程の展開:アセスメント・統合(渡邊・林・中木・今村・加藤) 10. 手術患者の看護過程の展開:計画立案(渡邊・林・中木・今村・加藤) 11. 術後合併症と予防のための看護:呼吸器、循環器、中枢神経合併症(林) 12. 術後合併症予防のための看護:消化器、泌尿器、創部合併症(林) 13. 循環器疾患の術後の患者の看護、(中木) 14. 運動器疾患の術後の患者の看護(中木) 15. 周術期看護の看護の実際 まとめ(林・中木) 			
【到達目標】 1.急性期・クリティカルケア看護の概念が理解できる。 2. 手術過程に応じた看護が理解できる。 3. 術後合併症と予防のための看護が理解できる							
【予習・復習等準備学習の内容】 疾病治療論Ⅱ(外科系領域)の復習をし、次回の授業範囲を予習し、理解を深めておくこと 指示された課題について、提出期限を遵守し提出すること。							
【留意事項】 演習時は、実習衣を着用し身だしなみを整えておく							
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 評価方法:課題・レポート30% ②期末試験70% 単位認定試験へのフィードバックの方法:試験の問題解説や採点基準などの説明について、オフィスアワーの設定もしくは掲示などを行う。				【テキスト】 1矢永勝彦他編『臨床外科看護総論』、医学書院 2.北島正樹他編『臨床外科看護各論』、医学書院 3.本庄恵子ほか『写真でわかる臨床看護技術』インターメディカ			
				【参考図書】 特になし。			

授業科目名 成人看護学援助論Ⅲ(回復期・終末期)				担当者 渡邊都貴子・林由佳・今村恭子・中木里美・加藤由美			
単位数	開講期	区分	必修科目	配当年次	言語文化:	生活心理:	看護:
2	前期				—	—	看護:3年～
【授業概要】 回復期および終末期にある成人及び家族への看護について学習する。回復期になる患者の身体的・心理的・社会的な変化が回復に及ぼす影響と機能障害や能力の低下した患者に必要な基本的な看護、チームケアについて学ぶ。さらに終末期にある対象の看護について倫理的な課題も含めて考察する。				【学習内容(各回の授業予定)】 <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションとは 主要な概念 倫理・法律・施策(渡邊) 2. 身体機能のメカニズムとアセスメント(今村) 3. 心理・社会的なアセスメントと援助(渡邊) 4. 生活の再構築へのアセスメントと援助(渡邊) 5. 身体運動機能障害を有する人への看護(渡邊・築山・今村) 6. 高次脳機能障害を有する人への看護(渡邊・築山・今村) 7. 循環機能障害を有する人への看護(今村) 8. 終末期看護の意味と概念(林・中木) 9. 緩和ケアにおける倫理的課題(林・中木) 10. 終末期にあるその人と家族の特徴・看護(林・中木) 11. 終末期患者の看護 疼痛(林・中木) 12. 終末期患者の看護 倦怠感、消化器症状など(林・中木) 13. 終末期患者の看護 精神的ケア、スピリチュアルケア(林・中木) 14. 臨死時の看護(林・中木) 15. 回復期・終末期患者の看護 演習(渡邊・林・今村・中木・加藤) 			
【到達目標】 1.回復期におけるリハビリテーションの概念を学び、回復期にある対象の看護について学ぶ。 2.終末期における身体的・心理的・社会的・霊的苦痛(全人的苦痛)に対応する看護について学修する。							
【予習・復習等準備学習の内容】 1.各回に該当するテキストを読み、自分の考えをまとめておく。 2. わからない言葉や概念は調べておく。							
【留意事項】 特になし							
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 回復期50%、終末期50% 以下の配分で採点した上で、総合的に判断する。 1. 準備学習の実施状況(課題を含む)、出席状況20% 2. 講義内容の理解(小テスト、定期試験)60% 3. 講義後の学習状況(課題を含む)10% 4. フィードバックを希望する学生については、個別に資料をもとに説明を行う期間を設ける。				【テキスト】 リハビリテーション看護:奥宮暁子他,メディカ出版 緩和・ターミナルケア看護論;鈴木静枝, NOUVEL HIROKAWA			
				【参考図書】 ICFの理解と活用, 上田敏, きょうされん			

授業科目名 成人看護学実習Ⅰ(慢性期)				担当者 渡邊都貴子・林由佳・中木里美・加藤由美 他		
単位数	3 単位	開講期	後期	区分	必修科目	配当年次
				言語文化:	—	生活心理: —
				看護: 3年～		
【授業概要】 慢性疾患を有する、あるいは慢性的な治療経過の中で検査や治療、リハビリテーションを必要とする患者(家族)に対して、対象に合わせた症状緩和や自己管理の方法、生活再調整・再構築を支援する個別的な看護の基礎的能力を習得する。				【学習内容(各回の授業予定)】 実習期間:3週間 実習方法 実習初日(学内)オリエンテーション 事前学習の確認 病棟実習 2日目～2週間 1)慢性疾患を有する、あるいは慢性的な治療経過の中で 検査、治療、リハビリテーションが必要な患者を受持ち、看護過程を展開する。 2)カンファレンスの実施 学生主体で行う。 (1)毎日の学生カンファレンス (2)看護計画立案(および評価)カンファレンス (3)実習での学び、評価カンファレンス 外来実習 2～3日 1)慢性疾患の療養生活を支援するための外来看護の特徴と実践を学ぶ。 2)急性期医療の中で慢性疾患管理を行うための外来の機能と実践を学ぶ。 3)退院支援と地域連携について学ぶ。		
【到達目標】 1.慢性疾患が及ぼす身体的・心理的・社会的な影響を捉えることができる。 2.対象に必要な援助の看護過程が展開できる。				【テキスト】 成人看護学援助論Ⅰで使用したテキスト		
【予習・復習等準備学習の内容】 成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅰの単位を修得し、学習内容を復習する。事前課題を行う。				【参考図書】 適宜紹介する。		
【留意事項】 実習要綱に示す。						
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 事前学習の状況、実習中の態度、実習記録を総合的に評価する。単位認定フィードバックを希望する学生については、個別に資料を基に説明を行う期間を設ける。						

授業科目名 成人看護学実習Ⅱ(急性期)				担当者 渡邊都貴子・林由佳・中木里美・加藤由美 他		
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	必修科目	配当年次
				言語文化:	—	生活心理: —
				看護: 3年～		
【授業概要】 周手術期にある患者を全人的に捉え、患者・家族がおかれている状況と看護の役割を理解し、周手術期にある人に必要な看護が実践できる基礎的能力を習得する				【学習内容(各回の授業予定)】 実習初日は学内でオリエンテーションを行い、事前準備をする。 実習2日目以降は病棟で周手術期にある患者を1名受け持ち、看護を展開する(2週間)。 実習時間は、原則として8時30分から16時30分までとする。 2週間のうち1日は、手術室で見学実習 2週間のうち1日は、ICU見学実習 カンファレンスの実施(毎日) 実習最終日は学内で総括カンファレンスを行う。 詳細は実習要綱および実習要項に示す。		
【到達目標】 周手術期にある患者を全人的に捉え、患者・家族がおかれている状況と看護の役割を理解する。(詳細は実習要綱に示す)				【テキスト】 成人看護学援助論Ⅱで使用したテキスト		
【予習・復習等準備学習の内容】 指示された課題・レポートについて、提出期限を遵守し、提出すること。				【参考図書】 実習中に適宜指示する。		
【留意事項】 実習要綱に示す。						
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 詳細は実習要項に示すが、実習目的・目標に照らし、提出された記録物、レポート、カンファレンス参加度および実習態度など総合的に評価する。実習最終日(学内日)に、個別面談を行う。						

授業科目名 成人看護学実習Ⅲ(緩和ケア)			担当者 渡邊都貴子・林由佳・中木里美・加藤由美 他						
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: 1年～	生活心理: 1年～	看護: 3年～
【授業概要】 (成人期における)患者と家族の身体的・心理社会的・スピリチュアルな苦痛を理解するとともに、その苦痛をできる限り緩和し、その人にふさわしい生活ができるための看護を実践する基礎的能力を養う。				【学習内容(各回の授業予定)】 実習期間:1週間 実習方法 1. オリエンテーションと事前学習 2. 緩和ケア対象者の実際を知る 1) 緩和ケアを受けられている人のケアの実際(緩和ケア病棟) 2) 治療を受けている人のケアの実際(外来化学療法室など) 3) 患者さんの体験(患者会) 3. 学びの共有:各施設等での学びを共有するためのカンファレンス 4. 緩和ケアの実際と今後の展望について考察し、まとめる					
【到達目標】 1. 緩和ケアを必要とする患者とその家族に対する看護援助を学ぶ。 2. 患者へのケアの実践と患者に関わるチームの実際から、緩和ケアにおける看護の役割を学ぶ。				【テキスト】 緩和・ターミナル看護論;鈴木志津枝、NOUVELL HIROKAWA 廣川 平成30年度 看護学実習要項					
【予習・復習等準備学習の内容】 成人看護学概論Ⅰ、成人看護学援助論Ⅲの単位を修得し、復習を行っておくこと。事前課題を行っておくこと。				【参考図書】 適宜紹介する。					
【留意事項】 実習要綱に示す。									
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 実習中の態度、記録物を総合的に評価する。単位認定フィードバックを希望する学生については、個別に資料を基に説明を行う期間を設ける。									

授業科目名 老年看護学概論			担当者 奥山 真由美						
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: ー	生活心理: ー	看護: 2年～
【授業概要】 老年看護の理念や目標について学び、老年看護を実践する上で必要な知識を習得する。また、加齢と健康障害が高齢者の生活に及ぼす影響を概観し、老年期にある人を身体・精神・社会的側面から総合的に理解する。さらに、超高齢社会のなかでの老年看護の役割について考察する。				【学習内容(各回の授業予定)】 1. 加齢と老化、発達課題:エリクソン、ベック、ハヴィガースト、死生観、ライフレビュー 2. 高齢社会と社会保障:統計、動向、保健医療福祉システムの構築、多職種連携 3. 老年看護の特徴、理論・概念:ストレングス、コンフォート理論、サクセスフルエイジング 4. 高齢者のアセスメント:加齢:皮膚・感覚器・循環系・呼吸器系 5. 高齢者のアセスメント:加齢:消化器系・ホルモン分泌・泌尿器系・運動系 6. 高齢者によくみられる身体症状とアセスメント:発熱・脱水・熱中症・浮腫 7. 高齢者の生活機能を整える看護:動作・姿勢・転倒・廃用症候群 8. 高齢者の生活機能を整える看護:食生活・摂食・嚥下・排泄・清潔 9. 検査・治療を受ける高齢者の看護 10. 放射線療法・化学療法・急性期や周手術期・重症の高齢者と家族の看護 11. 高齢者のリスクマネジメント:医療安全 12. 高齢者のリスクマネジメント:救命救急・災害看護 13. 生活・療養の場の看護の展開:介護予防、急性期・リハ・保健福祉医療施設の看護 14. 終末期ケア:ターミナルケア、緩和ケア、エンドオブライフケアと看護の実際 15. 高齢社会における権利擁護:スティグマ・虐待・身体拘束・スピリチュアルケア・制度					
【到達目標】 1. 老年看護学の理論や概念を学び、老年期にある対象を全人的に理解するための知識を得る。 2. 高齢者を支える保健・医療・福祉システムにおける看護の役割を理解する。 3. 高齢者の自立性とQOL向上のための看護を理解する。 4. 老年看護における倫理的課題を学び、高齢者を主体とした看護のあり方を理解する。				【テキスト】 系統看護学講座 老年看護学 医学書院					
【予習・復習等準備学習の内容】 次回の授業テーマについて、テキストを読んで予習し、理解を深めておくこと				【参考図書】 特になし					
【留意事項】 授業には毎回テキストを持参する。									
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 単位認定試験の終了後に、特に回答率の悪かった(回答率50%未満の場合)場合に試験の解答と解説を掲示する。									

授業科目名 老年看護学援助論			担当者 奥山 真由美・荒木 大治 他						
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 3年～
【授業概要】 1. 老年期にある対象の特徴を、個人の健康状態や生活史、価値観、時代の変遷、現在の状況などから総合的に理解し、高齢者の個別性と多様性について学習する。 2. 加齢と健康障害の区別ができ、その相違に基づいた看護過程の展開を学習する。 3. 老年期に代表的な健康障害を持つ対象のアセスメントや生活機能を整えるために必要な援助を事例を用いた演習を通して学習する。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 高齢者の健康障害の特徴と看護: 運動器系(フレイル・ロコモ・サルコペニア含)(奥山・田中) 2. 予防看護: 介護予防、認知症、誤嚥、骨折予防(奥山) 3. 高齢者とのコミュニケーション(荒木)、高齢者のフィジカルアセスメント(奥山) 4. 高齢者のフィジカルアセスメント: 演習、高齢者体験: 演習(奥山・荒木・田中) 5. 高齢者の健康障害の特徴と看護: 精神・神経疾患: 脳血管障害(荒木) 6. 高齢者の健康障害の特徴と看護: 精神・神経疾患: パーキンソン病・うつ(荒木) 7. 高齢者の健康障害の特徴と看護: 認知症(奥山) 8. 高齢者の健康障害の特徴と看護: 認知症(DVDによるアセスメント)(奥山) 9. 高齢者の健康障害の特徴と看護: 呼吸器系、循環器系(荒木) 10. 高齢者の健康障害の特徴と看護: 感覚器系、皮膚、感染症(奥山) 11. 高齢者のリハビリテーション(荒木)、高齢者施設における看護の展開(奥山) 12. 高齢者の薬物療法(荒木)、地域包括ケアシステムにおける老年看護の役割(奥山) 13. 高齢者の特徴をふまえた看護過程の展開: 講義(奥山) 14. 高齢者の特徴をふまえた看護過程の展開: 演習(奥山・荒木) 15. 高齢者の特徴をふまえた看護過程の展開: 講義・解説(奥山)						
【到達目標】 1. 高齢者の個別性と多様性について、加齢変化に与える要因との関連から説明できる。 2. 老年期に代表的な健康障害の特徴を理解する。 3. 加齢と健康障害の違いを認識し、それらが高齢者の生活機能に及ぼす影響について評価し、必要な看護援助を導き出すことができる。 4. 日常生活機能の低下した高齢者および家族に対する看護実践のための知識、技術、態度を習得する。			【テキスト】 系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論 医学書院 系統看護学講座 老年看護学 医学書院						
【予習・復習等準備学習の内容】 テキストや配布資料を読んで予習し、理解を深めておく。			【参考図書】 特になし						
【留意事項】 授業には毎回テキストを持参する。									
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 単位認定試験の終了後に特に回答率の悪かった(回答率50%未満の場合、試験の解答・解説を掲示する。									

授業科目名 老年看護学実習			担当者 奥山 真由美・荒木 大治 他						
単位数	4 単位	開講期	後期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 3年～
【授業概要】 地域や施設などで生活する高齢者のQOLを維持・向上するために、ケアニーズを的確に把握し、健康レベルに応じた看護を実践する。また、保健・医療・福祉関係者と連携したチームケアや社会資源の活用について学び、高齢者を支える看護の役割・機能を理解する。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 公民館での地域で自立した高齢者の健康測定(1週間): 公民館 1) 地区(中区)の特徴と地域ニーズの把握 2) 地域高齢者の身体・精神・社会的機能の測定とアセスメントの実施 3) 健康増進・介護予防の視点での支援計画を立案する 4) 測定結果の結果説明会と予防看護の実践(岡山市中区・食物栄養学科との連携による) 5) 地域包括ケア推進における看護職の役割を考察する。 2. 加齢に伴う健康障害を持つ高齢者の看護過程の展開(2週間): 病院 1) 老年期に特有な健康障害(認知症、脳血管障害、大腿骨頸部骨折、心不全、呼吸器疾患、パーキンソン病など)をもつ高齢患者を1名受け持ち、身体・精神・社会的側面からアセスメントし、高齢者と家族の生活機能を支えるために必要な看護援助を計画、実施、評価する。 3. 回復期リハビリテーション病院での退院支援にむけた看護を学ぶ(1週間) 1) 回復期病院・病棟での多職種連携・チーム医療の実際を見学する。 2) 回復期病棟の看護職の役割についてのグループワーク(指導者の助言を受ける) 3) グループワークの成果を発表し、臨地実習指導者とのディスカッション、反省会の実施						
【到達目標】 1. 高齢者を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解できる。2. 加齢と健康障害が日常生活に与える影響について理解できる。3. 高齢者と家族の健康回復と生活機能を整えるために必要な看護援助を計画・実施・評価する。4. 高齢者の生活を支える保健・医療・福祉システムにおける看護の役割・機能を理解する。			【教材】 【テキスト】 老年看護学概論、老年看護学援助論で使用したテキスト						
【予習・復習等準備学習の内容】 老年看護学概論・老年看護学援助論の単位を修得していること。夏季休業中に事前課題に取り組むこと。			【参考図書】 実習中に別途指示する。						
【留意事項】 実習要項に示す。									
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 実習目的・目標に照らし、提出された記録物、レポート、カンファレンス参加度および実習態度などから総合的に評価する。評価の詳細は実習要綱に示す。総合評価については、指導者からの評価等を希望者にコメントする。									

授業科目名 母性看護学概論				担当者 梅崎 みどり			
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: - 生活心理: - 看護: 2年～
【授業概要】 母性看護学の基礎となる概念と理論を理解し、リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する健康課題を明らかにすると共に、女性とその家族の各ライフステージにおける特徴を包括的に捉える。具体的内容は、女性とその家族の各ライフステージと妊娠・分娩・産褥・新生児各期の対象理解と援助のあり方、母子保健の変遷と動向、ウイメンズヘルス、セクシュアル・ヘルス・ライツなどを学び、看護の役割と課題について学習する 【到達目標】 1.母性看護の基礎となる概念を理解し現状と動向をふまえ、役割を理解することができる。 2.母性の特性を理解し対象の理解が出来る。 3.母性看護の対象の健康を目指した看護を考察することができる。 【予習・復習等準備学習の内容】 毎回の授業後には内容を復習し、理解を深めて次回の授業に臨むこと。 【留意事項】 「疾病・治療論Ⅳ」の学習内容を復習しておくこと。課題提出期日を守り、予習・復習の学習プランを主体的に立案すること。 【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 8回の授業終了後、期末試験を行う。評価は演習の参加状況、課題レポートなどを加味する。試験については正答率の低かった問題等の講評を掲示等により行う。 期末試験 70% 課題レポート他 30%				【学習内容(各回の授業予定)】 1. ガイダンス 母性看護学の基礎となる概念 2. 母性看護の特性と取り巻く社会の変遷と現状 3. 母子保健統計の動向 4. リプロダクティブ・ヘルス/ライツとセクシャリティの発達 5. 母性看護の対象理解 6. 女性のライフサイクルと健康 7. 生殖に関する健康課題と看護支援 8. まとめと課題発表 【テキスト】 系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護概論 医学書院 【参考図書】 適宜授業中に紹介する			

授業科目名 母性看護学援助論				担当者 梅崎 みどり・那須 明美 他			
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: - 生活心理: - 看護: 3年～
【授業概要】 女性のライフサイクルの中で、生命誕生に関与する妊娠、分娩、産褥、新生児期に焦点をあて、各期の身体的、社会的、心理的变化を理解すると共に、周産期における母子と家族への具体的な看護の方法と、子育てまでを含む新しい家族の発達過程への支援について探求する。 【到達目標】 1.妊娠・分娩・産褥の生理的な変化が説明できる。 2.新生児の適応過程について説明できる。 3.母児を取り巻く今日の課題を踏まえた看護の役割について考察できる。 4.母性看護に必要な看護技術を、科学的根拠に基づいて説明し、教員の指導のもとに実施できる。 【予習・復習等準備学習の内容】 毎回の授業後には内容を復習し、理解を深めて次回の授業に臨むこと。 【留意事項】 「疾病治療論Ⅳ」「母性看護学概論」を履修し、内容を復習しておくこと。主体的に課題学習に取り組むこと。 【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 30回の授業終了後、期末試験を行う。評価は筆記試験、授業態度および演習の参加状況、課題レポートなどを基に総合的に評価する。試験については正答率の低かった問題等の講評を掲示等により行う。筆記試験:70% 演習:20%(全出席を原則とする) 課題レポート:10%				【学習内容(各回の授業予定)】 1. ガイダンス、妊娠経過のアセスメントに必要な知識と技術(梅崎) 16. 分娩期に起こりうる正常からの逸脱(合田) 2. 妊娠経過のアセスメント(梅崎) 17. 分娩期看護過程①(梅崎・那須) 3. 妊娠期の健康課題と看護(那須) 18. 分娩期看護過程②(梅崎・那須) 4. 妊娠期に起こりうる正常からの逸脱(梅崎) 19. 産褥経過のアセスメントに必要な知識と技術(梅崎) 5. 妊娠期看護過程①(梅崎・那須) 20. 産褥経過のアセスメント、母乳育児支援(那須) 6. 分娩経過のアセスメントに必要な知識と技術(合田) 21. 産褥期のニーズ・健康課題と看護(那須) 7. 妊娠期看護過程②(梅崎・那須) 22. 産褥期に起こりうる正常からの逸脱(梅崎) 8. 新生児のアセスメントに必要な知識と技術(梅崎) 23. 新生児の健康診査、沐浴演習(梅崎・那須) 9. 新生児の観察、アセスメント(那須) 24. 10. 分娩経過のアセスメント(合田) 25. 産褥期看護過程①(梅崎・那須) 11. 新生児の看護(那須) 26. 産褥期看護過程②(梅崎・那須) 12. 新生児期に起こりうる正常からの逸脱(梅崎) 27. 妊娠期・産褥期演習(梅崎・那須) 13. 新生児の看護過程①(梅崎・那須) 28. 14. 分娩期のニーズ・健康課題と看護(合田) 29. まとめ(梅崎・那須) 15. 新生児の看護過程②(梅崎・那須) 30.			
【テキスト】 母性看護学Ⅱ周産期各論 医歯薬出版株式会社 ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 医歯薬出版株式会社 【参考図書】 系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院 ナーシング・グラフィカ母性看護学 母性看護実践の基本 メディカ出版 病気が見えるVol.10 産科第3版 メディックメディア							

授業科目名 母性看護学実習			担当者 梅崎 みどり・那須 明美 他								
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 3年～		
【授業概要】 母性看護の対象者とその家族の役割移行を理解し、健康の保持・増進と家族機能の順調な発達に関する援助についての基本的知識と技術を学ぶ。倫理的な配慮のもとに、看護を行える実践能力を養う。具体的には、各期における対象の特性の理解、ヘルスアセスメント、ウェルネスの看護過程の展開、家族の機能のアセスメント、各期における看護技術と保健指導の実際を学ぶ			【学習内容(各回の授業予定)】 実習期間:2週間 実習内容と方法 1. オリエンテーションと事前学習 2. 病院実習 1) 施設内の見学およびオリエンテーション 2) 受け持ち事例を決定し、看護計画の立案に必要な情報を収集する。 3) 行動計画に沿って、受け持ち事例の看護の実際を見学・体験する。 4) 産婦人科における診療を見学する。 5) 学びを共有するためのカンファレンスをもつ。 3. 課題レポートをまとめ、実習の振り返りを行う。			【到達目標】 1.妊婦・産婦・褥婦・新生児とその家族の特徴を理解する。 2.妊婦・産婦・褥婦・新生児とその家族に応じた援助の展開方法を習得する。 3.母性看護に必要な技術を習得する。 4.女性の生涯をとおした健康支援の必要性を理解する。			【テキスト】 「母性看護学概論」「母性看護学援助論」で使用したテキストおよび資料		
【予習・復習等準備学習の内容】 「母性看護学概論」「母性看護学援助論」を履修しておくこと。			【参考図書】 佐世正勝/石村由利子編集:ウエルネスからみた母性看護過程+病態関連図, 医学書院。 堀内成子編集:母性看護実習ガイド, 南江堂。			【留意事項】 事前課題を完成させ、根拠に基づいた援助ができるように準備しておくこと。健康の自己管理ができること。			【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 実習内容、レポート、実習記録から総合的に評価する。希望する学生には、個別に資料を基に説明を行う。		

授業科目名 小児看護学概論			担当者 森口 信子								
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 2年～		
【授業概要】 誕生から著しく成長・発達を遂げる子どもの特徴とその過程を理解し、小児看護の理念と役割、看護活動の基礎を学習する。また、小児看護の対象である子どもとその家族を取り巻く環境を社会環境、保健医療、福祉、教育の側面から概観し、発達段階別の生活への養護について学習し、成長発達過程にある子どもとその家族を支援するために必要な知識の理解を深める。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. ガイダンス 小児看護の特徴と理念, 小児と家族の諸統計 2. 小児看護における倫理, 子どもの権利 3. 小児看護における発達理論 4. 小児の成長・発達の特徴①(成長・発達の原則, 成長・発達に影響する要因) 5. 小児の成長・発達の特徴②(形態的・機能的・心理社会的発達) 6. 小児の栄養 7. 各期の成長・発達(新生児期) 8. 各期の成長・発達(乳児期) 9. 各期の成長・発達(幼児期) 10. 各期の成長・発達(学童期・思春期) 11. 遊びと学習 12. 子どもの安全と事故防止 13. 子どもと家族 14. 小児保健①(法律と制度) 15. 小児保健②(小児と家族を取り巻く社会環境)			【到達目標】 1.小児看護の対象が理解できる 2.小児看護の役割が理解できる 3.子どもの成長・発達の特徴と影響要因が理解できる 4.各発達段階での生活の特徴を理解し、日常生活援助について述べる事ができる 5.子どもの健やかな発達を支える保健施策について述べる事ができる			【テキスト】 系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院		
【予習・復習等準備学習の内容】 予定された授業内容について、前回の復習とともに予習をし臨むこと。			【参考図書】 適宜授業中に紹介する			【留意事項】 各回、学習内容の復習を行うこと。課題提出期日を守ること。			【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 授業参加態度、課題レポート及び科目末試験等を基に、総合的に判断する		

授業科目名 小児看護学援助論			担当者 森口 信子・茅原 えり子 他						
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 3年～
【授業概要】 小児の主要理論に基づき、小児の発達段階に応じた日常生活援助方法を習得する。健康障害が子どもと家族に及ぼす影響について学び、看護援助を提供するために必要な知識と技術について、講義・演習を通して修得する。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. ガイダンス 健康障害が子どもと家族に及ぼす影響 入院中の子どもと家族の看護 2. 成長・発達の評価(演習) 3. 成長・発達の評価(演習) 4. 外来における子どもと家族の看護 身体障害のある子どもと家族の看護 5. 慢性期にある子どもと家族の看護 終末期の子どもと家族の看護 6. 急性期にある子どもと家族の看護 周手術期の子どもと家族の看護 7. 在宅療養中の子どもと家族の看護 災害時の子どもと家族の看護 8. プレパレーション(講義) プレパレーション(GW) 9. 症状を示す子どもの看護 10. 子どものアセスメント(講義) 検査・処置を受ける子どもの看護 11. 子どものアセスメント、小児技術(演習) 12. 障害のある子どもと家族の看護/まとめ 13. 看護過程(講義) 14. 看護過程(GW) 15. 看護過程(GW・発表)						
【到達目標】 1.健康障害が、子どもと家族に与える影響について理解できる 2.子どもに起こりやすい主な健康障害と症状への看護を理解することができる 3.小児看護に必要な技術について小児の成長発達に合わせた実施方法を考え実施(演習)することができる 4様々な状況にある子どもとその家族に必要な看護援助を考えることができる(看護過程の展開) 5.特別な支援を必要とする子どもと家族への看護を理解できる			【テキスト】 系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 ナーシンググラフィカ 小児看護学② 小児看護技術						
【予習・復習等準備学習の内容】 毎回の授業後には内容を復習し、理解を深めて次の授業に臨むこと。			【参考図書】 系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論						
【留意事項】 「疾病治療論Ⅴ」「小児看護学概論」を履修し、内容を復習しておくこと。主体的に課題学習に取り組むこと。			【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 評価は、レポート・演習記録 20% 期末試験 80%						

授業科目名 小児看護学実習			担当者 森口 信子・茅原 えり子 他						
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 3年～
【授業概要】 小児看護学の既存の知識・技術・経験を基に、健康な小児と健康障がいのある小児とその家族への援助を考え実践する。その中から、小児看護の実践を学び、自己の課題を明らかにする。			【学習内容(各回の授業予定)】 実習期間:2週間 実習内容と方法 1. 幼稚園・保育園実習(3日) 配置された年代の子ども保育を実践する 2. 病院実習(6日) 1)施設内見学,オリエンテーション。 2)受け持ち事例を決定し、看護計画の立案に必要な情報を収集する。 3)行動計画に沿って、受け持ち事例の看護の実際を見学・経験する。 4)小児科外来での看護の実際を見学・実践する。 5)学びを共有するためのカンファレンスをもつ。 3. 課題レポートをまとめ、実習の振り返りを行う。						
【到達目標】 1. 成長発達段階にある子どもとその家族に対し、健康の保持・増進・回復のために、既存の知識・技術を用い援助ができる。2.子どもの健康障害が、子どもとその家族に及ぼす影響を理解し、発達段階に応じた援助ができる。3.子どもと家族のニーズに応じて援助をする際、倫理的に配慮し子どもと家族の権利を擁護する子ができる。			【テキスト】 「小児看護学概論」「小児看護学援助論」「疾病治療論Ⅴ」で使用したテキストおよび資料						
【予習・復習等準備学習の内容】 「小児看護学概論」「小児看護学援助論」を履修しておくこと。			【参考図書】 特になし。						
【留意事項】 根拠に基づいた援助ができるように、「小児看護学概論」「小児看護学援助論」「疾病治療論Ⅴ」などを復習し準備しておくこと。健康の自己管理ができる			【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 実習内容、レポート、実習記録から総合的に評価する。 希望する学生には、個別に資料を基に説明を行う。						

授業科目名 在宅看護学概論				担当者 人見 裕江					
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 2年～
【授業概要】 在宅看護の変遷や社会背景、在宅看護の目的、対象の特徴、倫理や基本的理念と関連する概念について学習する。さらに地域包括ケアシステムにおける看護の役割を理解するとともに、ケアマネジメント、訪問看護制度、多職種連携・協働、対象者の権利保障等について学習する。 【到達目標】 1. 日本の在宅看護の変遷とその社会的背景について説明ができる。 2. 在宅看護の目的と基本理念、地域ケアシステムにおける在宅看護の役割が説明できる。 【予習・復習等準備学習の内容】 「社会福祉論」「社会保障制度」を履修しておくこと。 【留意事項】 特になし 【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 15回の授業終了後期末試験を行う。中間試験としてレポートを課し、授業の理解度を把握するために各授業開始時に小テストを行う。課題レポートの必要とされる記載事項について講評をその都度行う。期末試験(80%)、レポート(20%)を総合評価する。				【学習内容(各回の授業予定)】 1. 在宅看護の概念(1)日本の在宅看護の歴史と現状、地域療養を支える看護 2. 在宅看護の概念(2)在宅看護の倫理と基本理念、在宅ケアと在宅看護 3. 在宅療養者と家族の支援(1)訪問看護の対象者、在宅看護の対象者と在宅看護の成立要件 4. 在宅療養者と家族の支援(2)在宅療養者への看護活動 5. 在宅療養者と家族の支援(3)在宅看護と家族、家族介護者の個別性に応じた支援 6. 在宅療養を支える訪問看護(1)訪問看護の特徴、在宅ケアを支える訪問看護ステーション 7. 在宅療養を支える訪問看護(2)訪問看護の実践、訪問看護の記録 8. 在宅ケアのケアマネジメントと関係機関・関係職種間の連携(1)在宅ケアとケアマネジメント 9. 在宅ケアのケアマネジメントと関係機関・関係職種間の連携(2)在宅ケアにおける関係機関・職種との連携・協働 10. 在宅ケアのケアマネジメントと関係機関・関係職種間の連携(3)地域包括ケアシステムと在宅ケア 11. 在宅ケアのケアマネジメントと関係機関・関係職種間の連携(4)在宅ケアと危機管理 12. 在宅ケアを支える制度と社会資源(1)社会資源の活用、医療保険制度、介護保険制度 13. 在宅ケアを支える制度と社会資源(2)障害者と子どもの在宅療養を支える制度と社会資源 14. 訪問看護の実際:ロールプレイ 15. 訪問看護の実際:ロールプレイ 【テキスト】 ナーシング・グラフィカ在宅看護論 地域医療を支えるケア; 臺有桂他編、メデイカ出版 改訂版 やさしさの在宅ケア; 人見裕江編著、ふくろう出版 【参考図書】 改訂新版選ばれる訪問看護ステーションになるために; 藤原泰子著、真興交易医書出版 在宅看護取りマニュアル-訪問看護師のための5ステージによるケア-; 藤原泰子著、真興交易医書出版					

授業科目名 在宅看護学援助論				担当者 人見 裕江 他					
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 3年～
【授業概要】 在宅療養者とその家族の自己決定、自立・自律支援に基づくQOLの向上のための在宅看護の展開方法を学習する。さらに、在宅看護における看護過程の展開方法を理解する。在宅看護における日常生活の支援、医療的援助の基本的知識・技術を習得する。 【到達目標】 それぞれの事例における個別の支援のためのアセスメントや看護過程の展開方法が習得できる。1事例の看護過程の展開とその実際の記録が書け、提出できる(課題レポート)。 【予習・復習等準備学習の内容】 「在宅看護学概論」を履修しておくこと。 【留意事項】 技術演習の場合には、事前に必要物品等を提示する。 【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 15回の授業終了後に期末試験を行う。各回2コマの講義・演習のため、授業予定の事前学修として、テキストを熟読し、内容をノートし、演習に主体的に取り組む。期末試験(80%)、課題レポート(詳細は授業時に説明、20%)を総合して評価する。				【学習内容(各回の授業予定)】 1. 在宅看護の姿勢・考え方 (1)変化の予測と自立支援 (2)ヘルスアセスメント (3)家族支援 (4)看護過程の展開 (5)倫理的課題 2. 事例による看護過程の展開: (1)糖尿病の独居高齢者 (2)老老介護の人工骨頭置換術後パーキンソン病の療養者 3. 事例による看護過程の展開: (3)被虐待が疑われる認知症高齢者 (4)脳梗塞後遺症のある高齢者 4. 事例による看護過程の展開: (5)末期がん療養者 (6)ALS療養者 5. 事例による看護過程の展開: (7)事故により中途障害となった成人男性 (8)在宅での生活を希望する精神障害者 6. 事例による看護過程の展開: 地域で生活する重症心身障害児 7. 食・栄養のアセスメントと援助方法 (1)摂食嚥下 (2)経管栄養法 (3)中心静脈栄養法 (4)在宅静脈注射 8. 排泄状態のアセスメントと援助技術 (1)排泄補助用具 (2)膀胱留置カテーテル管理、自己導尿 (3)排便 (4)ストーマ 9. 清潔保持能力のアセスメントと援助技術 (1)片まひのある療養者の入浴・清拭・部分浴・洗髪・口腔ケア 10. 移動動作能力のアセスメントと援助技術 (1)体位変換、車椅子、杖、リフト等 (2)生活環境 11. 呼吸のアセスメントと援助技術 (1)呼吸理学療法 (2)気管カニューレ (3)在宅酸素療法 (4)在宅人工呼吸療法 (5)非侵襲的陽圧換気療法 12. 感染・体温・体位のアセスメントと援助技術 (1)感染予防、在宅における感染管理 (2)体温の安全保持 13. その他の医療的援助と技術 (1)良肢位の保持、褥瘡予防とケア (2)足病変のケア 14. 医療的ケアの原理原則 (1)薬物療法、服薬管理 (2)がん外来化学療法 (3)インスリン自己注射 (4)在宅CAPD療法 15. 在宅エンド・オブライフ・ケア (1)在宅での苦痛緩和と看取り 【テキスト】 在宅看護学概論で使用したテキスト 臺有佳編著、ナーシンググラフィカ在宅看護論②在宅療養を支える技術、2019 【参考図書】 河野まゆみ編著、強みと弱みからみた在宅看護過程: +総合的機能関連図、医学書院 押川真喜子監修、写真でわかる訪問看護アドバンス、インターメデイカ、2016					

授業科目名 在宅看護学実習			担当者 人見 裕江 他											
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 4年					
【授業概要】 在宅看護の実際とその根拠を理解し、在宅で生活する療養者とその家族に応じた看護ができる基礎的能力を習得する。さらに少子超高齢多死時代に対応する地域包括ケアシステムにおける看護の役割を理解するとともに、訪問看護師と多職種との連携・協働について学習する。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 実習期間: 2週間 2. 実習方法: 訪問看護ステーション6日 患者サポートセンター 1日 地域密着型通所介護 1日 3. 実習内容 ① 実習ガイダンスは実習開始前に学内で行う ② グループ別オリエンテーションは直前の週に指導教員が学内で行う ③ 各実習施設のオリエンテーションは実習初日に各施設の実習指導者が行う ④ 受け持ち対象者の選定は実習指導者と指導教員の協議で実習前週に行う ⑤ 訪問看護ステーション実習では1名を受け持ち、訪問看護過程の展開を学ぶとともに、受け持ち対象者以外の訪問看護も実習する ⑥ 患者サポートセンターでは退院支援の必要性和意義を体験する ⑦ 地域密着型通所介護等、地域包括ケアシステムにおける多職種連携について学ぶ。 ⑧ 学内カンファレンスは実習最終日に各グループの実習内容を発表し、学びの整理をする。			【到達目標】 1. 訪問事例を通して対象を理解し、対象の生活の場や状況に応じた支援方法を学ぶ。2. 1人ひとりの暮らしや生き方を尊重する支援を創造し、指導を受け一部実践できる。3. 地域包括ケアシステムの多職種連携による医療と生活をつなぐ看護職の役割を理解できる。			【予習・復習等準備学習の内容】 「在宅看護学概論」「在宅看護学援助論」を履修しておくこと。			【留意事項】 在宅看護実習要項に示す。		
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 看護実践(実習評価表)80%、事前課題レポート10%、総括レポート10%等で総合的に評価する。詳細は在宅看護実習要項に示す。			【テキスト】 「在宅看護学概論」「在宅看護学援助論」で使用したテキスト			【参考図書】 「在宅看護学概論」「在宅看護学援助論」で使用したテキスト								

授業科目名 精神看護学概論			担当者 澤田 由美・揚野 裕紀子 他											
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 2年～					
【授業概要】 人々の心の健康に影響する諸問題を、社会環境、保健、医療、福祉、看護などの幅広い側面から理解し、必要とされる援助について考える。また、精神の健康保持・増進・疾病予防を図るために、心の成長・発達や人間関係について理解する。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 精神看護学とは 精神看護の基本概念 社会とメンタルヘルス (澤田) 2. ライフサイクルと精神保健 こころの健康と発達課題 演習①グループワーク (澤田) 3. 生活の場と精神保健 (澤田) 4. こころの健康と発達課題 演習②プレゼンテーション、ディスカッション (澤田) 5. 精神保健医療の沿革・歴史 医療倫理 (揚野) 6. 精神保健医療福祉に関する法律 (揚野) 7. 精神の機能と障害 ストレスと対処(コーピング)行動・危機理論 (澤田) 8. 臨床におけるこころの健康 看護師のメンタルヘルス (澤田) 9. 治療過程における専門的介入 精神看護の目的 (精神科看護師による特別講義) 10. 看護援助の基本、場面再構成、治療的コミュニケーション技法 演習③ディスカッション (澤田) 11. リエゾン看護 精神看護専門看護師の役割 (浅原) 12. 当事者の理解 ディスカッション (揚野) 13. 地域精神保健に関する資源の活用と調整 (揚野) 14. 災害時精神保健医療活動、社会復帰・社会参加 (揚野) 15. まとめと重点項目の復習 (揚野・澤田)			【到達目標】 看護の専門分野として精神看護学が目指すものや、精神看護学の基本となる基礎概念を理解する。精神科病院や関連施設を見学し、精神科医療・看護の理解を深める。			【予習・復習等準備学習の内容】 疾病・治療論Ⅱ(精神領域)を理解しておくこと。			【留意事項】 予習・復習すること、配布資料は実習でも活用できるように整理しておくこと。		
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 成績評価基準は、期末試験の得点を80%、授業の際に課す提出物などの20%とし、試験、提出物などを総合的に評価する。単位認定試験へのフィードバックを希望する学生については、個別に資料を基に説明を行う期間を設ける。			【テキスト】 川野雅資編集: 精神看護学Ⅰ(第6版)、ヌーヴェルヒロカワ			【参考図書】 武井麻子著、精神看護学ノート、医学書院								

授業科目名 精神看護学援助論			担当者 澤田由美・揚野裕紀子・浅原佳紀・井田裕子		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目
		配当年次	言語文化: -		生活心理: -
		看護: 3年～			
【授業概要】 精神疾患患者を取り巻く保健・医療・福祉に関する知識を習得しながら、精神疾患患者の理解を深める。 精神科看護の目的・理論・方法、精神科リハビリテーション、地域精神保健活動について学ぶ。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 精神科看護の考え方、精神を病む人の理解と対応 (澤田) 2. 精神科の治療と看護1 (身体療法・精神療法) (浅原) 3. 精神科の治療と看護2 (社会療法)、施設見学オリエンテーション (澤田・浅原) 4. 精神疾患を持つ人への看護、GWオリエンテーション (浅原) 5. 精神看護における人権、医療安全管理 (澤田) 6. 精神科医療・看護の場を理解する (施設見学) (澤田・浅原・井田) 7. 精神症状を持つ人への看護 グループワーク・発表 (浅原) 8. 精神科リハビリテーション、退院促進 (特別講師-PSW・精神科認定看護師) 9. 地域生活支援、訪問看護 (特別講師-訪問看護ステーション管理者) 10. 司法精神看護、精神医療の現状と課題、SP演習オリ・グループワーク (浅原・井田・揚野) 11. 精神看護におけるケア技術 病態像別看護介入の基本 (SPとの演習・グループワーク・ディスカッション) (浅原・井田・澤田) 12. 模擬授業振り返り 場面再構成、治療的コミュニケーション技法 (浅原・井田・澤田) 13. 精神看護に活用する理論・モデル (浅原) 14. 精神疾患を持つ人への看護 事例展開1 (浅原・井田) 事例演習2・3 (浅原・井田) 15. 精神疾患を持つ人への看護 まとめ (澤田・浅原)		
【到達目標】 精神疾患患者とその家族への支援に必要な看護援助、援助関係形成技法、治療的コミュニケーションなどの具体的な介入方法について理解できる。					
【予習・復習等準備学習の内容】 疾病・治療論Ⅱ(精神領域)、精神看護学概論を理解しておくこと。					
【留意事項】 予習・復習すること、配布資料は実習でも活用できるように整理しておくこと。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 成績評価基準は、期末試験の得点を80%、授業の際に課す提出物などの20%とし、試験、提出物などを総合的に評価する。単位認定試験へのフィードバックを希望する学生については、個別に資料を基に説明を行う期間を設ける。			【テキスト】 川野雅資編集:精神看護学Ⅱ(第6版)、ヌーヴェルヒロカワ		
			【参考図書】 川野雅資:精神科臨床看護技術の展開、中央法規		

授業科目名 精神看護学実習			担当者 澤田 由美・浅原 佳紀・井田 裕子		
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	必修科目
		配当年次	言語文化: -		生活心理: -
		看護: 3年～			
【授業概要】 精神的な健康問題を抱える人との関わりを中心に、精神疾患に対する理解を深める。病棟では患者を受け持ち、治療及び生活の自立を支援するための看護を実践する。また、精神科における治療やリハビリテーションを学び、保健、医療、福祉など多職種との連携の実際を学ぶ。			【学習内容(各回の授業予定)】 実習期間:2週間 実習内容: 1. 1名の患者を受け持つ。 2. 受け持ち患者について看護過程を展開する。 ①情報収集 ②アセスメント ③看護上の問題 ④計画 ⑤実施 ⑥評価 3. 立案したケアプランは、指導者・教員の助言を得て実施する。 4. カンファレンスで得た助言をその後の実習に活かす。 5. 自分自身の感情の動きを客観的に理解する。 6. 社会復帰に必要な社会資源や看護の役割を理解する。 ※詳細については実習要項参照のこと		
【到達目標】 精神疾患を抱える人を理解するとともに、その疾患が阻害している生活行動に対し、自立を促す目的で提供される援助の実践を通し、精神看護の基礎的能力を習得する。					
【予習・復習等準備学習の内容】 「精神疾患・治療及び精神看護、社会資源」に関する課題について事前学習をしておくこと 精神看護学援助論・事例展開課題を提出していること					
【留意事項】 疾病・治療論(精神)、精神看護概論、精神看護学援助論を修得しておくこと					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 成績評価は、事前学習・実習内容・出席状況・実習記録物・カンファレンスなどへの参加態度などで総合評価する。単位認定のフィードバックを希望する学生については、個別に資料を基に説明を行う期間を設ける。			【テキスト】 精神看護学概論・精神看護学援助論で使用したテキスト 実習要綱を実習前に配布する。		
			【参考図書】 適宜紹介する。		

授業科目名 公衆衛生看護学概論				担当者 福岡 悦子			
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	選択科目	配当年次	言語文化: - 生活心理: - 看護: 2年～
【授業概要】 (1)公衆衛生看護学の定義・目的・原則を理解する(健康、予防の概念を含む)。 (2)プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションと共に活動の場の特性および方法を理解する。 (3)社会情勢を理解し、保健関連行動、地域診断の概要を理解するとともに、健康危機管理を理解する。 (4)諸外国の地域看護活動、日本の国際交流、公害・環境汚染などについて理解する。 【到達目標】 公衆衛生看護活動の理念を理解し、地域における看護活動の基本的な考え方、保健師の役割がわかる。 【予習・復習等準備学習の内容】 シラバスに沿って事前学習し、理解を深めておくこと。 【留意事項】 毎回シラバスに基づき事前学習し、当日グループワークと発表を行う。授業ごとに出席確認と福岡の授業評価のためにキーワードと感想の提出を求めらる。 【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 全出席を原則とする。15回終了後の期末試験(95%)とグループワーク態度、課題提出等により(5%)、総合的に評価する。フィードバックを希望する学生については、個別に資料を基に説明を行う。				【学習内容(各回の授業予定)】 1. 公衆衛生看護の定義・目的、原則等 2. プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション 3. 地域における保健師活動の歴史(戦前) 4. 地域における保健師活動の歴史(戦後) 5. 公衆衛生看護活動と場の特性(保健所と市町村) 6. 保健師が行う保健指導 7. 社会環境の変化と健康問題(社会情勢の変化) 8. 保健行動と保健活動 9. 公衆衛生看護活動と法律(憲法・保助看法・地域保健法、保健師の役割を含む) 10. 健康相談 11. コミュニティ・アズ・パートナーモデル 12. 健康危機管理 13. 生活環境(公害・環境汚染・地球環境) 14. 国際保健の現状と課題(国際保健・医療・日本の国際交流) 15. 保健師の活動と倫理的問題 【テキスト】 第4版公衆衛生看護学JP インターメディカル 2018年3月 【参考図書】 国民衛生の動向			

授業科目名 公衆衛生看護活動展開論				担当者 目良宣子・福岡悦子・田村裕子・河田恵子・大島珠子			
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	選択科目	配当年次	言語文化: - 生活心理: - 看護: 2年～
【授業概要】 ライフステージや対象の特性に応じた公衆衛生看護活動の方法を学ぶ。また、公衆衛生看護活動の根拠となる法律や制度を踏まえ、公衆衛生看護活動の目的や保健師の役割について学ぶ。 【到達目標】 ・ライフステージや対象の特性と、法律・制度の関連が理解できる。 ・対象に応じた公衆衛生看護活動が理解できる。 ・公衆衛生看護活動の展開方法が理解できる 【予習・復習等準備学習の内容】 「地域の健康と看護」「公衆衛生看護学概論」「保健医療福祉行政論」など、公衆衛生看護学に関する科目について、自己学習しておくこと。 【留意事項】 保健師教育課程の科目である。 【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 授業内に指示した提出物や課題レポート(10%)、期末試験(90%)で総合的に評価する。質問には随時応じる。				【学習内容(各回の授業予定)】 1. 母子保健活動(目良) 16.精神保健活動(目良) 2. 母子保健活動(目良) 17.精神保健活動・事例検討(目良) 3. 母子保健活動(目良) 18.精神保健活動・事例検討(目良) 4. 母子保健活動(目良) 19.難病保健活動(河田) 5. 成人保健活動(大島) 20.難病保健活動(河田) 6. 成人保健活動(大島) 21.難病保健活動・事例検討(河田) 7. 成人保健活動(大島) 22.難病保健活動・事例検討(河田) 8. 高齢者保健活動(河田) 23.障害者児保健活動(目良) 9. 高齢者保健活動(河田) 24.障害者児保健活動(目良) 10. 高齢者保健活動(河田) 25.歯科保健(福岡) 11. 感染症対策(大島) 26.歯科保健(福岡) 12. 感染症対策(大島) 27.産業保健(福岡) 13. 感染症対策(大島) 28.産業保健(福岡) 14. 感染症対策(大島) 29.学校保健(田村) 15. 精神保健活動(目良) 30.学校保健(田村) 【テキスト】 第4版公衆衛生看護学JP インターメディカル 無名の語り 宮本ふみ 医学書院 【参考図書】 国民衛生の動向			

授業科目名 公衆衛生看護学演習Ⅰ(支援技術)				担当者 目良 宣子			
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目	配当年次	言語文化: - 生活心理: - 看護: 3年～
【授業概要】 個人・家族の健康課題に対する公衆衛生看護技術として、健康診査、健康相談、家庭訪問の実際を学ぶ。直接的な支援技術の習得とともに、個人・家族の健康課題を集団や地域全体と影響しあう健康課題としてアセスメントし、地域ケアシステムの構築、社会資源の開発への展開の意義を理解する。				【学習内容(各回の授業予定)】 1. 保健指導の基本 2. 健康相談1 成人保健 3. 健康相談2 成人保健 4. 健康診査1 特定保健指導 5. 健康診査2 母子保健 6. 健康診査3 母子保健 7. 家庭訪問1 家庭訪問とは 対象者の特性、家庭訪問の事前調整 8. 家庭訪問2 支援方法:計測,保健指導 9. 家庭訪問3 計画立案1:事前の情報整理,支援目標,支援内容 10. 家庭訪問4 計画立案2:シナリオ作成 11. 家庭訪問5 ロールプレイ1:グループ別に実施、観察 12. 家庭訪問6 ロールプレイ2:グループ別に実施、評価 13. 家庭訪問7 事後記録,情報整理,アセスメント,継続支援目標の設定 14. 家庭訪問8 母子事例の展開計画 15. 家庭訪問9 母子事例の展開発表			
【到達目標】 ・家庭訪問のプロセスを習得することができる。 ・対象に応じた支援活動を検討できる。 ・公衆衛生看護技術の基本的な知識が習得できる。				【テキスト】 第4版公衆衛生看護学JP インターメディカル			
【予習・復習等準備学習の内容】 「地域の健康と看護」「公衆衛生看護学概論」「公衆衛生看護学活動展開論」など、公衆衛生看護学に関する科目について、復習しておくこと。				【参考図書】 国民衛生の動向			
【留意事項】 保健師教育課程の科目である。							
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 授業内に指示した提出物や課題レポート(20%)及び、グループ演習における態度や技術習得(80%)等総合的に評価する。 質問には随時応じる。							

授業科目名 公衆衛生看護学演習Ⅱ(地区診断・健康教育・管理)				担当者 目良宣子・福岡悦子・河田恵子・大島珠子			
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目	配当年次	言語文化: - 生活心理: - 看護: 3年～
【授業概要】 地域全体を対象として、社会的、歴史的背景と健康課題の関連、また個人・家族、集団、組織及び地域全体で相互に影響しあう健康課題を見極め、その解決に必要な予防活動の計画、実施、評価する地域診断・管理のプロセスの実際を学ぶ。実際に地区踏査を行い、地域診断、計画作成に取り組む。集団、組織全体の健康レベルの向上を目指す公衆衛生看護技術として、健康教育の実際を学ぶ。対象集団の健康に関する情報のアセスメント・管理、健康教育の企画、準備、運営、評価の実践を通して、ハイリスク・アプローチとポピュレーション・アプローチの連動の意義も理解する。				【学習内容(各回の授業予定)】 1. 地域看護診断の理論・方法1 2. 地域看護診断の理論・方法2 3. 地域看護診断の実際1 情報収集 4. 地域看護診断の実際2 アセスメント 5. 地域看護診断の実際3 地区踏査 6. 地域看護診断の実際4 地区踏査 7. 地域看護診断の実際5 インタビュー 8. 地域看護診断の実際6 インタビュー 9. 地域看護診断の実際7 情報分析 10. 地域看護診断の実際8 健康課題の抽出 11. 地域看護診断の実際9 活動目標の設定 12. 地域看護診断の発表 13. 地域看護診断の発表 14. 健康教育の理論と展開1 15. 健康教育の理論と展開2 16. 健康教育計画の立案・計画書の作成1 17. 健康教育計画の立案・計画書の作成2 18. 健康教育指導案の作成1 19. 健康教育指導案の作成2 20. 健康教育シナリオ作成1 21. 健康教育シナリオ作成2 22. 健康教育媒体の作成1 23. 健康教育媒体の作成2 24. 健康教育媒体の作成と練習1 25. 健康教育媒体の作成と練習2 26. 健康教育の発表 27. 健康教育の発表 28. 評価・まとめ・レポート提出 29. 公衆衛生看護管理1 30. 公衆衛生看護管理2			
【到達目標】 1. 既存資料や地区踏査などの資料からヘルスニーズをアセスメントし、健康課題を抽出できる。2. 地域の特性や社会資源について把握する。3. 健康教育の展開過程を理解し実施することができる。4. 健康教育の企画、準備、運営、評価の実践ができる。				【テキスト】 最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論 メヂカルフレンド社 第4版公衆衛生看護学JP インターメディカル			
【予習・復習等準備学習の内容】 「地域の健康と看護」「公衆衛生看護学概論」「公衆衛生看護学活動展開論」など、公衆衛生看護学に関する科目について、復習しておくこと。				【参考図書】 国民衛生の動向			
【留意事項】 保健師教育課程の科目である。							
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 授業内に指示した提出物や課題レポート(20%)及び、グループ演習における態度や技術習得(80%)等総合的に評価する。 質問には随時応じる。							

授業科目名 公衆衛生看護学実習(保健所・市町村)			担当者 目良宣子・福岡悦子・河田恵子・大島珠子		
単位数	3 単位	開講期	前期	区分	選択科目
		配当年次	言語文化: -		生活心理: -
				看護: 4年	
【授業概要】 「保健所・市町村」実習では、保健医療福祉行政の構築、機能及び地域の健康課題に対する対策、行政機関における保健師の専門性および活動技術の実践を学ぶ。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 実習期間:3週間のうち、1週間は保健所、2週間は保健所管内の市町村 2. 実習先: 岡山県内保健所、支所および管内市町村 3.実習内容 保健所・市町村実習 (1)地域看護診断の技法を用いて、地域の健康課題を見出し、実際に取り組まれている予防対策との関連を考察する。 (2)保健事業等に参加し保健師活動を経験する。 (家庭訪問、健康相談、健康診査、健康教育、グループ化・組織支援等) ・計画、実施、評価の展開プロセスを見学・参加する。 ・保健師の保健指導技術を見学する。 (3)行政機関の保健師の専門性について考察し、まとめる。		
【到達目標】 1. 「保健所及び市町村」実習では、市町村行政の持つそれぞれの機能が理解できる。 2. 保健所・市町村の地域特性と健康問題および保健師の役割が理解できる。			【テキスト】 		
【予習・復習等準備学習の内容】 保健所・市町村実習は、3年次の各看護学実習の単位を修得していること。また、4年次の在宅看護実習を履修しておくこと。			【参考図書】 第4版公衆衛生看護学JP インターメディカル 国民衛生の動向		
【留意事項】 実習要項に準ずる。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 出席状況、実習記録、実習態度等により、総合的に評価する。実習評価は評価項目及び評価指標を定め、公平に評価する。質問には随時応じる。					

授業科目名 地区活動実習			担当者 目良 宣子・河田 恵子・大島 珠子		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	選択科目
		配当年次	言語文化: -		生活心理: -
				看護: 4年	
【授業概要】 地域の健康目標の到達を目指した保健活動プロセスを展開し、その意義を考察する。また、保健活動プロセスにおける保健師の専門性を考察する。			【学習内容(各回の授業予定)】 実習期間:2週間 ・3年次前期で学習した平井学区の地域看護診断を参考にする ・前半の1週間で、各グループは地域の健康課題健康教育を企画する。 学生主体で岡山市立東山公民館と各種打ち合わせを実施する。 ・後半の1週間で岡山市立東山公民館の利用者を対象に健康教育を実施する。 終了後は報告会を開催し、結果を共有する。		
【到達目標】 1. 保健活動プロセスを展開することができる。 2. 保健活動プロセスの展開方法の意義を考察することができる。 3. 保健活動プロセスにおける保健師の専門性を述べることができる。			【テキスト】 特になし。		
【予習・復習等準備学習の内容】 3年次の各看護学実習の単位を修得していること。また、4年次の在宅看護実習を履修しておくこと。			【参考図書】 第4版公衆衛生看護学JP インターメディカル 国民衛生の動向		
【留意事項】 実習要項に準ずる。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 出席状況、実習記録、実習態度等により、総合的に評価する。実習評価は、評価項目及び評価指標を定め、公平に評価する。 フィードバックを希望する学生には、説明する時間を設ける。					

授業科目名 地域の健康と看護				担当者 目良 宣子			
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: - 生活心理: - 看護: 1年～
【授業概要】 人々の生活の場としての「地域」の理解とともにそこで生活するあらゆる年代層の個人・家族・集団の健康特性・健康課題と健康レベル別の支援方法を理解し、保健医療福祉資源とネットワーク・施設内看護との連携について学ぶ。				【学習内容(各回の授業予定)】 1. 地域とは、健康とは 2. 地域看護の考え方 3. 地域看護の理念と機能 4. 地域看護の対象と方法 5. 地域看護活動の場 6. 人々の健康課題、健やかな育ち・一生 7. 社会環境の変化と健康課題 8. 公衆衛生看護活動と保健師の役割			
【到達目標】 1. 人々の生活の場としての「地域」を理解する。 2. 人々の健康課題の概要を学ぶ。 3. 保健医療福祉資源とネットワーク・施設内看護との連携について学ぶ。							
【予習・復習等準備学習の内容】 日頃から、新聞、ニュース等に関心を持ち、現在の保健・医療・福祉の課題を理解すること。							
【留意事項】 前期の看護学概論、社会福祉論、環境論、地域貢献等で学んだことを活かせるよう復習をしておくこと。				【テキスト】 最新保健学講座1 公衆衛生看護学概論			
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末試験80%、出席・遅刻・授業態度と課題レポート20% フィードバックを希望する学生には、説明をする時間を設ける。				【参考図書】 国民衛生の動向			

授業科目名 家族看護学				担当者 揚野 裕紀子			
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: - 生活心理: - 看護: 1年～
【授業概要】 看護の対象としての家族に関心を持ち、家族という単位を対象にした家族看護の特徴を理解する。家族看護の定義、目的、ニーズをとらえ、家族の健康と援助課題を導くための家族理論・アセスメントモデルとその活用方法を学習する。さらに家族看護アセスメント、および援助方法の基本を学習する。				【学習内容(各回の授業予定)】 1. 家族看護学とは何か:わが国における家族看護学と定義・目的・評価 2. 看護学における家族の理解:「家族の健康」の概念、家族の形態と機能 3. 家族を理解するための諸理論:家族発達論、家族システム論他 4. 家族看護アセスメント:情報を収集し家族像を形成(家系図、エコマップ等) 5. 家族アセスメントモデルの概要:家族アセスメント・介入モデル他 6. 家族アセスメントモデルによる看護介入(演習) 7. 家族看護における看護者の役割 8. 家族看護学のまとめと今後の課題			
【到達目標】 ①家族看護の意義と役割・機能・アプローチの特徴と家族の健康と援助課題を理解できる。②看護実践の基盤となる家族理論・家族看護モデルと家族看護過程-家族アセスメントと家族支援方法の基本について理解できる。							
【予習・復習等準備学習の内容】 日頃から、新聞、ニュース等に関心を持ち、現代社会の中で起こっている家族問題について理解を深める。							
【留意事項】 授業テーマに関して、新聞や参考書などを調べて来ること。				【テキスト】 鈴木和子他著:家族看護学 理論と実践 第4版 日本看護協会出版			
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 ・期末テスト80%、授業態度等と提出記録物20%、 ・フィードバックを希望する場合には、説明する期間を設ける。				【参考図書】 小林奈美著:家族アセスメント part I 医歯薬出版株式会社			

授業科目名 災害看護学			担当者 澤田 由美 他						
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	選択科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 4年
【授業概要】 自然災害、人為的災害(放射線含む)等、災害に対する知識を深め、災害時の健康危機に備えた看護を理解する。災害が人々の健康や生活に与える影響、被災者の健康問題やこころの問題について学習し、災害サイクルや活動現場、被災者特性に応じた災害看護活動に必要な知識、技術、行動力を習得する。さらに災害周期の変化に対応しながら多職種、地域の人々と連携・協働する必要性を理解する。 【到達目標】 1. 災害発生に備えた心構えと看護の方法を学び、地域全体の備えや、被災地域・被災者に必要な看護を提供するための能力を身に付ける。 2. 災害時の安全なケア環境の提供について理解する。 【予習・復習等準備学習の内容】 災害に関する本などを1冊読んでおくこと。 【留意事項】 ・授業は集中講義とし、日程については後日連絡する。 ・全出席を原則とする。 ・テキスト代、資機材等使用料、消耗品代の自己負担が必要 【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 成績評価の方法は、授業への出席30%、演習態度20%、課題レポート50%総合評価とする。単位認定試験へのフィードバックを希望する学生については、資料を基に個別に説明する期間を設定する。			【学習内容(各回の授業予定)】 1～3. 災害看護概論 ・災害医療の概念、災害の定義と分類、災害の歴史と社会制度 ・災害看護における倫理的課題、災害医療の特徴、被災患者の特徴、救護組織、災害サイクルと看護の特徴・役割 ・災害看護活動の場(救護所、避難所、福祉避難所、仮設住宅、被災した医療施設等)における生活への援助、身体的・精神的健康管理。 ・要配慮者、避難行動要支援者への看護。 ・被災地域の人々、多職種との連携・協働による看護の必要性。 演習・グループワーク・ディスカッション 4～5. 災害救援演習 (特別講師:NPOきゅうめい岡山) 演習 6～8. 心のケア、まとめ ・災害周期の変化に対応しながら多職種、地域の人々との連携・協働の上、安全なケア環境提供を継続する必要性。 ・被災者、救護者のストレスと心のケア。						
【テキスト】 講師作成資料			【参考図書】 災害看護学学習テキスト 南裕子他編 日本看護協会						

授業科目名 国際看護学			担当者 中田 涼子						
単位数	1	開講期	後期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 1年
【授業概要】 講義やグループワークを通して、世界的に発生するさまざまな病気や健康課題を捉え、その解決方法について考える能力を養う。また、国際看護活動の基盤となる考えと方法を理解する。 【到達目標】 客観的に世界の健康課題を捉え、国際看護学を学ぶ意義を理解する。また健康課題解決に向けた理論と方法について理解を深める。 【予習・復習等準備学習の内容】 次回の授業範囲を予習し、理解を深めておく 【留意事項】 特になし 【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 課題レポート及びグループワークの成果物にて評価する。 期末試験(レポート)70% GW10% その他課題レポート20% 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 国際看護・国際保健の概要 2. 国際看護・国際保健活動の場と対象、国際協力の仕組み 3. 世界の健康課題と世界につながる日本の健康問題 4. 日本の国際看護学の歴史 5. 国際看護活動の基盤となる考え方と方法 6. 国際看護活動の実際(青年海外協力隊) 7. 国際看護活動の実践 8. 異文化看護、多文化共生の在り方						
【テキスト】 「国際看護・国際保健」 丸井英二 森口育子 李節子編 弘文堂			【参考図書】 適宜紹介する						

授業科目名 救命救急医療			担当者 桐山 英樹						
単位数	1 単位	開講期	後期	区分	選択科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 4年
【授業概要】 救急医療は患者を診る側面と、社会を見る側面を持ち合わせております。病院内で患者を診る際には医師・看護師・検査技師・放射線技師・薬剤師などの複数の職種でチーム医療を行い、迅速かつ適切な対応が求められます。チーム医療における看護師の役割認識してもらいます。また、社会を見る側面としては、救急医療の抱える問題点、我々の住んでいる岡山における救急医療システムに関してなどを理解していただきます。			【学習内容(各回の授業予定)】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 救急医療の概念と救急医療体制 2. 救急患者の特徴、救急患者への看護体制 3. 救急患者の観察とアセスメント① 4. 救急患者の観察とアセスメント② 5. 救急患者の観察とアセスメント③ 6. 外傷患者へのアセスメント 7. 災害医療 8. まとめ、質問 						
【到達目標】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 救急医療システムが理解できる。 2. 救急患者の特徴が理解できる。 3. 疾患の特徴と基本的処置が理解できる。 4. 災害医療が理解できる。 									
【予習・復習等準備学習の内容】 前回の授業の復習。									
【留意事項】 教科書通りではなく、実践に対応できるための授業を行います。授業に対して質問があれば、積極的に聞きましょう。			【テキスト】 医学書 院『救急看護学』						
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末テスト			【参考図書】 特になし						

授業科目名 看護管理学			担当者 笹谷 孝子・佐々木 雅美						
単位数	1 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 3年～
【授業概要】 有限であるヒト・モノ・カネ・情報を取扱い、看護管理者としてチームや組織作りについて学ぶ。また、それを動かす時に、これらがどのようになっているか、問題は何か、改善策は何か、どのようにすることがより質の高い看護を提供でき、看護の発展につながるかを考える。			【学習内容(各回の授業予定)】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護とマネジメント(笹谷) 2. 看護ケアのマネジメント(笹谷) 3. 看護職のキャリアマネジメント(笹谷) 【グループワークを含む】 4. 看護サービスのマネジメントⅠ(佐々木) 5. 看護サービスのマネジメントⅡ(佐々木) 6. マネジメントに必要な知識と技術(佐々木) 7. 看護を取り巻く諸制度(佐々木) 8. 看護管理学の動向と全般のまとめ(笹谷) 						
【到達目標】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護ケアと看護サービスのマネジメントが理解できる。 2. 看護サービスのマネジメントが理解できる。 3. マネジメントに必要な知識と技術が理解できる。 									
【予習・復習等準備学習の内容】 毎回の授業での学習内容を復習し、理解が不十分な点については次時の授業で質問できるように準備する。									
【留意事項】 総合実習につながるように学習を深める。									
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末試験 80% 小テスト 10% 課題レポート 10%			【テキスト】 系統看護学講座 看護の統合と実践「1」 看護管理 医学書院						
			【参考図書】 中西睦子他編集 看護サービス管理第4版 医学書院 看護管理学習テキスト第2版 第1巻 看護管理概説 日本看護協会出版						

授業科目名 研究方法論				担当者 江口瞳・揚野裕紀子・高木二郎・奥山真由美			
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: 生活心理: 看護:3年～
【授業概要】 看護研究の意義と研究過程の概要を理解し、看護現象を探究するための研究方法論の基礎を学ぶ。また、看護研究における倫理的課題について理解を深め、倫理的配慮に基づく行動規範を身につける。				【学習内容(各回の授業予定)】 1. 看護研究とは、看護研究の意義と目的 (江口) 2. 研究デザイン;質的研究 (江口) 3. 研究デザイン;量的研究 (江口) 4. 文献レビュー;探索とクリティーク (江口、図書館司書) 5. 文献レビュー;リサーチクエスションの明確化 (江口) 6. 研究における倫理的配慮 (江口) 7. 研究方法と研究計画 (江口) 8. 質的研究;データ収集方法 (揚野) 9. 質的研究;データ分析方法 (揚野) 10. 実験研究;データ収集方法 (奥山) 11. 実験研究;データ分析方法 (奥山) 12. 量的研究;データ収集方法 (高木) 13. 量的研究;データ分析方法 (高木) 14. 文献レビューのまとめ;全体発表 (江口、奥山、高木) 15. 研究計画書の完成;全体発表 (江口、奥山、高木)			
【到達目標】 1. 研究デザインの選択と研究方法の概要を説明できる。 2. 文献レビューによる先行研究の探求とクリティークができる。 3. 研究デザインの選択とデータ収集・分析方法の概要を説明できる。 4. 研究計画書の作成ができる。				【テキスト】 坂下玲子・宮芝智子・小野博史(2019). 系統看護学講座 別巻 看護研究, 医学書院. ISBN:978-4-260-02182-1			
【予習・復習等準備学習の内容】 日ごろから健康に関する問題や看護に関する情報に関心をもち、新聞や専門雑誌などを読んでおくこと。				【参考図書】 なし			
【留意事項】 講義の中で関心あるテーマについて文献レビューを行うので、関心のあるテーマを考えておくこと。							
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末試験70%、文献レビューレポート(15%)、研究計画書(15%)により、総合的に評価する。							

授業科目名 看護ゼミナール				担当者 澤田 由美 他			
単位数	2 単位	開講期	通年	区分	必修科目	配当年次	言語文化: - 生活心理: - 看護:4年
【授業概要】 担当教員の専門分野に触れながら、先行研究や演習などを通して学生各自が設定した課題について取り組む。				【学習内容(各回の授業予定)】 1.2. 看護ゼミナールガイダンス・担当教員の決定 3.4. 学生の興味・関心のあるテーマの選択(1)各自又はグループワーク 5.6. 学生の興味・関心のあるテーマの選択(2)各自又はグループワーク 7.8. テーマに関する基本的知識及び情報の整理(1)文献検索・収集 9.10. テーマに関する基本的知識及び情報の整理(2)文献検索・収集 11.12. テーマ別文献学習(1)クリティーク 13.14. テーマ別文献学習(2)クリティーク 15.16. テーマ別文献学習(3)クリティーク 17.18. テーマ別文献学習(4)クリティーク 19.20. プレゼンテーション資料の作成(1)資料作成のポイント 21.22. プレゼンテーション資料の作成(1)資料作成のポイント 23.24. 発表及びディスカッション(1)各自又はグループ単位 25.26. 発表及びディスカッション(1)各自又はグループ単位 27.28. 発表及びディスカッション(1)各自又はグループ単位 29.30. まとめと総評			
【到達目標】 1. 看護専門分野における興味・関心あるテーマへの理解を深める。2. テーマに関する文献を収集し、問題及び課題の整理ができる。3. 大学生に求められる知的判断と学生相互のコミュニケーション能力を高める。				【テキスト】 授業で提示する。			
【予習・復習等準備学習の内容】 平日頃から興味・関心のあるテーマの情報や資料を収集しておくこと。				【参考図書】 授業で提示する。			
【留意事項】 特になし							
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 各課題への取り組み状況、発表及びディスカッションへの参加状況、まとめの内容などから総合的に評価する。 ・発表等終了後に講評を行うとともに、希望する学生については個別に資料等を基に説明を行う。							

授業科目名 卒業研究				担当者 澤田 由美 他			
単位数	2 単位	開講期	通年	区分	必修科目	配当年次	言語文化: - 生活心理: - 看護: 4年
【授業概要】 担当教員の指導により、各自の研究計画に沿って研究を遂行し論文にまとめる。また、講座やゼミ単位で口頭発表を体験する。				【学習内容(各回の授業予定)】 オリエンテーション・担当教員の決定 研究テーマの明確化: 文献検索 ↓ 研究計画書の立案 ↓ 研究の実施: データ収集 ↓ 研究結果の分析と考察 ↓ 論文作成 ↓ 発表準備: パワーポイント作成 ↓ 論文完成 → 提出			
【到達目標】 1. 関心ある研究課題について既存研究を系統的に収集できる。2. 収集した研究論文を理解し、整理・統合できる。3. 自分が取り組む研究課題を明瞭に記述できる。4. 研究を行う上での倫理的な側面を考慮し実施すべき事項を記述できる。5. 論文の書式に則り研究を具体的に記述できる。				【テキスト】 随時提示する			
【予習・復習等準備学習の内容】 研究方法の講義の内容を復習しておくこと。看護に関する興味・関心の高い事柄について考えておくこと。				【参考図書】 随時提示する			
【留意事項】 特になし							
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 授業態度、発表内容、論文により総合的に評価する。 ・発表等終了後に講評を行うとともに、希望する学生については個別に資料等を基に説明を行う。							

授業科目名 総合実習				担当者 澤田 由美 他			
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: - 生活心理: - 看護: 4年
【授業概要】 関心のある看護専門分野において、これまでの看護学領域における実習を踏まえ、看護者として施設の中で役割を認識し実践を理解する。さまざまな健康問題を持つ人々を保健・医療・福祉・教育・地域におけるチーム活動をとおして、総合的な視野で対象者に必要な看護を提供する。さらには総合的な看護実践の能力を養う。				【学習内容(各回の授業予定)】 【実習方法】 これまでの知識・技術を統合し、施設に応じて看護実践に近い状況での実習を行う。			
【到達目標】 1. 看護実践の場において総合的な看護が提供できる。 2. 臨地における看護管理の実際を理解できる。 3. 看護専門職者としての課題を見出す。				【実習内容】 1. 各実習施設において、総合的な看護が提供できる。 2. 実習目標を達成するために、毎日目標を持ち実習を行う。 3. カンファレンスを適宜実施する。			
【予習・復習等準備学習の内容】 ・これまでの講義、演習、実習等での学びを整理し、自己の課題を明確にしておく。 ・事前学習を行い、実習に臨む。				【実習施設】 別途提示する			
【留意事項】 実習要項に示す。				【テキスト】 別途指示する			
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 ・実習態度、看護実践、実習記録、実習課題レポートにより総合的に評価する。				【参考図書】 別途指示する			

授業科目名		看護の統合と実践			担当者			村田 幸治・柳田 元継		
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	必修科目	配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 4年	
【授業概要】 これまでに学習した看護に関する基礎および専門の各領域の知識を基に、看護的ケアの臨床実践に近い状況を想定した事例演習等を通じて、縦割りの看護学の各分野の知識を統合させ、看護実践における総合的な判断力を養うことを目的とする。さらに看護的ケアに関連した医療の卒業時における新しい内容やトピックスなどについても学習する。(旧課程履修者等の履修を認める。)					【学習内容(各回の授業予定)】 1. クリティカルな状況にある患者の観察・アセスメント・ケア(循環器①:心不全) 2. クリティカルな状況にある患者の観察・アセスメント・ケア(循環器②:不整脈と心電図) 3. クリティカルな状況にある患者の観察・アセスメント・ケア(循環器③:先天性心疾患) 4. クリティカルな状況にある患者の観察・アセスメント・ケア(呼吸器①:呼吸機能) 5. クリティカルな状況にある患者の観察・アセスメント・ケア(呼吸器②:呼吸不全とHOT) 6. クリティカルな状況にある患者の観察・アセスメント・ケア(消化器①:イレウス) 7. クリティカルな状況にある患者の観察・アセスメント・ケア(消化器②:肝硬変等) 8. クリティカルな状況にある患者の観察・アセスメント・ケア(神経:脳卒中) 9. クリティカルな状況にある患者の観察・アセスメント・ケア(内分泌:甲状腺・副腎疾患) 10. クリティカルな状況にある患者の観察・アセスメント・ケア(代謝:1型・2型糖尿病) 11. クリティカルな状況にある患者の観察・アセスメント・ケア(腎臓①:急性・慢性腎炎) 12. クリティカルな状況にある患者の観察・アセスメント・ケア(腎臓②:腎不全と透析) 13. クリティカルな状況にある患者の観察・アセスメント・ケア(血液:急性・慢性白血病) 14. クリティカルな状況にある患者の観察・アセスメント・ケア(運動器:骨折・脊髄損傷等) 15. クリティカルケア演習のまとめ					
【到達目標】 看護学の知識と臨床所見・検査データ等を結びつけて看護診断を行うことができる様になると共に、看護的ケアの実践に必要な基本的な解剖生理・病態生理や看護過程等の視点を養う。また、各主要領域のクリティカルな状況における事例等を通じて、アセスメントや看護的ケアに関する知識を習得する。										
【予習・復習等準備学習の内容】 授業と並行して、各自でこれまでに学習した解剖生理学や病態生理学に関する知識の復習を行うこと。また、事前に配布する資料で授業の予習を行い、疑問点を各自で調べておくこと。										
【留意事項】 授業は配布資料(プリント)を中心に演習形式で進める予定。授業回数は、30回程度(2コマ連続×15回程度)を予定している(詳細は後日連絡)。					【テキスト】 ・授業の配布資料(プリント) (毎回、予習用の資料を事前配布するので、授業時に忘れずに持参すること)					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末試験100%で評価する。 期末試験については、特に正答率の低かった問題などについての講評を掲示等により行う。					【参考図書】 ・岡庭豊編集「看護師・看護学生のためのレビューブック 22020」,メディックメディア(2019)					

看 護 学 部
看 護 学 科

(免許・資格等に関する科目)

教職科目

授業科目名 教職論			担当者 北岡 宏章		
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	自由科目
		配当年次	言語文化: 1年～	生活心理: 1年～	看護: 1年～
【授業概要】 教職の意義、専門性、求められる資質について理解を深め、教員の役割や職務内容について認識し、学校の中での経験とともに教師としてのアイデンティティを高め、教員チームの一員として参加することの重要性を身に付ける。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 教職という仕事の固有性 2. 教職の専門性 3. 授業を支える知識と生徒に向き合う力 4. 授業から学べる教師 5. 生徒を育む教師 6. 教育的雰囲気育てる教師 7. 生徒の成長と教師の成長 8. 研修の種類ー自己研修・校内研修・教育センター等の研修・研究団体等の研修ー 9. 授業と校務分掌ー担当授業と並行して学校運営に必要な各校務分掌を遂行することの意味ー 10. 同僚とともに学校をつくる姿勢ー教師が授業を公開しあったら、協議したりしながら、同僚性を深めていく姿勢についてー 11. 保護者や地域社会との関係ーPTAや学校支援地域本部との協力ー 12. 教師としての成長(1)実習体験から新任期 13. 教師としての成長(2)中年期の危機 14. 教師としての成長(3)学校全体を見渡すベテラン教師 15. 時代の中の教師		
【到達目標】 教職の重要性、教職の意義、求められる教員の資質、職務内容等について理解を深め、進路選択に資する教職の在り方を理解する。					
【予習・復習等準備学習の内容】 現代の教育問題に新聞等で日常的に注意すること。投書欄の記事にもできるだけ目を通すこと。					
【留意事項】 教育概論を履修すること。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 授業のリフレクションペーパー、中間レポート、期末試験で総合評価する。			【テキスト】 教育の原理(第3版)林勲編(法律文化社)		
			【参考図書】 教えるということ、大村はま、ちくま学芸文庫 窓ぎわのトットちゃん、黒柳徹子、講談社青い鳥文庫		

授業科目名 教育学概論			担当者 北岡 宏章		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	自由科目
		配当年次	言語文化: 1年～	生活心理: 1年～	看護: 1年～
【授業概要】 教育の目的として掲げられる理念や教育の基礎概念を、代表的思想家たちとの関連で学びつつ、現代の学校課題の中でどのように生かしていくかを理解する。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 教育の目的 2. 教育の基礎概念ー人間性ー 3. 教育の基礎概念ー自然・文化ー 4. 教育の基礎概念ー陶冶可能性・興味・経験ー 5. 子ども観の歴史的流れ(西洋) 6. 子ども観の歴史的流れ(日本) 7. 教育思想の流れーコメニウス・ルソーー 8. 教育思想の流れーペスタロッチー・ヘルバルトー 9. 教育思想の流れーフレーベル・デューイー 10. 日本におけるペスタロッチー・フレーベルの受容 11. 日本におけるヘルバルト・デューイの受容 12. 子ども・教員・家庭・学校の相互関係 13. 現代社会と生活体験の構造的変化 14. 現代社会における家族体験の意味 15. 現代社会と教師像		
【到達目標】 教育の基本概念や教育理念について歴史的背景を踏まえて学ぶとともに現代の学校教育との関わりについて理解する。					
【予習・復習等準備学習の内容】 新聞等マスコミ報道を利用して現代の教育問題について理解しておく。投書欄の記事にもできるだけ目を通すこと。					
【留意事項】 教職論と関係づけること。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 リフレクション・ペーパー、レポート、期末試験で総合評価。			【テキスト】 教育の原理(第3版)林勲編(法律文化社)		
			【参考図書】 日本教育小史、山住正己、岩波新書 教育とは何か、大田堯、岩波新書		

授業科目名 教育・学校心理学			担当者 高橋 功						
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	自由科目	配当年次	言語文化: 1年～	生活心理: 1年～	看護: 1年～
【授業概要】 テキストに沿いながら、学校教育の実践に必要な教育心理学の基礎知識について講義する。			【学習内容(各回の授業予定)】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育心理学とは(テキスト序章) 2. 発達の理論(テキスト1章) 3. 各時期の発達の諸相(テキスト2章) 4. 学習の理論(1):行動主義と認知主義(テキスト3章) 5. 学習の理論(2):社会的構成主義(テキスト3章), 教授と学習(1):実質陶冶の教授-学習過程(テキスト4章) 6. 教授と学習(2):形式陶冶の教授-学習過程(テキスト4章) 7. 動機づけの理論(テキスト5章) 8. 知能と学力(テキスト6章) 9. 教育の評価(テキスト7章) 10. 授業の実践と研究(テキスト8章) 11. 学級集団(テキスト9章) 12. パーソナリティの問題と生徒理解(テキスト10章) 13. 問題行動と教育相談(テキスト11章) 14. 障害児の心理と教育(テキスト12章) 15. 教育実践の記述(テキスト13,14章) 						
【到達目標】 教育心理学の基礎知識を修得し、それを踏まえて、種々の教育実践を理解している。									
【予習・復習等準備学習の内容】 Moodle上で課題を提示する。									
【留意事項】 Moodleを使用するので、必ず該当コースに自己登録すること。アクセス方法とパスワードは初回の授業で伝える。			【テキスト】 田中智志・橋本美保(監修)・遠藤 司(編著)『新・教育課程シリーズ第4巻 教育心理学』一藝社						
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末試験60%, 受講態度10%, 課題提出30%を評価材料とする。6回以上の欠席者は素点に関わらずF評価とする。期末試験未受験者は素点に関わらずG評価とする。期末試験終了後は、Moodle上で解答を公表する。			【参考図書】 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領 ブルーアー,J.T.『授業が変わる』北大路書房 佐藤秀夫『ノートや鉛筆が学校を変えた』平凡社						

授業科目名 教育行政論			担当者 金川 舞貴子						
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	自由科目	配当年次	言語文化: 2年～	生活心理: 2年～	看護: 2年～
【授業概要】 学校現場で行われる教師の一つ一つの教育行為は、各教師の教育思想や哲学に基づくと同時に、社会的な制度の枠内で展開されるものである。本講義では、近代の公教育制度の成り立ちを押さえた上で、学校教育制度を支える教育法規、教育行政の原理原則および機能について理解を深めていく。さらに、近年の学校組織をめぐる諸課題や諸政策について背景を理解し、学校や教師の社会的意義を検討すると共に、学校組織の一員としての自らの役割について考えを深めていくことを目的とする。			【学習内容(各回の授業予定)】 <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション:講義概要、評価方法の説明、教育行政とは何か(演習) 2. 近代公教育制度①～近代公教育の起こり～ 3. 近代公教育制度②～近代公教育の原理～ 4. 児童生徒の就学と管理 5. 教育法規 6. 教育行政を掌る機関①～戦後の教育行政の原理原則 7. 教育行政を掌る機関②～国と地方の教育行政 8. 教育委員会の役割と課題 9. 教職員の人事管理 10. 教師の成長と研修 11. 学校組織マネジメント 12. 学校改善と学校評価 13. 学校と家庭、地域の連携をめぐる教育施策 14. 学校と家庭、地域の連携の実践と課題 15. 今日の教育改革動向と展望 						
【到達目標】 ①公教育の原理原則を理解し、学校教育・教育行政に関する基礎的知識を習得する。②上記に関する法規について理解しリーガルマインドを身に付ける。③わが国の教育改革の動向や課題を多角的に分析し、自分の考えを論理的に展開できる。									
【予習・復習等準備学習の内容】 ・新出ワードを自分で調べたり、関連する文献を読む等、毎時間の復習をすること。・文部科学省や教育委員会のHPをみたり新聞を読む等、教育に関するニュースに関心をもち自分で調べること。・配布された資料はすべて期中に読むこと。									
【留意事項】 特になし			【テキスト】 諏訪英広・福本昌之編著『教育制度と教育の経営』あいり出版、2011年。 『必携教職六法』協同出版、2016年(予定)。						
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 試験70%、授業中の討議への参加・提出物30%			【参考図書】 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領 随時紹介						

授業科目名 道徳教育論			担当者 國吉 久美子		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	自由科目
		配当年次	言語文化: 2年～	生活心理: 2年～	看護: 2年～
【授業概要】 道徳の本質、道徳教育の今日的意義と役割、歴史と現状、道徳科の目標と内容、さらに、道徳教育の指導方法や内容等を学ぶ。また、多様な授業例の検討、教材研究、学習指導案の作成、模擬授業を通して実践的な指導力を身につけると共に、今後の道徳教育の在り方を主体的に考えていく。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 道徳の本質と子どもの道徳性の発達 2. 道徳教育の今日的意義と歴史 3. 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育 4. 道徳教育の目標と内容 5. 道徳科の目標と内容 6. 学校における道徳教育の具体例 7. 道徳科の指導(1)指導計画の在り方 8. 道徳科の指導(2)教材研究の方法 9. 道徳科の指導(3)多様な指導方法と評価の在り方 10. 学習指導案の書き方 11. 教材及び学習指導案の検討 12. 授業のねらいと指導過程を明確にした学習指導案の作成 13. 模擬授業 14. 模擬授業の振り返りと学習指導案の改善 15. 定期試験		
【到達目標】 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容を理解する。また、教材研究、学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身につけ、自分なりの道徳教育の構想とその具体案を示すことができる。			【テキスト】 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 (平成29年7月、文部科学省) 中学校道徳教科書「新しい道徳3」(東京書籍)		
【予習・復習等準備学習の内容】 次回の学習範囲を予習し、理解を深めておくこと。小テストやレポート、学習指導案の作成及び模擬授業の準備等の課題に真摯に取り組み、期限を守る。			【参考図書】 授業中に適宜紹介する。		
【留意事項】 日頃から、道徳教育に関する事柄に関心を持ち、紹介する参考図書や参考URL、新聞やTV等に目を通しておくこと。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 授業への取り組み度 10% 定期試験 40% 学習指導案の作成及び模擬授業 30% 小テスト及びレポート 20% 試験の不合格者については、再試験の前に、類似の課題等を与える。					

授業科目名 特別活動論			担当者 小谷 彰吾		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	自由科目
		配当年次	言語文化: 2年～	生活心理: 2年～	看護: 2年～
【授業概要】 特別活動の目標や内容を学習指導要領によって明らかにし、その意義や指導原理について理解を促す。さらに教師として身につけておくべき実践的指導力の育成にむけ、授業研究、キャリア教育の模擬体験、評価演習等を実施する。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. 特別活動の目標・意義 2. 特別活動の変遷 3. 教育課程と特別活動 4. 学級活動 5. 生徒会活動・クラブ活動 6. 学校行事 7. 特別活動と生徒指導 8. 特別活動と人間形成・体験学習 9. 特別活動と教師力・学校力 10. 特別活動と各教科・特別の教科 道徳・総合的な学習 11. 特別活動とキャリア教育・character education 12. 特別活動に求められる新しい実践(食育・伝統文化) 13. 特別活動の学習指導案① 14. 特別活動の学習指導案② 15. 年間指導計画と評価		
【到達目標】 響きあう教育課程、価値ある感動体験、集団の中で折り合いをつける指導を実践例や学生自身の経験をもとに追求し、指導計画、学習指導案が作成できるようになる。			【テキスト】 文部科学省「中学校学習指導要領解説 特別活動編」 文部科学省「小校学習指導要領解説 特別活動編」		
【予習・復習等準備学習の内容】 学習課題に応じて、授業内で参考文献を紹介するので、各自で学習を深め、さらなる課題を追求する。			【参考図書】 特になし。		
【留意事項】 実践例や学生自身の経験をもとに学生間でのディスカッションを中心に授業を展開する。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 ①指導計画、または、学習指導案を含む課題レポートによって評価する。50% ②ディスカッションへの参加など意欲態度によって評価する。50%					

授業科目名 教育方法論			担当者 海本 友子		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	自由科目
		配当年次	言語文化: 2年～	生活心理: 2年～	看護: 2年～
【授業概要】 可能なかぎり受講者参加型の講義の工夫をしながら、中学校・高等学校の生徒の実態や教育の課題等について考え、望ましい教育課程の編成と教育方法を追究していく。			【学習内容(各回の授業予定)】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程の意義と編成の目的・方法、学習指導要領の位置づけ 2. 教育課程に関する関係法規、カリキュラム・マネジメントの意義と評価 3. 教育課程編成の実際・諸問題と指導計画の検討 4. 社会の変化と新しい学校経営、教育課程・教育方法のあり方 5. 学習指導要領改定の歴史(戦後の試案から経済成長期まで) 6. 学習指導要領改定の歴史(ゆとり教育から平成20年まで) 7. 教育思想・方法の歴史的概観(近代まで) 8. 教育思想・方法の歴史的概観(近代) 9. 教育思想・方法の歴史的概観(現代) 10. 教育の基本原則・方法の日本における展開(1)系統的学習と問題解決学習 11. 教育の基本原則・方法の日本における展開(2)新しい学力観と生きる力 12. 授業と学力(1) 授業とは何か(授業構成、話法・板書等の基礎的技術) 13. 授業と学力(2) 学力とは何か(学習形態、学習評価、評価基準等の理解) 14. 視聴覚メディアと情報機器の活用能力の育成と教材の作成 15. 教育全体計画(学校具体的事例による)とまとめ 		
【到達目標】 学習指導要領を基に学校における教育課程の意義及び編成の方法を理解し、教育課程を理論的実践的な面から検討・考察する。教育目標を実現するために教師として必要な教育方法・教育技術及び教材の活用に関する知識・技術を身につける。			【テキスト】 よくわかる教育学原論 安彦忠彦、児島邦宏、藤井千春、田中博之編著(ミネルヴァ書房) 中学校学習指導要領(最新版)、高等学校学習指導要領(最新版)		
【予習・復習等準備学習の内容】 テキストを事前に読む。新聞・雑誌で関連事項を調べる。			【参考図書】 教育方法学 佐藤学 岩波書店		
【留意事項】 教育の基礎理解に関する科目ではあるが、現在進行中の教育問題、教育現場との関連で学んでいけるようにする。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 授業への取り組み、課題、レポート、定期試験などをもとに総合的に評価する。					

授業科目名 生徒指導論(進路指導を含む)			担当者 海本 友子・山本 公子		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	自由科目
		配当年次	言語文化: 3年～	生活心理: 3年～	看護: 3年～
【授業概要】 日本社会の変化の中で、教師はいじめや将来の人生目標などの問題にどう対応し、生徒の人的成長をいかに援助することができるかを、ケーススタディを交えながら受講生とともに考えてみたい。また、生涯学習・キャリア教育からの視点を大切にしていこう。			【学習内容(各回の授業予定)】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒指導の今日的意義と課題(海本) 2. 戦後の生徒指導の歴史(海本) 3. 青年期の発達課題と問題の多様化(海本) 4. 教育課程と生徒指導(海本) 5. 学校における生徒指導体制(海本) 6. 危機管理と生徒指導、生徒指導に関する法制度など(海本) 7. 学校と家庭・地域・関連機関との連携(海本) 8. 個別の課題を抱える生徒への指導Ⅰ(問題行動の発見と効果的な指導)(海本) 9. 個別の課題を抱える生徒への指導Ⅱ(発達、非行、いじめ、不登校などへの対応)(海本) 10. 特別活動の指導と学校行事ー規範意識、心の豊かさとの関連(海本) 11. 校外活動とボランティア精神の育成(社会の形成者としての資質の涵養)(海本) 12. キャリア教育の意義と課題(キャリアの理解、社会的・職業的自立に必要な諸能力)(山本) 13. キャリア教育の意義と進路指導(中学・高校の発達段階とキャリア教育)(山本) 14. キャリア教育の実践(適性をふまえたキャリアガイダンス&カウンセリング)(山本) 15. 課題演習によるまとめ(海本) 		
【到達目標】 日本の社会的変容や学校・地域社会等の変化に広い視野をもって教育について考察する。キャリア教育の基本を理解して、社会人になるための力と自己肯定感を高める。			【テキスト】 「生徒指導提要」文部科学省 「中学校学習指導要領」、「高等学校学習指導要領」文部科学省、解説書(最新版)		
【予習・復習等準備学習の内容】 テキストを事前に読む。新聞・雑誌で関連事項を調べる。			【参考図書】 「生徒指導の新しい視座」ぎょうせい、「新訂キャリア教育入門」実業の日本社		
【留意事項】 キャリア教育を意識した生徒指導の視点を持ち生涯学習に繋がることを考えた生徒指導が出来る教師を育てる。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 授業への取り組み、課題、レポートなどをもとに総合的に評価する。					

授業科目名 教育相談(カウンセリングを含む)			担当者 上地 玲子		
単位数	2 単位	開講期	前期	区分	自由科目
		配当年次	言語文化: 2年～	生活心理: 2年～	看護: 2年～
【授業概要】 教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。 幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む)を身に付ける。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. オリエンテーション 教育相談とは 2. 教師の行うカウンセリング 3. 子どもの心理的状態のアセスメント 4. カウンセリングスキルを使った子どもへのかかわり方 5. 受容・傾聴・共感的理解を取り入れた指導方法 6. まとまりのある学級運営 7. ソーシャルスキル教育 8. 教育相談の計画と活動 9. 学級崩壊のとらえ方・対応方法 10. いじめのとらえ方・対応方法 11. 不登校のとらえ方・対応方法 12. カウンセリング技法を用いた保護者への対応方法 13. 体罰について 14. 問題行動のとらえ方・対応方法 15. 教員のメンタルヘルス		
【到達目標】 ①学校における教育相談の意義と理論を理解する。②教育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的事柄を含む)を理解する。③教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。			【テキスト】 「学級教育相談 入門」 今村久春 金子書房		
【予習・復習等準備学習の内容】 テキストを読み、わからない用語などを事前に調べてノートしておくこと。			【参考図書】 特になし		
【留意事項】 現場経験豊富な専門職による講義が入る場合は、シラバスの順序が変更になる。					
【成績評価の方法・基準、並びに単位認定試験(レポート等含む)へのフィードバックの方法】 期末試験70%、授業ごとに課すミニレポート・授業態度30%により評価する。 試験結果フィードバックを希望する学生については、個別に資料を基に説明を行う。					

授業科目名 養護実習			担当者 田村 裕子		
単位数	5 単位	開講期	前期	区分	自由科目
		配当年次	言語文化: —	生活心理: —	看護: 4年
【授業概要】 実習校の養護教諭の指導を受けつつ、学校の教育・養護活動の見学やそれへの参加をとおして、保健室運営、保健指導、児童・生徒への健康相談活動、救急処置他実習体験から、養護教諭の役割の重要性を理解する。			【学習内容(各回の授業予定)】 1) 事前学習: 諸注意、実習上の心構え、服務、実習の具体的内容など 2) 下記の項目を参考に、実習校の状況や時期に応じた実習計画を立案する 学校教育と学校保健の理解 児童生徒の理解のための教育活動 児童生徒の健康実態把握のための活動 心身の健康や生活に問題を持つ児童生徒の保健指導 健康相談活動の理解と実践 救急処置に対する理解 学校環境衛生活動に対する理解 組織活動の理解 保健室経営 学校保健事務の実践 3) まとめ 実習校の養護教諭参加のもと、反省会を持ち、助言・指導を受ける。 なお、養護実習には事前指導および事後指導を含む		
【到達目標】 ・学校教育の組織や教職員の職務内容や活動の在り方を理解する。・学校保健活動の実践を学ぶ。・養護活動の体験を通して、養護教諭の職務及び役割や教育実践について理解する。			【テキスト】 なし		
【予習・復習等準備学習の内容】 学校保健、養護概説、教職関連科目の復習			【参考図書】 学校保健実務必携 編著者: 学校保健・安全実務研究会(第一法規) 最新版 学習指導要領(文部科学省)他学校保健、養護概説で使用した教科書等		
【留意事項】 養護実習日誌を持参のこと。実習校の指示に従う。					
【成績評価の方法・基準】 実習態度、記録物、保健指導、子どもの理解・対応、学校保健の理解などについて実習校の養護教諭が評価したものと、事前・事後の発表状況及び内容より総合的に評価する。 ・発表終了時に講評を行うとともに、希望する学生については個別に資料等を基に説明を行う。					

授業科目名 教職実践演習(養護)			担当者 田村 裕子		
単位数	2 単位	開講期	後期	区分	自由科目
		配当年次	言語文化: -	生活心理: -	看護: 4年
【授業概要】 これまでの学修を振り返り自分の課題や疑問などについての問題意識を高めながら、意欲的に授業が行われるよう、演習を中心に行う。養護教諭としての資質・能力の向上のため、現職の教員などを講師とした授業を含める。教員として、また、養護教諭としての最小限必要な知識技能を習得したことを確認し、不足を補ったり、より高めたり深めたりしていく。			【学習内容(各回の授業予定)】 1. イントロダクション・これまでの学修のふりかえりと自己開発のワークシート 2. 前回の授業のワークシートをもとに自分の課題をもって、グループ討論、発表 3. 教職への使命感・責任感、役割、職務内容等課題別にグループ討論をし、全体討議 4. 社会性や対人関係能力についての講義、自分の課題と問題意識の明確化 5. 組織の一員として、また保護者や地域との人間関係の構築についてロールプレイング 6. 児童生徒の現代的な健康問題についての討議および保健室経営計画作成 7. 前回の授業の保健室経営案をもとにグループ討議 8. 学校現場の見学・調査 9. 児童生徒理解・保健室経営・学校組織についてのレポート作成 10. 組織の一員としてや保護者や地域との連携について【講話】 11. 問題行動への対応(不登校・発達障害等)【講話、事例研究】 12. 個別および集団に対する保健指導についての講義・全体討議、指導案作成 13. 模擬授業(個別の保健指導)【講話】 14. 模擬授業(集団の保健指導)【講話】 15. 保健指導についてのグループ討議、まとめ		
【到達目標】 ①使命感や責任感、教育的愛情などが備わる。②社会性や対人関係能力を身につけることができる。③児童生徒理解や保健室経営などについて理解することができる。④養護教諭としての指導力をつける。					
【予習・復習等準備学習の内容】 養護に関する科目、教職に関する科目の復習および養護実習に関する振り返りを十分にしておくこと。					
【留意事項】 特になし					
【成績評価の方法・基準】 使命感や責任感、教育的愛情が十分に備わっているか。社会性や対人能力が十分に培われているか。生徒理解や学級経営に関しての能力が十分に育っているか。教科の指導力が十分あるか。これらを踏まえ、演習に取り組む姿勢とレポートをもって総合的に評価する。・レポート課題については、必要とされる記載事項などについての講評を授業時に行う。・発表終了時に講評を行うとともに、希望する学生については個別に資料等を基に説明を行う。			【テキスト】 学校保健、養護概説で使用した教科書		
			【参考図書】 小学校・中学校・高等学校の学習指導要領・解説書		

実務経験のある本務教員ならびに担当授業科目一覧

看護学科

科目担当者	授業に係る実務経験など	担当授業科目	科目区分	単位数	実践的教育の概要
揚野 裕紀子	精神科病院 看護師、病棟 師長、臨床実習指導者	精神看護学概論	専門	1	精神看護学における基礎的知識として、学生が人々のこころの健康に関する諸問題を広い視点から理解出来るようにグループワークを取り入れながら教授している。
		精神看護学援助論	専門	2	精神疾患に対して理解を深め、精神疾患患者とその家族への支援に必要な看護援助などの具体的な介入方法について教授する。
		看護ゼミナール	専門	2	学生が関心あるテーマについて精神疾患や自己理解等、先行研究や演習等を通して、各学生が設定した課題について取り組む。
		卒業研究	専門	2	学生が関心あるテーマについて先行研究や演習等を通して、各学生が設定した課題に研究的に取り組む、研究計画書に沿って論文にまとめる。
		(※2) 総合実習	専門	2	精神科病院に関心ある学生に対して、看護学生として最後の実習であるため、施設の中での看護者としての役割を認識しつつ総合的な視野で対象を理解し看護の提供をする。
江口 瞳	病院勤務(看護師)	看護学概論	専門	1	看護の定義、健康の概念、保健・医療・福祉のシステム、対象理解、看護の方法論、看護の歴史、看護理論などをもとに、教授する。
		基礎看護技術 I	専門	2	看護の対象となる人々の健康状態を把握し、対象者が療養生活を安全で安楽に過ごすことができるよう支援するための基礎的な看護技術を講義・演習を通して教授する。
		基礎看護技術 II	専門	2	健康障害がある人々に対して、健康回復に向けて行われる診療の補助行為に関わる基礎的な看護技術を教授する。
		基礎看護技術 III	専門	1	人々の健康に関わる個別の問題を解決するための系統的技法として、「看護過程」の展開の基本的な考え方を教授する。
		(※2) 基礎看護学実習 I	専門	1	看護の対象となる人々が療養生活を送る療養環境と看護におけるコミュニケーションの機能を理解できるよう教授する。
		(※2) 基礎看護学実習 II	専門	2	対象者の個別性に応じた看護を実践するために必要な看護過程の基礎的なことを教授する。
		看護ゼミナール	専門	2	看護研究の基礎について論文指導を通じて教授する。
		卒業研究	専門	2	看護研究の基礎について論文指導を通じて教授する。
		(※2) 総合実習	専門	2	臨床看護経験と看護教育経験で培ってきた臨床看護技術の基礎を教授する。
奥山真由美	病院勤務(看護師)	老年看護学概論	専門	1	高齢者を対象とした看護の経験を活かし、講義を行う。
		老年看護学援助論	専門	2	高齢者を対象とした看護の経験を活かし、講義・演習を行う。
		(※2) 老年看護学実習	専門	4	高齢者を対象とした看護の経験を活かし、実際に高齢者を対象とした看護を行う。
		看護ゼミナール	専門	2	看護実践の経験を活かし、卒業研究指導を行う。
		卒業研究	専門	2	看護実践の経験を活かし、卒業研究指導を行う。
		(※2) 総合実習	専門	2	看護実践の経験を活かし、実習指導を行う。

澤田 由美	総合病院 看護師として勤務	精神看護学概論	専門	1	精神看護学における基礎知識として必要とされる諸知識-人間のこころの健康に関する諸問題、社会資源、コミュニケーションスキルについて、多角的に理解出来るようアクティブラーニングを取り入れながら教授している。
		精神看護学援助論	専門	2	精神的な問題を抱えている患者及び家族の支援に必要な看護実践スキルについて教授している。
		(※2) 精神看護学実習	専門	2	精神科病院において、学生の臨地実習の指導を行う。 臨地実習指導者の研修・研究サポートを行い、臨床との協働・実習環境の向上を行う。
		看護ゼミナール	専門	2	看護師としての臨床経験を生かし、学生の関心のある研究課題についての研究的な思考を教授、卒業研究を指導している。
		卒業研究	専門	2	看護師としての臨床経験を生かし、学生の関心のある研究課題についての研究的な思考を教授、卒業研究を指導している。
		(※2) 総合実習	専門	2	精神科病院において、学生の臨地実習の指導を行う。 臨地実習指導者の研修・研究サポートを行い、臨床との協働・実習環境の向上を行う。
田村 裕子	公立学校勤務(養護教諭)	健康相談活動論	専門	2	理論・技法等の講義後、ロールプレイング及びディスカッションを行う。
		看護ゼミナール	専門	2	研究課題や文献等について、討議や発表をさせる。
		卒業研究	専門	2	各自の研究課題について研究し、論文を作成させる。
		教職実践演習(養護)	免許・資格	2	模擬授業やロールプレイングを実施し、ディスカッションを行う。
		(※2) 養護実習	免許・資格	5	実習校での見学や体験により、養護活動を理解させる。
人見 裕江	岡山赤十字病院、御津町立金川病院、家庭奉仕員、NPO法人在宅ケア事業所	在宅看護学概論	専門	1	住み慣れた地域地域ケアシステムにおける病院から在宅への医療と介護のシームレスな継続的支援における在宅看護の役割について考える機会を持つ。
		在宅看護学援助論	専門	2	在宅療養における療養者や家族の力量をアセスメントするために、ICFモデルにおける環境因子と個人因子がどのように生活機能へ影響を及ぼすのか、その人の人生の意味や生きがいに関心を当てることで、療養者や家族の持てる力をいかに向上させることができるかを考えることの意義について考える機会をもつ。
		(※2) 在宅看護学実習	専門	2	訪問看護ステーションにおける実習3日×2＝6日と、地域医療連携室1日と地域密着型通所介護事業所1日の実習を計画し、本人や家族の地域生活を支援するとともに、地域包括ケアシステムにおける多職種連携の意義を考えることができるように組み立てた。
福岡 悦子	大企業社員の健康管理全般を担当(岡山県下全体)	産業保健	専門	1	産業保健の目的、産業看護職の基本等について教示
		公衆衛生看護学概論	専門	1	保健師課程の選択希望学生に公衆衛生看護学の基本、憲法第25条を始め各種法律も踏まえて全体的に教示
		(※2) 公衆衛生看護学実習	専門	3	地域診断等から抽出された健康課題に対する健康教育等を含む実習指導
		(※2) 地区活動実習	専門	2	本学周辺の地域踏査を行い、インタビュー等を行う
		看護ゼミナール	専門	2	産業保健及び大学での経験を生かした看護に関する研究指導
		卒業研究	専門	2	産業保健及び大学での経験を生かした看護に関する研究指導
目良 宣子	市町村行政保健師	公衆衛生看護学活動展開論	専門	2	母子保健、高齢者保健等で複合的な課題を持つ事例検討を実施。
		公衆衛生看護学演習 I	専門	2	保健師活動のための実践技術の教示。

		公衆衛生看護学演習Ⅱ	専門	2	保健師活動のための支援技術の教示。	
	(※2)	公衆衛生看護学実習	専門	3	地域診断を実施し、地域の健康課題を抽出し、実習に臨む。	
	(※2)	地区活動実習	専門	2	地域のフィールドワーク、地区踏査、インタビュー等。	
		地域の健康と看護	専門	1	ひきこもり支援システムを紹介し、個別事例検討を実施。	
		市町村行政保健師 この間ボランティアとして、県内の子育て支援ネットワークの支部世話人、障害児通園事業立ち上げと運営委員を経験	看護ゼミナール	専門	2	ひきこもり家族会の運営・調整など実践的に学ぶ。(家族会の立ち上げに教員が関わっている)
		市町村行政保健師	卒業研究	専門	2	地域で生活している子どもから高齢者まで対象を幅広く対応する。文献検討、量的・質的研究など
	(※2)	総合実習	専門	2	地域包括支援センターにおいて、高齢者の地域生活を支援する社会資源の活用や関係機関の連携、ケアネットワークの構築について実践的に学ぶ	
渡邊都貴子		病院勤務(感染制御部)、感染管理認定看護師	感染看護学	専門	1	感染症のパンデミック、新興・再興感染症の問題、多剤耐性菌の蔓延など、医療を取り巻く感染症の問題に対応するため、エビデンスに基づく感染防止技術について教授する。講義、演習。
		病院勤務(看護師、看護師長)	成人看護学概論	専門	1	成人期にある人々とその家族を生活者としてとらえ、ライフサイクルにおける成長・発達・健康のレベルに応じた健康問題と看護について教授。
			成人看護学援助論Ⅱ	専門	1	周術期にある患者の全人的ケアのについて講義、演習、実習。
			成人看護学援助論Ⅲ	専門	2	回復期及び終末期にある成人及び家族への看護について教授する。(講義、演習、実習)
		病院勤務(看護師・看護師長・感染管理) (※2)	成人看護学実習Ⅱ(急性期)	専門	2	周手術期にある患者を全人的医に捉え、患者・家族が置かれている状況と看護の役割を理解し、周術期にある人に必要な看護実践ができる基礎能力を修得できるよう教授する。
	(※2)		成人看護学実習Ⅲ(緩和ケア)	専門	1	患者と家族の全人的な苦痛を理解するとともに、その苦痛をできる限り緩和し、患者・家族の意思決定への支援をするための基礎的要録が習得できるよう教授する。
		病院勤務(看護師)	看護ゼミナール	専門	2	研究経過に沿って研究を遂行し、論文にまとめることができるよう教授する。ゼミにおいてゼミ生同士の討論により、学術的な知見を深めることができるよう指導する。
			卒業研究	専門	2	研究経過に沿って研究を遂行し、論文にまとめることができるよう教授する。ゼミにおいてゼミ生同士の討論により、学術的な知見を深めることができるよう指導する。
	(※2)	総合実習	専門	2	様々な健康問題を持つ人々を、保健・医療・福祉・教育・地域におけるチーム活動を通して総合的な視点からとらえ看護実践ができるよう基礎的な能力を養えるよう教授する。	
今村 恭子		病院勤務	成人看護学実習Ⅰ(慢性期)	専門	3	病院に入院している慢性疾患を有する対象者を受け持ち、対象やその家族に対する看護実践について、臨地実習形態で指導を行う。
			看護ゼミナール	専門	2	急性期医療、療養生活継続に関するケア、災害看護に関連するテーマについて、論文検索から研究方法、論文作成までを指導する。
			卒業研究	専門	2	急性期医療、療養生活継続に関するケア、災害看護に関連するテーマについて、論文検索から研究方法、論文作成までを指導する。
	(※2)	総合実習	専門	2	急性医療を提供する病院のチーム医療の実際、複数の患者を受け持つ状況での看護実践、学生が設定した実習テーマなど自主的な実習での学習を指導する。	

中木 里実	病院勤務(看護師)	成人看護学援助論Ⅱ	専門	1	急性の生命危機状態にある患者の特性と基本的ケアについて学修する。
		成人看護学援助論Ⅲ	専門	2	回復期および終末期にある成人及び家族への看護について学修する。
		(※2) 成人看護学実習Ⅱ(急性期)	専門	2	臨地において、周手術期にある患者を受け持ち必要な看護実践をする能力を習得する。
		(※2) 成人看護学実習Ⅲ(緩和ケア)	専門	1	全人的苦痛を理解するとともに、できる限り緩和するための看護を実践する基礎的能力を養う。
		看護ゼミナール	専門	2	各自の研究計画に沿って研究を遂行し論文にまとめる。
		卒業研究	専門	2	各自の研究計画に沿って研究を遂行し論文にまとめる。
		(※2) 総合実習	専門	2	臨地において、これまでの領域実習をふまえて看護者としての役割を認識し、総合的な看護実践の能力を養う。
林 由佳	病院勤務(看護師)	感染看護学	専門	1	感染予防・感染対策に関する看護
		成人看護学援助論Ⅱ	専門	1	急性期患者および手術を受ける患者の看護
		成人看護学援助論Ⅲ	専門	2	回復期、終末期患者、緩和ケアを受ける患者の看護
		(※2) 成人看護学実習Ⅱ(急性期)	専門	2	手術を受ける患者の看護についての臨地実習
		(※2) 成人看護学実習Ⅲ(緩和ケア)	専門	1	緩和ケアを受ける患者に関する臨地実習
		看護ゼミナール	専門	2	看護に関する課題演習
		卒業研究	専門	2	看護に関する研究指導
		(※2) 総合実習	専門	2	総合的な看護の実習
久我原朋子	病院勤務(看護師、助産師)	基礎看護技術Ⅰ	専門	2	看護の対象となる人々の療養生活を支援する基礎となる看護技術
		基礎看護技術Ⅱ	専門	2	健康障害のある人々に対して実施される診療の補助行為に関わる基礎看護技術
		(※2) 基礎看護学実習Ⅰ	専門	1	看護の対象となる療養生活を送る療養環境を学ぶ
		(※2) 基礎看護学実習Ⅱ	専門	2	健康障害がある対象者の療養生活に応じた看護実践にむけた看護過程の基礎を学ぶ
		看護ゼミナール	専門	2	関心のあるテーマについて文献を収集し、理解、整理する力や、問題解決能力を養成する。
		卒業研究	専門	2	関心のある研究課題について先行研究を調べ、整理、統合し、論文としてまとめる力を養い、研究に関する倫理的配慮について学びを深める。
		(※2) 総合実習	専門	2	実習を通じて、臨床現場の管理者の役割と保健・医療・福祉・教育・地域のチーム看護について学び、総合的な視野を醸成させる。
浅原 佳紀	精神科病棟勤務(看護師)	精神看護学援助論	専門	2	精神科臨床、および精神看護専門看護師としての経験を生かし、精神症状を持つ人への看護や精神科における看護過程の展開について授業を行う。
		(※2) 精神看護学実習	専門	2	精神科臨床、および精神看護専門看護師としての経験を生かし、精神科における学生の臨地実習の指導を行う。
		看護ゼミナール	専門	2	精神科臨床、および精神看護専門看護師としての経験を生かし、精神看護領域において学生が関心のある研究課題に取り組みせ論文を完成させる。
		卒業研究	専門	2	精神科臨床、および精神看護専門看護師としての経験を生かし、精神看護領域において学生が関心のある研究課題に取り組みせ論文を完成させる。
		(※2) 総合実習	専門	2	精神科臨床、および精神看護専門看護師としての経験を生かし、精神科における学生の臨地実習の指導を行う。

2019(平成31)年度 看護学部 シラバス(授業概要) 別添

田中 愛子	病院勤務(看護師) (※2) (※2)	老年看護学援助論	専門	2	高齢者を対象とした看護の経験を活かし、講義・演習を行う。
		老年看護学実習	専門	4	高齢者を対象とした看護の経験を活かし、実際に高齢者を対象とした看護を行う。
		看護ゼミナール	専門	2	病棟での看護と研究の経験を活かし、関心のあるテーマについての疑問を解決できるよう援助する。
		卒業研究	専門	2	病棟での看護と研究の経験を活かし、関心のあるテーマについての疑問を解決できるよう援助する。
		総合実習	専門	2	病棟勤務の経験を活かし、実習目的を達成するための援助を行う。
上地 玲子	心理判定員、相談員、指導員	臨床コミュニケーション	専門	1	精神科・保健所における患者(利用者)との臨牀的なかわり方
		健康・医療心理学	専門	2	様々な精神疾患の特徴とその治療方法について
	スクールカウンセラー	教育相談	免許・資格	2	児童・生徒・保護者との相談、教職員・関係機関連携等

※1 オムニバス等、多様な企業等から講師を招いて指導を行う授業

※2 学外でのインターンシップや実習、研修を中心とした授業

※3 実務経験のある教員や企業の協力を得て、実施している授業

山陽学園大学

〒703-8501

岡山市中区平井一丁目14番1号

TEL086(272)6254(代表)

FAX086(273)3226

教務部

TEL086(901)0503(直通)

kyoumu@sguc.ac.jp

【事務受付時間】 平日8:45～17:00